

コスプレ×ダンジョン＝キャラクタースキル？

kikoumaster

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神宮寺彰人（じんぐうじあきと）は20歳になる大学生

趣味は元々オタク気質でアニメ漫画ゲームが好きでコスプレは大学に入ってからハマってしまい今に至る。

自分が昔、関わっていた元剣術道場でコスプレ動画撮影してた時の事…

「ダンジョンで撮影しませんか？」

とカメラマンの杏に誘われて初めてのコスプレしてダンジョンで撮影に挑む！

撮影が終わり地上に帰ってからステータスに職業コスプレヤーの文字が…

ん?! コスプレは職業って違うし、ましてやこんな職業がダンジョンで役に立つのか？

ダンジョンへ挑むコスプレイヤーカムイの冒険譚の始まり始まり

）

版權キャラが多数出る作品なので一部作品とキャラはそのまま利用します。

目次

第1話	杏チャンネルでコスプレ居合い3連十…そして…	1
第2話	コスプレ×ダンジョン×撮影の誘い	5
第3話	ダンジョン1階 初探索&コスプレ撮影	10
第4話	最強秘剣【神雷】そして…	15
第5話	とりあえずソロで…	22
第6話	ドラゴンボール芸人がダンジョンにいる噂話	28
第7話	とある女性探索者 鈴見華鈴の体験	32
第8話	コスプレするか? E級昇級試験? スキル上げ? 他は…	41
第9話	悪意の行先	46
第10話	E級昇級試験…D級へ	54
第11話	鈴見華鈴と謎の美人さんがやってきた日	68
第12話	鈴見さんの悩みと杏さん襲来	74
第13話	ダンジョンで歌が聴こえる…コスプレイヤーフレンドの 実態	80
第14話	続・ダンジョンに歌が聴こえる…	88
第14・5話	可愛いエリー	93
第15話	冥耶さんの相談とワールドトリガーのコスプレ編	98
第16話	続・ワールドトリガーのコスプレ編	105
第17話	廃倉庫の取引と…	115
第18話	????会議	123
第19話	菅生アキラさんとの打ち合わせと…	128
第20話	チャラ男を魔眼で…	132
第21話	20話までの登場人物	140

第22話	杏チャンネルへ忍び寄る影	143
第23話	m粒子とD―SEED	148
第24話	デウス(仮)ビル突入	152
第25話	事件の終わりと始まり	157
第26話	4人で探検者パーティー活動中	161
第27話	デウスレイヤーズ	169
第28話	再会と出会い	173
第29話	デウス壊滅?と巻島の頼み	178
第30話	大魔王↓神様へ…そして異変	182
第31話	モンスターパレード	187
第32話	那岐救出へ	192
第33話	那美との再会	197
第34話	秋葉原ダンジョン	202
第35話	幼馴染達は再び歩き出す	207
第36話	秋葉原ダンジョンのオーク狩り	211
第37話	オークとの激突	216
第38話	帰宅する仲間達	223
第39話	ダンジョンはそう上手くはいかない	227
第40話	フルメンバー	232
第41話	ある犯罪者たちの結末	236
第42話	女子会	241
第43話	デウス残党の暗躍とスキル検証	245
第44話	神殿転移と天界転移	249
第45話	アルテミスの正体と世界の真実	254
第46話	斑鳩ダンジョン10階層主部屋	258

第47話

対ゴブリンキング戦



第1話 杏チャンネルでコスプレ居合い3連+…そして…

『さて〜こんにちは！』

杏チャンネルをいつもご視聴していただきありがとうございます！

杏チャンネルの杏《あんず》です！

さて今から予告通りに、コスプレイヤーによる居合い斬り3連をライブにて中継します！

今日はここ元剣術道場で、今は和風カフェや撮影スタジオとして利用できる和風カフェ薫の一角を提供していただきました。』

杏と名乗る人物が自らカメラを持ち撮影しているのは、藁を丸めた3つの巻き藁を

等間隔に立ててその側には青い髪でボサボサ、ロン毛に紺のシャツにカーキ色のジーンズを履き裸足で立つ男性が1人…

腰には日本刀を差し佇んでいる。

『さて今日この居合い3連に挑戦する方は…』

まずはキャラ紹介です〜人気ダークファンタジー小説でアニメにもなっている作品、オーバードロードよりブレイン・アングラウスのコスプレにて、コスプレイヤー《カムイさん》が居合い3連を披露してくれます。

カムイさん…如何ですか？』

『はい！カムイです!!いつでも大丈夫です』

そう言うとかムイと名乗る青年は3つに並ぶ巻き藁の前に立つ。

『準備は良いですか?…ではカムイさんもと！ブレインさんよろしくお願います!!』

『行きますー!』

そう言いつつ、やや前傾姿勢のまま左に差した腰の刀を左手で掴み、右手で柄の奥を掴む。鏢を親指で押すとカチリと音を立て鯉口を切る。

『…すっ…ふっ…すっ…ふっ…すっ…ふっ…すっ…ふっ…』

3 回程、息を整えてると空気が変わり動き出す…
シュリン！

音を立てて日本刀の刃が一閃！

バサリッ！

巻き藁が切断されるが…

そのまま1本目を抜け摺足で進み、既に2つ目の巻き藁を上段に上げた刃を空いてる左手で柄を握り両手で袈裟斬りに振り下ろす！

バサリッ!!

2つ目の巻き藁も切断!!

更に摺足で抜けて…

3つ目の巻き藁を、下段に振り下ろした刃を逆袈裟斬りに振り上げる。

バサリッ!!!

3つ目切断!!!

バサリッ!!!

…がまだ空中にある藁を袈裟斬りで四段目で斬って捨て駆け抜ける。

『…ふっ…』

刀の刃を鞘に戻すと、同時に藁がガサツと落ちる音が響かせながらカチャリと音を立てながら鞘に収めてようやく止めた息を吐き出した。

『はい！ブレインのコスプレによる居合い3連もとい4連斬りになってましたね…NG無しで失敗無しの成功と相成りました!!

カムイさんお疲れ様です！4連は狙ってましたか？』

『はい！斬れそうだったのでもう一回斬ってしまいましたね…まあ何とか失敗せずに終われました!!ありがとうございます。』

『ではライブ中継はこれにて終わります。早くうちに動画編集しますのでそれも楽しみにしてくださいね…カムイさん今日はありがとうございました。うございました。では視聴している皆さん、気に入ってくれたら方はチャンネル登録と高評価をよろしくお願いします。』

杏チャンネルの杏でした。』

ライブ中継していたカメラを切って終了…

「杏さんお疲れ！」

「ええー！カムイさんも乙っす〜見事でしたね、おまけの4連斬りは反響凄いかも！」

「どうですかね？とりあえず失敗しないで良かったよ」

2人で喜んでると…

「久しぶりに良いもの見せたもらったわ〜懐かしいわね、アキちゃん」
「あ、カオルさん見てたんですか？」

このスタジオ薫の責任者のカオルさんが声をかけてくれた。

そう…俺の名前は神宮寺彰人《じんぐうじあきと》で名前はアキトだからカオルさんからはアキちゃんとか言われている。

「まだいけそうじゃない〜剣術道場をやっぱり再開した方が良いかしら？」

「勘弁して下さいいよ〜師匠から免許皆伝もらってませんから無理ですよ。」

俺は呆れながらカオルさんに答える。

元々の道場主である俺の師匠は自分が高校生3年の頃に、まだ45歳だったのに心不全でこの世を去ってしまった。

師匠は結婚しておらず子供もいなかったなので幼い頃から通ってた俺に20歳までに免許皆伝を与えて道場を俺に譲りたいと…

まあ遺言の手紙はそれを考えて俺が高校の頃には書いていたらしいのだけど…

ちなみにカオルさんは、師匠の妹で一度結婚して出戻ってきた人本来なら道場や土地など財産をカオルさんに相続されても、不思議では無いけどカオルさんはそれを拒否。

その為、2人で考えて道場を畳んで残った道場や庭を活用して和風カフェ、貸しスタジオなどに利用することにした。

カフェ、スタジオ運営はカオルさんが…俺は道場などの家屋の修繕に庭の手入れをしている。

まだ自分が大学生なので空いてる時間にしか手伝えないけど…

「あーごめんすぐに片付けるね！」

午後からスタジオ利用者がいる為、俺は慌てて残骸になった巻き藁を片付ける。

「大丈夫よ、その分、次の利用者の方には時間サービスするから心配しないで良いわよ」

そして残骸になった藁や杏さんは設置したカメラを片付けて掃除して、俺たちは玄関先を出た。

「さてじゃあ着替えて少し遅いけどアフター（昼飯）行こうか？杏さん」

コスプレ界では何故かイベント終わりなどに飯やカラオケに行くことをアフターと言う…何故かは知らないくでも普通にそれがなるんだから仕方がない。

「あ…ちよつと着替えは待ってカムイさん…」
「え？」

俺は杏さんの車の中にあるバッグに着替えがあるので普段着を着ようと止められた。

まだ撮影するのだろうか？

場所はもう無いのに…

そう不思議に思う俺は杏さんの顔を見ると…

「ダンジョンで撮影しませんか？」

杏さんは俺に提案してきた。

「ダンジョンって…アノ、ダンジョン？」

「そうアノ、ダンジョン」

こうして俺の人生で一切関わらないと思っていたダンジョンとの長き付き合いが始まるとは、その時は思っていなかった。

第2話 コスプレ×ダンジョン×撮影の誘い

「ダンジョン…」

そうダンジョンとはこの世界にとって架空の物語に出てくる存在だった

しかし1999年…

世は世紀末の只中で、人類が減びると予言された年
もうすぐゴールデンウィークが間近の春に事件は起こった。

夜0時頃に都心で謎の爆発が起こり当初、ガス爆発やテロなど疑われたが火災も小規模で夜中と言う事で、人的被害も少なく原因不明であつたが爆発の中心地であつた小さな公園に謎の穴が発見された。

最初、爆発でできた穴で陥没したと思われたが中に入って調査に赴いた者が中にこの世のモノとは思えない存在がいると報告後、警察が赴き後に自衛隊派遣となり…正式にその穴が新宿ダンジョンと呼ばれるされた

あれからもうすぐ20年になろうとしていた

ダンジョンはその間、日本各地に広がり世界各地に出現した。

そして…

「そうダンジョンですー!」

杏さんはテンション高めに答える。

「ダンジョンか…」

俺には縁の無い存在と思っていた…

まあ単に近くに無かったただけとも言っただけだな。

「あれ?最近この近くにダンジョンが出現したの知りませんか?」

「そうか!確かここから車で30分くらいのところに現れたって聞いた事があるな」

まだ半年前に出現して攻略されてる斑鳩ダンジョンって名前だったか?

そう言えば日々の生活の中で、そんな話を聞いていたけど…

いつしか忘却の彼方になっていたか…

「もしかしてカムイさんって、アスリート関係でダメなんですか？」

実は…新宿ダンジョンが出現してから半年近く経った後に、民間の一部の者や関係者が入る事が可能になると、ある情報が流れる。

それはダンジョンに入ると身体能力が上がると言う話…

それを嗅ぎつけたプロアマ問わず沢山のアスリートがダンジョンに入り能力を向上させ大会で、それまでの世界記録を簡単に塗り替えるといった出来事が多発した。

当然、反発が日本内、問わず世界各国の非難が殺到した…そしてダンジョンに入った事が判明した多くの才能ある選手達が永久追放や処分を受けて消えた事件がある。

「そんな事無いよ…単に近くに無かったし特に特に関心も無かったからね」

以前は、東京等の関東方面にしかダンジョンは無く、わざわざダンジョンに潜りに行く事も考えた事は無い。

「なら大丈夫ですよね？」

杏さんはホツとした顔で答えてくる。

「でもそんな簡単に入れるの？」

「確か1階だけなら仮登録すれば入れるはずですよ」

杏さんにそう言われて少し考えてみたが考えるまでもないか

「…分かったよ、行ってみようか？」

「とりあえず昼休憩してから行きましょうよ」

俺達はカオルさんに、挨拶してから杏さんの車に俺は便乗してとりあえずファミレスで昼食食べてからとなりました。

勿論、コスプレのまま移動も困るので革ジャン羽織ってウィッグも外さないでバンダナを巻いて行く事に…

ファミレスで遅い昼食を食べながら、さつき撮ったライブ動画を確認したり感想を眺めたり…

探索者の動画でコスプレがあるか？と思い検索するが服だけ着た、何ちゃってコスプレばかりで女装がやたらと目立っていた。

魔法少女とは名ばかりで、どうみてもオッサンが服着てる感じで…

他にはファンタジー系コスプレと銘打って動画が掲載されてるが…
単に探索者用の鎧を着てオリジナルコスプレと銘打ってるが、あんまし面白みのない動画となってる。

探索者でコスプレってのは、やはり命の危険がある空間では難しいのであろうか？

一応、剣技などの探索者のスキルなどの動画は沢山、見られるが…俺が見たい日本刀による剣技は無く、西洋剣ばかりで日本刀で活躍してる探索者の動画は皆無だった。

一応、刀を使う探索者もネット検索すると出てくるが動画とかは上げてないらしい…

ファミレスを出ると早速、斑鳩ダンジョンへ向かう。

30分程かけて車で移動して目的地に着く…駐車場もあるし大きなプレハブだが2階建てで、その2階が受付らしい…

2階の事務所らしき扉を開けて中に入ると数人の事務員らしき女性が仕事をしていて、受付と書かれたカウンターへ…

すぐにこちらに笑顔で女性が挨拶してきた。

「いらっしやいませ〜探索者協会へようこそ！今日はどの様なご要望でしょうか？」

「すみません、ダンジョン初めてで入りたいんですが…大丈夫ですか？」

杏さんも慣れてないのか緊張気味に受付した事務員さんに聞く。

「お2人とも初めてでしょうか？ではまずこちらのパッチシール貼って下さいね…適性があるか判断しますね」

そう言う俺と杏さんの腕にシールを貼る。

このパッチシールはある物質がダンジョンにあるので、アレルギーが無いかチェックするものだ。

1分程してシールを剥がすと特に炎症痕も無く2人は問題無いと判断されたらしい

「では、こちらの書類に記載していただき、判子をお持ちでないなら母印で大丈夫ですので…」

俺達は書類を貰うと空いてるフリーデスクで名前、住所、電話番号、職業などの基本的な個人情報を書く：

最後にダンジョン内での事故などは、自己責任でダンジョン管理会社へ請求しないと言う誓約書の記載がある。

今回は仮登録になる為、この様な待遇になるが本登録した場合、登録料を払いさえすればダンジョン内のトラブルに対して対応（救助）してくれるらしい：

俺達は記載した書類を事務員さんに渡してチェックしてもらい最後に：

「受理致しました…こちら仮登録カードなので、首に下げるか鞆の中に入れて置いてくださいね。」

紛失すると再登録は有料となりますので注意してくださいね。

あと仮登録なので1階だけです、もつと下に行きたい場合は有料で護衛を付けられますが…どう致しますか？」

護衛は後払いで1時間1万円らしいが…

1階でも深くは立ち入る気はない為、杏さんと事前に話し合っており

「護衛はいいです。」と断る。

「分かりました…時間制限などは無いので、ごゆっくり楽しんで下さい。」

事務所から離れた小屋に行きながら…

「楽しむって…楽しむののかな？」

と俺は杏さんに聞くが…

「楽しみましょう！」

杏さんはやる気充分らしい

少し離れた小屋に入ると…

そこはこれまでダンジョン探索の際に使わなくなった武具が置いてある。

売っても二束三文にもならない…がダンジョンに入る際の武器として棍棒代わりとして保管してある。

錆びてたり折れてたり刃がボロボロだったり廃棄用の武具の反対

側にまだ使えそうな武具が少なく無いが置いてあり無料で貸し出している。

杏さんは元々戦う気はない為かそんなに重くない片手の棍棒を…

俺は真剣の刀がある為、西洋の片手剣でも持っていこうと考えていたが…

(ん？この武器は…)

それはどう見ても日本刀だった。

見た目はボロいが鞘から抜くと…やはりボロボロな刃でどう見ても切り付けたら折れる可能性が高い

(しかし何故だろう…こんなにボロボロなのに握るとしっくりくるのは？もしかして業物か？)

とりあえず持つて行く事にする…

いよいよダンジョン撮影会の始まりだ！

第3話 ダンジョン1階 初探索&コスプレ撮影

そこは神社で見る鳥居の門みたいなものが入り口に設置されており、小さい小屋には警備員が待機しているみたいだ。

俺達が近付くと小屋から出て軽く会釈をして

「ご苦労様です！カードを見せてください。」と元気に応対してくれる。

俺達はさつき貰ったカードを見せると…

「はい、ではお気をつけてくださいね。」

そう言うともまた小屋に戻って行く。

「いよいよダンジョンだね」

「はい…ワクワクしますね」

杏さんはやる気だな！

ダンジョンの入り口の階段を降りるとあまり暗くなかった…もつと暗くジメジメした湿気とか想像していたがまだ地上からそんなに離れてない為か気にならない。

俺の格好はバンドナを外して革ジャンは車に置いてオーバーロードのブレインのコスプレのまま、刀は一応いつも持つてる自前の刀を…

刀バックにはボロボロな刀を予備として…

杏さんは棍棒を腰のベルトに刺していつもイベントでカメラマンする時の格好、バンドナして眼鏡かけてチエツクのシャツを羽織、ジーンズを履き背中にはリュック、肩に動画用の小型カメラ、首からは一眼レフカメラを下げたフル装備…

ん？防御力2人とも無いに等しいなあ

まあ、あの小屋にあった防具はサイズが合わなかったし盾はあったが、俺は使わんし杏さんの細腕では持てないからな…

どのみち危なくなったら逃げる予定だしな…

とりあえず1階のマップをコピーして貰ってるので角のある所まで行く事にする。

杏さんは動画を撮りながら俺をカシャカシャと写真を撮っている

「ん〜良いっすね…やはりダンジョンでブレインは似合いますよ！」
かなりテンション高めになっている

そう言う俺はと言うと…

(変だな…入り口入るまでちよつと緊張していたのにこうやって歩いてると、どんどん冷静になっていくのが分かる)

そして…

【兆し】 発動

(いるな…初接敵かこれは?)

「杏さん…角にいる」

「…え?!もうですか?…ってか何で分かるんですか?」

(そうだ…何でわかるんだ?)

俺は左手で鞘を握り右手で柄を掴む…

(師匠…俺おかしいのかな?怖さより何か…変だ…俺)

どンドン冷静に頭が冷えていくのを感じる…

角まで2メートルの距離に達すると小さな音が聞こえた…獣の持

つ特有の臭いと言うか気配なのだろうか?

俺はいつでも刀が抜ける様にここから摺足で近付く…

《グワーオオ!》

叫びながら襲いかかってくる!!

(犬?狼?いや犬獣人《コボルド》だ)

コボルド…ファンタジー世界の代表的なモンスターでこのダン

ジョン内では1番弱い存在である。

俺は自然に刀を抜き、飛び掛かってくる存在を斬る!

ザシュー!!!

スローモーションの様に刀は相手の胴を薙ぎ斬り裂く!

犬獣人は自分に何が起きたのか分かって無かったのか口を開けて俺の首、目がけて飛び掛かった…

つもりだったが斬り裂かれた事すら認識せずに絶命する。

どさり…

そして身体は少しずつ煙も出ないのに消滅していく…最後には小さな石となつていった。

俺はその石を拾った…

ふう〜初討伐だな！

多分、これが魔石だなくまあこの小石程度だと100円いけばいいか？

「…おおお…すげーっす」と言いながらカメラをフルオートなのかバシャバシャとシャッターを切りながら目前の光景に目を奪われた杏さんだった。

「迫力が違うっすよ！」

俺は血糊が付いて無いが刀を振りそのまま鞘に収めて一息つく…

カチャリ

「ふうー」

(不思議だ…初めて生きた存在を斬ったというのに感触がおかしい…

何でこんなに冷静に斬れた？

相手がモンスターだから？)

正直、一瞬混乱し始めたが…

「大丈夫ですか？カムイさん？」

杏さんが俺の顔を覗き込んでくる。

「あ…あく大丈夫です…そう大丈夫なんですよね」

(俺は冷静だ…平気だ！)

「そうですか！次、次行きましょ！次は…そうですね剣の結界を張ってる感じで構えてくださいね〜後でエフェクト付けて写真あげますのでー」

(剣の結界か…確かブレインの剣技だよな…ん？何だ…【円展開】？)

【円展開】はブレインの剣技の一つで、本人を中心に三メートルの範囲内で極限まで攻撃命中率と回避率を上昇させ、不可視となつていても存在を発見できる。

ブレインのオリジナル剣技。

(あれ？何か…これはもしかして【円展開】なのか…)

俺の目の前に円展開の気と言うか3メートルぐらいの辺りまで立

ち昇って見える。

「どうしました？」

「あく大丈夫だよ」

(多分説明しても無理だよな…)

また少し歩いて行くと…

【兆し】発動

いた！

また犬獣人だな…よし！

「構えますので、撮影よろしく!!」

再び居合いで刀を抜く為に、柄と鞘に手を添えながら歩いて近付いていく。

そしてこちらに気付いた犬獣人は獲物を見つけた猟犬の様にこちらに走ってくる…

俺は腰を据えて迎え撃つ！

円展開した結界に入った瞬間を待つ…

そして、犬獣人の身体が結界に入った瞬間！

俺の思い描いた技が発動する…

剣技【雷光閃】

稲光の様に刃が伸びて犬獣人の首筋へと消えていく…

《ゴウウウー!》

と言う音と共に身体が弾けて消えていき、小さな石になって消滅する。

秘剣【轟雷】

絶対必中の【円展開】と神速の一刀【雷光閃】を併用し、対象の急所“頸部”を一刀両断する。

対象が頸部を斬られて声にならない漏れる音が、雷が落ちた様な音となるので轟雷と名付けたとのこと。

(やはり使える…しかし何でブレインの剣技が使えるんだ?)

「ねえ…カムイクン…今のって、もしかしてブレインの技なの?」

杏さんは恐る恐る聞いてくる。

「そうだね…ブレインの剣技の一つ、秘剣【轟雷】だね」

「もしかして今、覚えたの？」

「分からない…でももう一つ試したい剣技があるんだ。杏さんももう少し付き合って欲しい」

「勿論よ！こんな凄いのまだまだ見たいもの!!」

杏さんは興奮気味に答えてる…かなりハイテンションだな。

俺も心が躍るぐらいハイテンションだね。

そして1階の真ん中を辺りを過ぎたところで犬獣人では無い存在がいる事に気付く…

あれは邪妖獣人《ゴブリン》？

いや、ゴブリンの上位種の大邪妖獣人《ホブゴブリン》だ…

第4話 最強秘剣【神雷】 そして…

1階層にいるレベルでは無いモンスターのはずだが…
考えても仕方がない。

「杏さん…もし危ないと思ったら逃げてね…頼む…」

「…うん、分かって…るよ」

杏さんの言葉を聞き、俺は再び鞘を握りながら近付く…

特に構える事なく自然体でゆつくりと…

【円展開】を張りながら…

《ホブツー!?ゴワー!》

俺の存在に気が付いたホブゴブリンも、また躊躇う素振りも見せず
に突進してくる。

ドツドツドー!!

コボルドに比べて大きな身体をユサユサと揺らしながら…

そして今、結界に入ったホブゴブリンに向かって発動する!

剣技【雷火4連】!!!!

一撃を振るう刹那に、敵に四度の斬撃を叩き込む神速の剣技。

その全ての攻撃がホブゴブリンに叩き込まれる!!

《グオワアア》

雄叫びを上げながらデカイ身体はまるで無かったかの様に消えて
コボルドの落とす石より大きな石となって地面に落ちていく…

最強秘剣【神雷】

絶対必中の【円展開】と神速の一刀【雷光閃】を併用し、さらに【雷
火4連】を放つ技。絶対命中にして超高速の同時四連斬撃。

元々、ブレインは雷火4連は使えたがライバルであるガゼフの編み
出した技という事で封印していた剣技…

しかし全てのしがらみを拭ったブレインが生まれ変わって編み出
した最強秘剣となる。

少し大きい魔石を拾いながら…

「今日はこれで終わりますか…写真も動画も充分ですよね？」

「はい！沢山撮れたからホクホクですよ！カムイさんも、初めてで疲れましたか？」

「いや…まだいけそうだけどね。だけどステータスが気になってね…何でブレインの剣技が使えるのか気になってね。」

「確かに…では戻りますか！」

その後、モンスターに接敵する事なく出口に付き事務所へ赴く…

2階に上がり事務所に入ると

「あくお疲れ様です！初めてのダンジョンは如何でしたか？」

「はい、色々良い勉強させていただきました…それでそのステータスを確認したいんですが…」

「それならそのフリーデスクに設置してあるパソコンの読み取り機にカードを載せて、データを吸い取ればステータスの確認ができます。」

「ありがとうございます。」

2人で座ってパソコンの前でステータスの確認をしてみる事に…

とりあえずステータスでもスキル系が気になるので他は後で確認するとして、スキルを見る。

「やはりか…」

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー LV05

生命力：117

精神力：68

攻撃力：72

回避力：83

筋力：38 〈Lv5+キャラ1+SLV6〉

器用：34 〈5+1+6〉

敏捷：45 〈5+1+6〉

知力 : 27 (5+1+6)

魔力 : 41 (5+1+6)

ブレイン・アングラウス (キャラクター使用中)

生命力 110 / 117

精神力 15 / 68

武器 日本刀 (無銘) : 攻撃 + 80 (Lv5 + SLV15 + LV0)

9 + 攻72) : 攻撃力 : 187

防具 無し : 防御 ± 00 (Lv5 + SLV15 + LV0)

9) : 防御力 : 029

: 回避 ± 00 (Lv5 + SLV15 + LV0)

9 + 回83) : 回避力 : 112

スキル

戦闘スキル

・ 夢双一刀流刀術 Lv09

・ 夢双一刀流槍術 Lv07

・ 夢双一刀流拳術 Lv03

コスプレイヤースキル

キャラインストール (ギフト) (1)

・ オーバーロード

ブレイン・アングラウス (集中力)

クリエイト (回数6回)

・ ブレイン (未) (刀、鎖着、首飾、指輪、鞆)

キャラクタースキル

・ ブレイン 我流刀術 Lv06

兆し (危機感知)、円展開 (派生)、雷火、身体向上、雷光閃 (轟雷)、

雷火4連 (神雷)

やはりアングラウス我流刀術が入っていた:

なるほど自分の取得した技術もそのまま利用できるのか:

刀は9レベル:10レベルでないのは免許皆伝が貰えなかったからか?

槍が7レベルか：以外と高いか

元々門下生が槍を教わりたくて無理矢理、師匠に付き合わされたからね。

そして拳術はレベル3：組打ち技、無手での稽古は偶にしかやらなかったからな。

しかしそれよりも：だ：何だよ？

この職業コスプレイヤーって？

コスプレイヤーは遊びであって職業じゃないしな：

俺はマウスで、職業コスプレイヤーをクリックするが

【error】と画面に表示される。

ん？error？

スキルが表示されない？

気になって他の刀術辺りのスキルをクリックすると、普通に剣技は表示されて詳しい詳細が表示される。

「これは…errorが表示って、スキルがまだ見つかってないんでしようか？カムイさん！」

「かもしれないな：すいません！エラーが出てるんですが…」

俺は事務員さんに声をかけてそれを聞きつけた先程の事務員さんがやってきた。

症状を説明すると

「あれ？本当ですね〜もしかしてレアスキルですかね：少しお待ちくださいね」

そう言うと言務員さんは何やら偉い人ぽい方に話をして

「お待たせしました！こちらの会議室へどうぞ」

と言って俺達を案内してくれた。

安藤さんと言う事務員さんはその椅子に座って下さいと指示して、彼女は機器を集めて俺達の所へ運んでくる。

そして機器を立ち上げると

「すいませんが、そちらの丸い物体に手を置いて下さい」

まあ特に危険はないだろうから普通に指示通り手を置くこと…

「ああやっぱり！まだ未登録スキルですね…しかしコスプレイヤーとして仮装するアノコスプレの事ですよね？」

と至極真つ当な答えを語りかけてくる。

曖昧に答えるしか無いがその通りだしな…

「ですかね？」

「表示されました〜ご確認をお願いします」

ノートパソコンを渡されてとりあえずコスプレイヤーをクリックすると…

「コスプレイヤーとは…好きなキャラクターの格好をする事で、キャラクタースキル（技、道具）が使ってより本物に近づく事を目指す職業」

…???

何だこの頭の悪い設定は？

いや！

確かに頭が悪そうに見える設定だがこれで実際にスキルが使えるなら…

悪くない?!

スキル【キャラインストール】をクリックすると…

コスプレしたキャラクターをインストールして何時でも着替えられます。

うん…次！

【クリエイト】

コスプレしたキャラクター固有の道具や武具を作成できるスキル
取得したスキルならいつでも製作可能

つまりこれはコスプレしたキャラクターで経験を積んでスキルを獲得し、技としてのスキルとそのキャラ固有の道具や武具を製作できる。

結構ヤバくない？

アングラウス我流刀術がレベル6だと作れるのは…

【刀、鎖着、首飾、指輪、鞆】かな〜

刀は魔法特性が無いけど魔法剣並みの切れ味を持つ名刀、護神刀。首飾は任意で発動させ、発動中は盲目耐性・暗視・光量補正等々。目に関する効果を防ぐ力を持つ。

魔法の指輪は任意の魔法を入れておく事ができる。

鞆は…

ポーション、解毒薬、攻撃力増加ポーション、回避力増加ポーションが入った薬鞆

それぞれ陶器の中にあるポーションは一回使うと24時間、経たないと補給されない…補給?…え?自動的に…

(薬鞆、何か頭痛くなってきたな…これ他の作品のコスプレでスキルレベル上げたら…)

「あのカムイさん…大丈夫ですか?」

杏さんは俺の顔を覗き込む様に心配してくれてる。

「は!あ、すいません大丈夫です。ちよつと考えて事をしてしまつて…あ、あの安藤さん」

「はい!何でしょうか?」

「そのスキルの全容つて協会に伝えないといけないのでしょうか?」

「そうですね〜面倒事に巻き込まれたく無い方や目立ちたく無い方もいますし、取得者非公開とかはよくあります。」

「じゃあその非公開で頼めますか?」

「分かりました〜それで神宮寺さん、立花さんは仮登録から正式登録へ変更とできますがどうなされますか?」

「立花さん?」

ふと隣を見ると杏さんは、はい私ですと手を上げていた。

「ごめんね杏さん…」

「まあ別に隠していた訳でもありませんし…」

オタクあるあるなのだがお互いに本名を知らないで、何年も友人付き合いがあるのは良くある事…

中には敢えて隠してる人もいるので難しい問題ではある。

まあこんなやりとりの後、俺は正式に探索者としての登録となる。

杏さんは保留との事で、今回の自分のスキルについても非公開となる。

その後は事務所を出た俺達は車での帰路となる。

「今日は杏さん、ありがとう…：こんな世界があるとか初めて知れて嬉しかったよ。」

「いえいえこちらこそ楽しい撮影で良かったです！次も楽しみだな」

(次か…：とりあえず帰ったら色々試してみるか！)

第5話 とりあえずソロで…

剣技【牙斬】！

ズッバシューー!!!

不可視の斬撃が7m離れてるゴブリンに当たると、そのまま悲鳴を上げる間もなく、消えていき魔石となって地面に落ちる。

剣技【牙斬】はブレインの剣技ではなく新しくキャラインストールしたエルヤー・ウズルスの技だ…

昨日、帰宅後に今着れるコスプレ衣装や小道具をかき集めた、うちの一つ

まあ、このキャラクターはブレインと同じくオーバーロードに出てくる刀を使う剣士で一度、併せの為に着たキャラなんだが…

併せとは？

「関連性のあるキャラクターのコスプレを一緒にすること」と言う事で…

知り合いに頼まれてエルヤー・コスプレしている自分と、劇中でエルリーの奴隷であるエルフ3人娘のコスプレイヤーと、スタジオ撮影の為に用意したものである。

作中、同じパーティメンバーである彼女ら奴隷エルフ3人娘に暴力を振ったりセクシャルな事ばかりする嫌な男であるエルヤー…

倒れてるエルフ娘を足蹴にしたり、ウィツグが外れない程度に髪を引っ張ったり、胸にプラスチックで作った胸を嵌めて胸を掴んだり揉んだりするシーンを撮ったりして…

そして最後には両腕を切られ顔を潰されたとして血糊を顔に塗って倒れてる自分に、エルフ3人娘がゲシゲシと蹴るシーンを撮ったりとなかなか撮影となった思い出が…

まあ作中の行動や傲慢な性格も相まって好きでは無いキャラクターであるエルヤー…

それはキャラインストールにも反映されてスキルレベルが1だったり…

ブレインなんか最初からレベル5を超えていた事を考えて、自分の

好き嫌いがレベルに反映されてるらしい。

もう一つはドラゴンボールのピッコロ大魔王の2代目へ魔Jrの
コスプレをしてキャラインストールしたら…レベル4あつたので間
違い無く関係あるだろう。

つまり嫌いなキャラクターはレベルが低く、好きなキャラクターは
レベルがまあまああるようで仮説としては成り立つのである。

身体に何か違和感が起こる…

(あ…スキルレベル上がったか?)

俺はスマホを取り出して探索者用アプリを立ち上げて自分のス
テータスを確認する。

ダンジョン内で踏破されてる階層にはWi-Fiをm粒子に変換
して利用できる魔道具が階段に設置されてるので、今の階層は3階層
には余裕で設置してある。

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv07

生命力：153

精神力：092

攻撃力：096

回避力：107

筋力：050 <Lv7+キャラ3+SLv12>

器用：046 <7+3+12>

敏捷：057 <7+3+12>

知力：039 <7+3+12>

魔力：053 <7+3+12>

エリヤー・ウズルス<キャラ使用中>

生命力：81/153

精神力：42/92

武器 神太刀 …攻撃+120 (Lv7+SLv11+Lv09

+攻096)：攻撃力：243

防具 胸当、籠手：防御+60 (Lv7+SLv11+Lv0

9)

：防御力：086

：回避±00

(Lv7+SLvl1+Lv0

9+回107)

：回避力：134

スキル

戦闘スキル

・夢双一刀流刀術Lv09

・夢双一刀流槍術Lv07

・夢双一刀流拳術Lv03

コスプレイヤースキル

キャラインストール〈ギフト〉(3)

・オーバードロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

・ドラゴンボール

ピッコロ大魔王 魔Jr. 〈同化〉

クリエイト(回数4回)

・Original 〈アイテムボックス〉

・ブレイン〈護神刀、鎖着、葉鞘〉(未)首飾、指輪

・エルヤー〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未) ■

キャラクタースキル

・ブレイン 我流刀術 Lv06

兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟雷)、

雷火4連(神雷)

・エルヤー 我流刀術 Lv02

牙斬、★縮地

・魔Jr. 魔王拳術 Lv04

爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手

どうやら縮地を覚えたようだな。

【縮地】は足を動かさずに瞬時に前後へ移動する技。

エルヤーにはギフト〈天賦〉がある為、通常より少ない戦闘経験値でスキルレベルが上がるらしい。

：にしてもクリエイトで作れる項目で、黒く塗り潰されてるところがあるのだが、果たして何か条件があるのだろうか？

スキルアツプを頑張れば分かるかな？

あとネットで検索するとアイテムボックスとか言うスキルがあつて荷物が多くても異次元に収納できる為、便利と書かれていて試しにクリエイトで作成したところ、無限に収納できるわけでは無い様だが、車1台分は入れておけそうだし

これだけあれば今のところ困らないだろうなく拡張もできるようだしクリエイト様々だな！

さて、ここら辺りなら人も通らないからピッコロさんにキャラ変更するか？

いや〜流石にブレインやエルヤーは何とか誤魔化せるがピッコロ大魔王はコスプレかモンスターと間違えられる可能性があるから、人気の無い場所でレベル上げするしか無い。

【兆し】を発動して周囲を探索…

いた！

この階層はゴブリンやホブゴブリンが中心だ！

【キャラインストール】ピッコロ大魔王 魔Jr

ピッコロ大魔王 魔Jr 〈キャラ使用中〉

生命力：81／153

精神力：42／92

武器 無手

：攻撃±00 (Lv7 + S Lv7 + Lv

03 + 攻96)：攻撃力：113

防具 ターバン&肩当マント 防御+30 (Lv7 + S Lv

7 + Lv03) 防御力：047

：回避±00 (Lv7 + S Lv7 + Lv

03+回107)：回避力：124

スマホで確認するが：攻撃力が激減するなあ〜拳術レベルが低いし倒せるのか？

まあ〜1度やってみて無理そうならブレインでやればいいか…

いくぜ！【魔弾】！

離れてるゴブリンに右手からエネルギーの塊を放つ！！

ボフー!!!

《ギャー》

ゴブリンの苦しむ声が聞こえる…

【縮地】のスキルを発動！

凄いスピードでゴブリンに接敵してそのまま腹にジャンプキックをお見舞いする！

「せりやー！」

《ゴツボオー》

腹に食らった一撃で吹っ飛ぶところをく

【魔手】発動

飛んでくゴブリンの足に、魔手の見えない手が掴む。

そのまま同化を発動する。

【同化】

ゴブリンはそのまま魔石になって消えるく

ついでに魔手で魔石を掴んで自分の手に収める。魔石、掴んだ手は俺の手元に収まったんで、アイテムボックスに収めてスマホでチェックする。

生命力：159↑153

精神力：094↑092

攻撃力：100↑096

回避力：111↑107

筋力：052↑050+2

器用：048↑046+2

敏捷：059↑057+2

知力 : 040↑039+1
魔力 : 054↑053+1

これが同化か…

【同化】はピッコロさんの種族であるナメツク星人が使える能力で、本来は仲間である同種族内であるナメツク星人が行う融合の事。

肉体とエネルギーとを同化させることによって2つの個体が結合する。融合によって能力を総合し、強化を図ることが可能。

まあ、これは劇中のお話でこの同化は、少し違う。まず相手が敵対してる場合、無理矢理に力を奪う為、まず瀕死状態にして初めてできる技。

100%吸収できなくてレベルが低いと、1ポイントぐらいしか吸収できないし身体的な能力のみの吸収となる。レベルが最高になっても、5ポイントしか吸収できない。しかしステータスの成長には十分だし今、自分はレベル4なので最大2ポイント吸収できる。

まあ仮に死にかけてる人間にこの同化を使えば同じ事ができるし融合できるが…人の存在を消すのに等しいから使う事は無いけどね

あと【魔手】は劇中では腕や足が伸びるのだが、流石に人間には無理なのか？このスキルは透明な手が代わりに伸びていく。

この後、ゴブリン3体、ホブゴブリン2体倒してその日は終了する

次はどのコスプレをインストールするかな？

第6話 ドラゴンボール芸人がダンジョンにいる噂話

とある探索者達の会話

『なあ〜聞いたか？ドラゴンボール芸人がダンジョンにいるつ話』

ドラゴンボール芸人とは…

漫画原作でアニメにもなり世代を超えて何十年も愛される作品…

人気作品で有名な為か、お笑い芸人でコスプレしてる芸能人もいてお茶の間で活躍してる人たちの事をドラゴンボール芸人と呼ぶ…

『俺、この前見たぜ！悟空《ゴクウ》がダンジョンの中、歩いてたぜ〜TVのロケかな？』

孫悟空《ソングクウ》はドラゴンボールの主人公で武闘家…物語は少年期、青年期と分かれていて結婚して子供もいて、実は宇宙人『聞いた聞いた〜何でも身長180cmぐらいのクリリンが歩いていて爆笑したって知り合いが言っていたぜ』

クリリンは悟空の仲間と同じ武闘家の門下生で、少年期からの修行仲間

髪の毛を剃っていて鼻がなく少林寺拳法にいそうなルックスで身長は低い

劇中では人造人間の女性と結婚して子供もいる。

『ピッコロを見たって奴もいるけど仕事とは言え、よくダンジョンまで潜れるよな』

ピッコロは元々、封印していた大魔王として蘇って少年期空冴の宿敵だったのだが悟空が倒した寸前、大魔王の力の全て宿した卵を逃して再び青年期の悟空と戦い、なんやかんやあって敵だったのだが悟空の子供と仲良くなってからは地球を守る仲間となる。

実は昔、神様と大魔王で分かれていて宇宙人、ナメック星人だったと言う設定

神様はドラゴンボール（龍玉）と言う7つのボール集めると願いが叶うと言う不思議なボールを作った存在。

『でも何で芸人がダンジョンに入ってるんだらう?』

正体は不明で本当にドラゴンボール芸人なのか、真偽不明のまま噂話ばかりが先行していた。

…とそんな噂話をしながら通り過ぎる探索者の皆さんの横を反対から、通り過ぎる噂話の元凶

そう当然の事ながらドラゴンボール芸人では無くて俺、神宮寺彰人がダンジョン内でコスプレして活動していたのだった。

(やはり噂話になってるな…目立つよなコスプレって改めて思うわ)

普段は探索者専用のショップで買った値段が安い服装にマントなどの装具、刀はブラインの護神刀を装備している。

まあ基本的にソロでコスプレしたキャラクターで戦ってるから大した装備は必要無いのである。

あれから更にスキル「コスプレイヤー」を研究してみたが、以下の事が分かった。

・キャラクター固有の必殺技や道具をスキルを上げる度に習得していきそのキャラクター固有のスキルを取得してればコスプレしなくても使える。

・コスプレしたまま、「キャラクター」するとキャラを記憶して衣装やウィッグなど用意しなくても瞬時に変わる

・スキルで作ったアイテムはそのキャラクターでなくてもスキル名を呼ぶだけで出現して利用できる(ブラインの薬鞆など)

つまり一度、記憶すれば解除しない限りそのキャラの格好でいられる…ある意味、荷物要らずでコスプレできる。

ただ欠点としては背の低いキャラクターでも自分の身長(179cm)が基準になる為、不自然なバランスになるのが少し不満なのと服が破れたり破損した場合はそのままなので「クリエイト」かまたコスプレ衣装を着て「キャラクター」し直さないといけないのが面倒臭いところ。

悟空、クリリンは衣装自体はネットで買って、ウィッグとハゲヅラを用意して作成したんだよな。全部着用してからキャラインストールしたので、今は自然な感じでコスプレとは思えない。ハゲズラなんて本物の皮膚みたいな感触だったな。

悟空は流石主人公。Lv05まで上げたがとにかく戦闘向けのスキルが多く気配感知にかめはめ波、気合砲と元気玉、界王拳と近中遠距離とバランスが良い。

クリリンは悟空と同じ戦闘家だけどサポート支援向け寄り。

とは言え【不意打ち】の特性で放つ攻撃は空刃、ピッコロを軽く凌駕する、拡散双気弾、気円斬と戦闘向けの技も多い。

さて今日はこれで上がって溜まってる用事を片付けないとなくダンジョンばかり入ってるからな。

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv15

神宮寺彰人（キャラ未使用中）

生命力 381 / 445

精神力 142 / 283

武器 護神刀 : 攻撃+100 (Lv15+Lv9+攻289) :

攻撃力：413

防具 マント : 防御+05 (Lv15+Lv9) : 防

御力：29

:回避±00 (Lv15+Lv9+回30

1) :回避力：325

スキル

戦闘スキル

・ 夢双一刀流刀術Lv09

・ 夢双一刀流槍術Lv07

・ 夢双一刀流拳術Lv04

コスプレイヤースキル

キャラクターイラストル〈ギフト〉(5)

・オーバードロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

・ドラゴンボール

孫悟空 〈能力向上〉

ピッコロ大魔王 魔Jr 〈同化〉

クリリン 〈不意打ち〉

クリエイト(回数11回)

・Original〈アイテムボックス+1〉

・ブレイン〈護神刀、鎖着、葉鞘+1〉(未)首飾、指輪

・エルヤー〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・孫悟空〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー

・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未)■

・クリリン〈(未)■〉

キャラクターズスキル

・ブレイン 我流刀術 Lv06

兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟雷)、

雷火4連(神雷)

・エルヤー 我流刀術 Lv03

牙斬、縮地、牙圓斬亀仙

・孫悟空 亀仙拳術 Lv05

気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元氣玉

・ピッコロ 魔王拳術 Lv05

爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法

・クリリン 亀仙拳術 Lv04

気配(遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾(追尾弾)

第7話 とある女性探索者 鈴見華鈴の体験

ヒュー

ヒュー

ヒュー

(もう…限…界も…う死…ぬ…こん…な…と…)

意識…がもう…う…

こっ…ち…くる…な…いやだ…帰りた…いよ…お母…)

目の前にはオーガが3体、動けない探索者2人…

私達は必死になって階段を目指していたところを不意打ちを喰

らって吹き飛ばされて相手の冥耶《めいや》は意識を失ってしまった

…

私も身体に力が入らない。

冥耶も全然動こうともしていない。

ポーシヨンも、もう無い…

他の3人は逃げれたのだろうか？救援を頼むにしてもこっちはも

う間に合わない。

この後、自分がどうなるか考えなくても分かるだろう。

オーガの手が伸びてきて…

もう駄目だ…と

そう諦めかけていたとき…

私の身体は靄？雲みたいのに乗せられて浮かんでる感覚を感じて

いた時！

突然、目の前のオーガ達が白い光線が襲う！

『【界王拳】！「かめはめ波」!!』の叫びと共にオーガ達に眩い光の光

線がブチ当る!!

ふと気がつくとも目の前に男性が立っていた。

(この後ろ姿は…まさか悟空?!ドラゴンボールの悟空なの?…え?!)

この後ろ姿は漫画やアニメでよく見た光景だ…

アニメでよく仲間を助けに来た、アノ子供の頃に観たドラゴンボー

ルの悟空だ…え?コスプレ?本物?

『【不意打ち】発動したのに…流石に一撃で倒せんか？なら【界王拳】一
2倍だあー!!』

紅いオーラを纏った悟空がオーガに突進していく!

オーガの一体に蹴りをくれて反動でくるくる回転しながら踵落とし、最後の一体に肘打ちを顔面に叩き込む。

かろうじて動きが見れたがそれは遠くから俯瞰して見てたからに
違いない。

『もう1回だ!・【界王拳】!!【拡散双気弾】!!』

再び紅いオーラを纏って両手から大きい光線が飛んでいく

オーガに当たる瞬間、悟空は『ハアア』と両手を上げて気弾はオー
ガの頭上の上空に!

『ハアアアアアア!』

そのまま振り上げた両手を今度は下に向けた。

その瞬間、気弾は3つに分かれてオーガに着撃する!!

ドゴーンイイイ!!

オーガ3体は黒焦げになって…

あ…1体まだ動いてる?

『流石だな、見た目以上のタフさだな…もうこつちも力が残り少ない
な…これでトドメだ!【雷王拳】!!』

今度は黄色くスパークした雷みたいなモノが身体全体を覆う…

(あれって劇場版のオリジナルの界王拳?確か昔、動画で見たような

…本当、悟空だ…)

私はそこで意識が途絶えた…

「どうだ?聞こえるか?」

私はこの声でようやく覚醒してみたみたいだった。

そう聞いてきた人の顔を見ると悟空では無くて男性の探索者だっ
た。

「これポーションだけど、ちよつと飲めば効くからゆつくり飲んで…」
そう言うのと陶器の瓶を口に押し当てられる…ちよつとの量を呑む
と…

瞬時に身体の気怠さが軽減された。まだ疲労感はあるがさつきよりは良い。

「大丈夫か？」

「あ、はい！だ、大丈夫です」

「ポーション1本しか無いんでなくもう1人にも呑ませないとな」

そう言つて彼は相方にも呑ませようとする。

まだ相方は目が覚めてないが、彼は口に瓶をつけて、ほんの少しポーションを呑ませる。

身体全体に青い光が灯つてすぐ消えたが、顔がさつきより赤みを帯びている。

「彼女は覚醒しないか…君は立ててそう？」

私はそう言われて立ち上がろうとして足首に激痛が走る！

「痛あー！」

私は思わず右足首に手を当てる…そういえば倒れた時に捻ったかもしれない。

「足首が痛いのかな？靴脱がすね」

彼は私の靴を脱がして靴下の上からポーションの液体をかける。

さつきまで痛かった足首から痛みが消えていく

(そのポーションもしかしてめちやくちや高いヤツ?!)

ほんのちよつと呑んだりかけただけでこんなに回復するんだからハイポーションかも?!

まだ5階層で活動している自分達にとってハイポーションはまだ手が出せない代物だ…

せいぜい安い三流品のポーションが限界だ…

「すいません…そんな高そうなポーションを使わせてしまって…」

私はまだ名も知らない男性に謝るのだった。

「あく大丈夫…も、貰い物だからさ…ははは(次の日には補充されるし)」

彼の顔が引き攣ってる。

(やっぱり高いんだ)

「すぐには返せませんが、必ずお返しします…：そうお名前を聞かせて下さい！私は鈴見華鈴《すずみかりん》です!!D級です!」

「あく神宮寺彰人です…：まだF級です。」

(え?!ここ5階層のはず…：見たところソロのようだけどソロで潜るにはC級は無いと難しいはず…：何故?)

「あくまだ更新してないからね…：ははははくあ、それより相方さんを連れて行かないと!」

「はい!すいません!!お手数お掛けします。」

彼は冥耶を担いで、私はその後を追った…：運良く敵にも遭遇せず階段に着くと、階段中間に設置したある転送装置にカードを近付ける。

私達は光に包まれながら短くも長い一時が過ぎていく。

転送地は事務所横、私は2階に上がりパーティー分断で救助要請を伝える。

相方は1階の医務室で休ませる…：私は神宮寺さんにお礼を告げ連絡先交換して、ようやく…

結局、私もすぐに意識を失ってベッドの仲間となるのだった。

私が目覚める頃、次の日となっていて近くの病院に搬送されていた。

そしてその日の夕方にパーティーの残り3人が死亡してる事を告げられる。

私達は運が良かった…：それだけだ…

とにかく暫くは潜る気力も無い。

病院のベッドで寝ながら思う…

(あの悟空は私が見た幻なんだろうか?神宮寺さんは空冴を見てないのだろうか?はあーまた空冴に会いたくないなく神宮寺さんにメールして聞いてみようつと!)

道場に生えてる植木を鋏で余分に生えてる枝を切って綺麗に整えていく。

今日は溜まつてる道場の修繕に赴いて今は木を伐採したり整えたりしている…この辺の知識などは師匠から教わっているから慣れたものだが、最近ダンジョンばかり入っていたのでなかなか行く機会がなかった。

まあカオルさんから

「いつ木を整備に来てくれるのかな？」と催促の連絡が来てようやく来たのだから本当、駄目である。

「アキちゃんはお茶入れたから少し休みなさい」

カオルさんが気を利かしてお茶を入れてくれたようだ。

ふとスマホに着信音が…

見ると鈴見華鈴さんからのメールだった

内容は…

『この前はありがとうございました。落ち着いたら是非お礼をしたいので…またご連絡します。』

それで1つ聞き忘れてたのですが、ドラゴンボールの悟空に会わなかったでしょうか？

あれは余りにもリアルでしたのでご存じありませんか？』

………

(むう…これは…夢のままにしておいた方が幸せだろうか?)

俺は鈴見さんに…

『身体の調子は如何ですか？』

それと悟空ですか？確かドラゴンボール芸人さんがダンジョンにいたりとか噂は聞いてますが…

自分は悟空を見てないですね

ポーションの事は気にしないで
ではどうかご自愛くださいね』

…とメールに返した…

流石にまだバレたくないな

もう少し強くなってから…かな？

さてこの前のオーガ戦で沢山ポイント貰えたからなくひとまず瞬間移動を覚えたからピッコロに集中するか？

新しいコスプレを用意してインストールするか？

悩むな…

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv18

生命力：508

精神力：315

攻撃力：331

回避力：343

筋力：166 <Lv18+キャラ5+S Lv26+孫30>

器用：165 <18+5+26+30>

敏捷：177 <18+5+26+30>

知力：152 <18+5+26>

魔力：163 <18+5+26>

神宮寺彰人（キャラ未使用中）

生命力 381/445

精神力 142/283

武器 護神刀 …攻撃+100（Lv18+Lv9+攻33

1）…攻撃力：458

防具 マント …防御+05（Lv18+Lv9）

…防御力：032

…回避±00（Lv18+Lv9+回34

3） …回避力：370

スキル

戦闘スキル

- ・夢双一刀流刀術Lv09
- ・夢双一刀流槍術Lv07
- ・夢双一刀流拳術Lv04

コスプレイヤースキル

キャララインストール〈ギフト〉(5)

・オーバードロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

・ドラゴンボール

孫悟空 〈能力向上〉

ピッコロ大魔王 魔Jr. 〈同化〉

クリリン 〈不意打ち〉

クリエイト(回数14回)

・Original 〈アイテムボックス+1〉

・ブレイン〈護神刀、鎖着、葉鞘+1〉(未)首飾、指輪

・エルヤー〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー

・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未) ■

・クリリン 〈未〉 ■

キャラクタースキル

・ブレイン 我流刀術 Lv07

兆し(危険感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟

雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上★

・エルヤー 我流刀術 Lv04

牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改★

・孫悟空 亀仙拳術 Lv06

気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元気玉、瞬

間移動★

・魔Jr. 魔王鬪術 Lv05

爆力、魔弾（包囲陣）、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法

・クリリン 亀仙拳術 Lv04

気配（遮断）、太陽拳、舞空術、拡散双気弾（追尾弾）

スキル解説

身体超向上 ……肉体能力を一時的に上昇させる。身体向上の上位

剣技：英雄の領域に達した者が使える（例外もある）

縮地改 ……足を動かさず、スライドするように移動できる。前

後左右どちらにも移動できる。〈縮地〉の改良版。

界王拳 ……天界に住む界王が考案し、孫悟空が完成させた気の

超開放技術。

通常は戦闘力アップの不可能な気の開放状態から、1. 5倍ものパワーアップを実現できる夢のような技で2倍、3倍、4倍と戦闘力を上げられるがリスクが伴う

炎のように赤く燃え上がるオーラが特徴。

雷王拳 ……劇場版に使用した界王拳の派生拳技で戦闘力を2倍もパワーアップできるうえに精霊の王達に認められて、界王拳に精霊王の力を宿して攻撃力を上げる

風の精霊王は雷王拳、火の精霊王は炎王拳、水の精霊王は海王拳、土の精霊王は剛王拳などある。

かめはめ波 ……ドラゴンボール主人公の孫悟空の使う必殺技。

亀仙《かめせん》闘気技で師匠、クリリン等、数多くの者が使う。体内の「気」を両手に凝縮して放つ技。片手で撃つ闘気弾もあるがこちらは凝縮せず放つ技の為、威力は低め。

拡散双気弾 ……拡散と追跡双気弾の2つあって両手で片手ずつに少し大きめの気弾を放つが拡散は相手に撃つて上空に上げ下にいる敵に落とす。追跡は敵を追跡する気弾。クリリンのオリジナル闘気技

瞬間移動 ……文字通りのテレポト能力。気を探った相手の目の前に一瞬で移動できる。戦闘中に不意打ち攻撃を仕掛けることも可。身体に触ってれば複数人の移動も可能。原作は気を探らな

いとけないが一度でも会って話した人は自動的に登録される。

第8話 コスプレするか？ E級昇級試験？ スキル上げ？ 他は…

俺はベッドで寝転がりながら悩んでいた…

新しいコスプレするか？

衣装頼んで、ウィッグも作らないと…金はあるからネット通販で頼むか？

しかし「スカウター」欲しい為にベジータするってコスプレイヤー的には愛が無いよなく同じくトランクスの「剣」欲しさにするのも同じ…

やはりキャラクターに愛が無いのはダメだよな…

悩むわ。

E級昇級試験？

いい加減F級から上がらないと不審がられるけど今度挑戦するか…

他は…

あく元道場の修繕も頼まれてたな…カオルさんに連絡しないと…大学は今迄、真面目に通ってたから出席日数足りてるけどなあ…でも久しぶりに行くかな…

ずっとダンジョンばかりだし本当、身体が分身できればなあ…

分身…あくピッコロさん確かできたか？アニメでよく1人修行の時に分かれてやってたなあ…

あれ？【分身】できたか？…スキル確認！

スマホを弄り見てみると…

【分身】

身体を分身する。劇中でお互いに組手を行う事で戦闘経験を積む為に分身した。レベル、ステータス、スキルが半分同士になる…分身体がやられた場合、経験値は本体に返ってくる。本体がやられた場合は分身体が身代わりになるのでリスクは少ない。

これヤバいな…半分になるのはキツいけど要は5階層ぐらいで戦えるぐらいに調整すれば分身をダンジョンで戦わせて、本体は別の事ができるな…

…【分身】いいな〜

…よしピッコロさんを重点的に鍛えよう…

ピロン！

ん？メッセージがきたな、どれどれ杏さんか〜

『お久しぶりです〜

最近ダンジョンばかりなようだけどたまにはコスプレ撮影もしましょうよ〜

空いてる時間とかあれば教えてくださいな』

杏さんに最後に会ったのは1ヶ月前か…

撮影も暫くしてない…

コスプレは毎日してるけどな…

俺は…

『お久しぶりですね…

本当、最近はダンジョンばかりですね

でも毎日コスプレはしてますからね

今はドラゴンボールのコスプレしてますよ』

送信と！

ピピピピピピピ！

お〜着信だ、表示は杏さんだな

『もしもし』

『おひさつすドラゴンボールのコスプレしてるんですか？

何のキャラですか？』

『悟空とクリリン、ピッコロさんかな〜使い勝手良くて最近刀振ってないぐらいは毎日潜ってます』

『おおお、是非動画とかも撮りたいですね

ダンジョンでまた撮影したいです』

『まあダンジョンでないと危ない技もあるからな〜』

『どんな技おぼえましたか？やはり、かめは（それ以上はダメ）とか撃てるんですか？』

『はは〜最近は悟空の【瞬間移動】覚えたよ』

『うお!! スゴーいだすね〜』

『杏さん驚き過ぎてナマってるよ』

『瞬間移動見たいですーちよつと私のところに瞬間移動でこれますか？』

『行けるけど本人の前に飛ぶから…今は部屋ですか？杏さん』

『はいそうっすよ』

『じゃあ飛ぶけど…恥ずかしいのは無いよね？』

『恥ずかしいもの？…あ、ちよつと片付けますので連絡します』

と言つて切れてしまった。

まあ女の子ですからからね〜部屋に男が入つて恥ずかしいものもの一つや二つあるでしょうね〜

5分経過

ピピピピピピピピ！

『はい』

『準備完了しましたのでどうぞ！』

『分かった〜』

俺は登録してある杏さんの顔を思い出して…

【瞬間移動】発動

目の前には杏さんと彼女の部屋らしき中に転移してきたようだ。

『おまたせ』

俺を見ながら〜

「…おお…本当に瞬間移動なんですね。凄いー」

スマホの通話を切りつつ…

「凄いけど使ったの初めてだから、ちよつと心配してはいたよ〜はは

は」

「え、？こんな便利な何で使って無いんですか？」

「だって…例えば杏さんが風呂に入ってる時とかに近くで飛んだら（あ、わかりました）ヤバいでしょ」

「ですね〜確か悟空の瞬間移動は相手の気を探ってるんですよ？」

「この【瞬間移動】は一度会って顔や言葉を交わした相手にだから…まあ2、3mぐらいかなこの様子だと」

「連絡必須っすね」

「そう言うこと」

まあ、などと久しぶりに杏さんと会えてお互いについて忘れてしまっていた。

ここが女性の部屋で実家と言う事を…

コンコン

ドアを叩く音と共に部屋のドアから声がする。

『杏奈ちゃん、誰かいるのかしら？』

（しまった！【気配感知】、切ってた）

つい油断してしまった。

多分杏さんのお母さんか？

杏さんは小声で…

（すいません…カムイさん、すぐ戻れないんですか？）

（無理だよ、俺一人暮らしたから【瞬間移動】できない）

俺も小声で答える。

返事が無い為か…

『杏奈さん入るわよ！』

そう言っただアを開けてくる…

「あ、母さん今、電話中」と言っただ杏はスマホを抑えて言う。

「あくあ話し声が聞こえたから、てっきり誰かいるかごめんなきいね」

そういうと部屋から出ていった。

『もう大丈夫ですよ』

『了解、まあ、このまま空飛んで帰るわくまたね』

『はいくお気をつけて』

スマホの会話をお互いに切る。

【舞空術】で部屋の窓から飛び出して屋根に退避していた。

瞬間移動は便利だけど対象者がいないとダメなのが玉に傷だなく

まあ今日は新月だから目立たないけど…上着を着てないのが失敗
だったな…

体温調整できないから思ったより寒い…【炎王拳】使えば寒くない
かな？

…空を飛ぶ炎を纏った人間…やっぱり駄目だく身体が冷える前に
帰る。

しかし空の移動って夜で暗い事もあって方向感覚がズレるのか？

車で30分程の距離を1時間かかってしまった。

人の登録ではなくて物とか建物とか登録できないかな？

まあ、自分がかかなり贅沢な悩みをしている事は分かるがねく

にしても…寒いわ…

スキル解説

舞空術 …体内の気をコントロールし放出して浮遊、飛行する
技。

第9話 悪意の行先

という訳で今日は斑鳩ダンジョンにてピッコロさんの修行と相成ったが：

初めて遭遇したモンスターだけではない、悪意：

同じ人間同士でも、平気で傷つけ最悪、殺すまでいくのだろうか？

：

まさかそんな現場に遭遇するとは思ってなかったんだ：

俺は気配感知を発動させながらダンジョンを探索していると：探
索者のものと感じる生命力が徐々に弱くなっていくのを感じた：

俺は【完全遮断】を使い、現場に急ぐ

いた：

俺は気配を殺しながら様子を伺う。

男2人、女1人の探索者が地面に倒れてる男性に蹴りをいれたり罵
詈雑言を吐いていた。

会話内容は聞こえないが顔見知りか？

【気配感知】の際、ある程度の強さは感じていたがB級相当の実力は
あるようだ：

流石に今の俺で戦って勝てるかもしれないが負ける可能性はある
し、そもそも探索者同士での争いは禁止されている。

それから数分後、満足したのか：彼らは去って行った：

俺は【気配感知】で遠のいていくのを感じるけど彼らが階段に昇る
までは待機しないとな

幸運な事に周囲にはモンスターは感知されないし：

更に数分後、彼らの気配は消えたので、すぐさま倒れてる男性に近
づくと：どうやら毒か麻痺かなんかで弱っている。

俺はすぐ薬靴+2を呼び出して中にある万能薬を男性の頭にかけ
る。

(クリエイトで薬靴を+2まで上げておいたくポーションはハイポ―

シヨンへ解毒薬は万能薬にパワーアップしている)

シユシユシユと言う煙が立ち上る、次はハイポーシヨンを頭にかけて効果がすぐ出て顔色が良くなっているが気絶状態から覚醒はしないようだ。

さてどうするか？

まだ上の階にさっきの連中がいるから担いで運ぶのもあれだし、**【瞬間移動】**で運ぶのが一番楽だが…受付の安藤さんを登録してあるが果たして大丈夫か？

いや〜着替え中とかね、トイレとか一歩間違えるとセクハラや痴漢で警察沙汰になる可能性もあるからな…

転移門は5階の階段の中間に設置してあってそこまで運んでいくか〜もう一度気配感知を発動するがこの階層には俺達しかいないし行けるとここまで運ぶかな。

俺はまだ意識の無い男性を肩に担ぎ、ゆっくりと階段まで行く…

この人もB級だろうか？仲間なのだろうか〜さっきの人達と…

パーティー内でのイザゴザはご法度だろうに、まあそういう俺はボツチで探索者やってるからその辺気楽だな。

ようやく5階の階段に近づくが…

ヒューー

(な?!)

【怪魔眼】 自動発動！

突然飛来した何かに向けて俺のスキルは自動発動する！

目の前で飛んできた何かに目から怪光線を放つと爆発！

(魔法か?)

煙が晴れると、そこにはさっきの連中が、ニヤニヤした顔で上から圧をかけてくる。

「やっぱりウロチョロしていた奴がいたのね…変な気配がしたからね

」

何の感知だろうか？…ミスったな…

女がリーダーなのか？改めて気配感知で探ると一番強そうに見える、男どもはC級並みか？

B級の強さを感じたのはこの女の力か？

「おいおいドラゴンボール芸人だったとは〜ここはお笑い芸人がくるところじゃねえぞ」

ゲラゲラと笑っている。

「確か何…コロだったか〜この緑野郎は！よくこんなダンジョンで生き残ってるな〜」

俺のピッコロさんを見て馬鹿にした口調で、ニヤニヤした顔を向けてる。

「何とか言いなよ、コスプレ野郎…その男をその場で置いていくつてんなら見逃してやるよ〜」

女のそんな邪悪な顔を見た時、最早、俺の心は決まっていた…

「この人を置いていいたら、あなたたちは彼をどうするんですか？」

決まりきった事だと分かっても聞かざるを得ない。

「あなたには関係ないってことよ…それともあなたも同じ目に遇いたいの？」

「どうせあんたらのことだ…彼の持つカードを回収し忘れてたんだらう？」

このカードは登録者がこれまで何をしていたか、もしくは何をされたかを記録する機能あるもんなくあんたが彼に何をしたかバツチりだろうな…証拠としては十分だな。」

探索者カードにはその日の行動、何時に何階層に潜ったか対象はモンスターか探索者か（登録していれば自動的に名前とパーティー名も記録される）、受けたダメージが物理か魔法か毒かなど記録される。

ただし記録が保つのは7日程、救助隊が救援者を探して見つける頃にはモンスターに処理されるか？記録が上書きされて証拠が無くなる。

こいつらはまさか助ける者が現れるとは思ってなかったんだらう

…カードがあれば怪しまれないと…

「ちっ！甘くしていれば付け上がりやがって!!殺っちまうよ!!!」

「おう！」

武器を手に取り襲い掛かろうとしていた…が距離が遠いな！

【瞬間移動】 発動!!

俺は安藤さんに向かって転移した!!

(安藤さん〜ごめんね!!)

転移が終わり目が慣れてきたら…そこは事務所にある簡易トイレ小屋だった。

(つまり安藤さん、トイレ中かく良かった…普通の建物なら女子トイレの中だよな)

とりあえず静かに通り過ぎて医務室に運ぶ。

医務室の常駐しているお医者さんに彼を託し2階の事務員さんに報告。

ちようどトイレから帰ってきた安藤さんに再び説明して、彼のカード借り受けパソコンで、犯罪を確認

その後は早かった。

探索者の犯罪行為として警察組織に連絡する事に…

警察に連絡後、1時間もしないで公安課所属、別名へ日本探索者犯罪取締局〈通称へJ—SCB〉がやってきた。

この組織は新宿ダンジョンの頃の事件から発足した探索者専門の警察である。

そもそもダンジョンに入るだけで身体能力が強化されスキルを所得できる事から犯罪も通常の警察組織では対処不可能となり、初期の頃は高レベルな探索者が参加するも事件が止むことが無く、人手も足りなくなると言う事で法が改正された。

公安課所属〈監視裁判官〉、通称【監裁官】《かんさいかん》と呼ばれる人物がその場で状況、相手の状態など鑑みて刑を簡易執行する。特に探索者、元探索者、m粒子の反応が強い存在、モンスターなどが対象で一般人に対しては権限が無い。

〔m粒子とはダンジョン内で発見された2つの地球上には存在しない物質の1つで、一般的にはファンタジー用語でも呼ばれる《魔素》と呼ばれる事が多い。

この粒子を身体に収めると身体能力上昇、スキルの獲得となる可能性が高い〕

抵抗せず態度が素直であれば刑務所に即投獄される。

年数は犯した犯罪により、窃盗5年、傷害10年、殺人25年と決められている。

逆に抵抗したり逃亡を図った場合は簡易裁判により即殺処分、所謂、死刑となる。

そして監裁官は荒事に向いていないので手足となって働く存在が：

〈犯罪刑務執行官〉【罪執官】《ざいしつかん》と呼ばれる。

元探索者などの刑を科せられた犯罪者に奉仕活動として刑の軽減がなされる。

程度はあるが自由もあつて公務員として給料も出るので、高レベルの元探索者などは憂さ晴らしに活動する事が多い。

ただ監裁官に明らかに不当ではない事で逆らったり、殺意を向けたりと判断された場合、処分の対象となり魔道具による主従契約をしているので、契約不履行で拘束、殺処分となる。

ちなみに刑務所に入れられてる元探索者は、契約して力をセーブされているので一般の刑務所に収監されている。

刑を免除されたり償って自由になった元探索者や事情のある者がたまに罪も無いのに【刑執官】《けいしつかん》で働く選択肢もある(大概、探索者として芽が出ない場合、再就職先としての意味もある)

そして例の犯罪探索者は、J—SCB達に追われて：

- ・ダンジョン内で男性1名死亡（モンスターに殺される）
 - ・抵抗後、男性1名殺処分
 - ・抵抗せず女性1名確保
- となった。

その話を次の日に安藤さんから聞くことになる。

だから探索者は力に溺れず正しき事に使わないといけない：

勿論、それでも法の網を掻い潜って悪に走る者が絶えない訳だがな。

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv18

生命力：508

精神力：315

攻撃力：331

回避力：343

筋力：166 <Lv18+キャラ5+S Lv26+孫30>

器用：165 <18+5+26+30>

敏捷：177 <18+5+26+30>

知力：152 <18+5+26>

魔力：163 <18+5+26>

神宮寺彰人（キャラ未使用中）

生命力 381/445

精神力 142/283

武器 護神刀 攻撃+100（Lv18+Lv9+攻33

1）：攻撃力：458

防具 マント 防御+05（Lv18+Lv9）

：防御力：032

：回避±00（Lv18+Lv9+回34

3) …回避力：370

スキル

戦闘スキル

・夢双一刀流刀術Lv09

・夢双一刀流槍術Lv07

・夢双一刀流拳術Lv04

コスプレイヤースキル

キャラインストール〈ギフト〉(5)

・オーバードロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

・ドラゴンボール

孫悟空 〈能力向上〉

ピッコロ大魔王 〈同化〉

クリリン 〈不意打ち〉

クリエイト(回数14回)

・Original 〈アイテムボックス+1〉

・ブレイン〈護神刀、鎖着、葉鞘+1〉(未)首飾、指輪

・エルヤー〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー

・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未) ■

・クリリン 〈未〉 ■

キャラクタースキル

・ブライン 我流刀術 Lv07

兆し(危険感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟

雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上

・エルヤー 我流刀術 Lv04

牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改

・孫悟空 亀仙拳術 Lv06

気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)元氣玉

瞬間移動

・魔J r. 魔王闘術 Lv05

爆力、魔弾（包囲陣）、怪魔眼、魔手、魔螺旋光殺法★

・クリリン 亀仙拳術 Lv04

気配（完全遮断）、閃光拳、武空術、拡散双気弾（追尾弾）

スキル解説

怪魔眼：両目から赤い光線が飛び出て攻撃する。しかし威力は低い為、迎撃又は防御に使用するパターンが多い：敵の悪意に反応して自動的に発動する。よく巨大ロボットの頭部にバルカンを装備しているのと同じ

魔貫光殺法：ピッコロさんが編み出した必殺技。指先に溜めた気の一点集中を極めたような技で、弾丸のような気弾を中心にネジのように螺旋しながら放つことができる。貫通力が高くレベルが高い相手にも通用するがその場合は、溜めが必要な為その分時間がかかる。

第10話 E級昇級試験…D級へ

F級からE級へ昇級するには…

『ゴブリン種、10体を退治する事』らしい

今やオーガとも渡り合えるから問題ないのだが…

ピッコロさんのスキル上げはゴブリン程度では上がらないので、レベルが一番低いエルヤーで探索く2階層を【兆し】【気配広域】を発動しながらの移動。何人かの探索者とすれ違う事もあるのであくまでも飛んでるように見せない様に、足は浮かせつつ地面ストレスを【舞空術】で移動中く

いた！

おお、6匹かくゴブリン4体、ホブゴブリン2体か…

まだ気付いてないな…

【爆力】発動！

攻撃力を圧倒的に上げるが防御力が下がる技な為、使用は気を付けてく

更に【炎王拳】!!

凱王拳と戦闘力を上げる効果は同じで、炎の効果で次に放つ技の熱さを上げる効果も加味して…

【不意打ち】!!!

これで相手の虚を付けければダメージは倍々…

そして…

「かーめー」

「はーめー」

「——波はあああ!!!!」

【かめはめ波】!!!!

溜めて範囲を広くした熱線がゴブリンの群れに放たれていく!!!!

ゴオオオオオー!!!

ダンジョンの半分の通路を塞ぎつつ白い熱線は直撃する!

…やりすぎかな?

魔石しか落ちてない

普通に狩るか

【キャラインストール】 エルヤー

まずは見つけた群れに…

1匹目

【牙斬】!

《ゴバシユ》

斬撃が油断しているゴブリンにヒット！

そして

【縮地】!!

群れの中に入って！

【牙圓斬】!!!

《ガハー！グホー!!ウグツー!!!アガアー!!!グオ!!!》

この刀技は基本的に接近し過ぎた敵を迎撃するカウンター技だが

…

無理矢理、群れの中に入って刀を全周囲に振りぬいて不可視の斬撃が敵5体を襲う！

…まあ6匹いたけど…2体多いけどこれで10体達成したな

魔王を拾い…

【瞬間移動】発動…鈴木先生へ

着いたのは医務室

(あ…)

鈴木先生が…眠ってる…起こさないように出て行くうっ

そう、ここは探索者事務所の1階医務室。

この前、事件の際に知り合った医務室の鈴木先生に頼んで転移のマークの対象者にして良いかと尋ねたら、了承を得たのでこれから

は安心して転移できるというもの。

安藤さんは女性だからね、何かあったら困るし、先生も自分が居る時は全然OK…との事。

まあ今は眠ってるから気付かれないように…ソートと出ていく

そのまま2階に上がりクエストの報告を

「おかえりなさい…つてもう終わったんですか？まだ1時間もかかってないですよ」

安藤さんは驚いた顔で対応してくれる。

「ええ、群れがいたんで…早く終わりましたね。」

苦笑いすると安藤さんも慣れたものなのか？

「カード預かりますね…カード検索と…はい10体確かに確認しました…これでE級昇格です…まだ時間も早いしD級も受けますか？」
そんなあつさりと言級って良いのか？

「え？いいんですか？」

「はい、次はホブゴブリン10体ですね…あ…2体もう倒していますからあと8体で如何ですか？」

「はい、では行ってきます！」

そして今度は3階層…

【兆し】 【気配広域】 発動

…

：

：

いたく

…つてこれは…不味いかな？

俺は【舞空術】で急ぐ！

現場に着くと…

うわー！…これは…

「おいーこれはどうなってるんだ？」

今の惨状を壁に項垂れて座ってる人に聞く。

「…あ…あ、助けて…みんながみんなが…」

俺に気が付くと身体が動かないのか…倒れながら助けを求めている声が…

広い部屋に30体か？

恐ろしい数のゴブリンとホブゴブリン、ゴブリンシャーマンやゴブリン…ロードまでいるのか？

見たところ首のカードプレートがE級パーティーの2組10人以上の探索者がゴブリンの群れに囲まれて前衛が押し負けようとしていた。

「くそーもう抑えきれないぞ」

「ふんばれー!」

2人のリーダーらしい戦士達が盾で抑えながら叫ぶ!

「助けてくれ…このま…までは…」

アツカーらしい戦士が倒れて後衛が何とか回復しようとしているが近付けない。

俺は…

【キャラインストール】 孫悟空

エルヤーから孫悟空に変わった。

【不意打ち】 発動!

そして!

【界王拳】《かいおうけん》3倍だあああ!!!

赤いオーラが身体から吹き上がる。

【魔弾】連続発射!!!

武空術で空中に浮かんで両手から魔弾をゴブリンの群れの上へ広範囲に放つ…30発…

30発程撃った魔弾は空中で静止した状態で次の指令を待つかのように浮かんでいる。何匹かのゴブリン達は俺に気付いたがもう遅い!

いくぞー!

【魔弾包囲陣】

!!!!

「いけー!!!」

俺の指示の元、空中に静止していた無数の魔弾が群れの中に入ったんでいく。

《fk d j a o s p p s l l d i s j f p j p e m e l : f m l ;
m f l m a s m l f ; s a o f j o s p j i f o p f j o p》

群れに着弾した魔弾は不意の攻撃で大混乱に陥ってるのか…声にならない叫びを上げている。しかしまだだ!

【拡散双気弾】《かくさんそうきだん》!!!

今度は両手から大きな光弾を上放つと…

「いけえええー!!!」

群れの上から大きな光弾が無数に分散して落ちていく…

《a i v k d p s d m g l ; s m l g m l : d m s l a : j d i o
n ; a m f : 絵 g s v んふあ ; s l m f : l》

またも声にならない叫びでさっきまで劣勢だったのが?になるぐらいに混乱に陥ってゴブリン達が倒れていく。

しかし…

《オオオオオオオオ》

さっきのゴブリンロードらしき奴が叫ぶ!!

(やはりロード種は凄いな…一瞬で混乱を抑えやがった)

30体いた敵も10体程にまで減っていたが残ってるのが…

ゴブリンロード、シャーマン、ホブゴブリン8体…
しかもシャーマンが怪我しているロードを回復している。

こちらも前衛が警戒しながら後衛が回復に努めてる。
パーティの連中は俺に気がついてるが、敵を警戒しているのか？油断せずに敵の出方を見ている。

俺は【元気玉】で自分の生命力と精神力を回復に回す…
劇中本来は敵への攻撃しか使えないがこのスキルの場合、身体の消耗した力の回復ができる。

結構、消耗が激しい…
まさかこんな事態になるとは考えて無いから計算外だったと言える。

どうやら向こうの方が回復が早かったみたいだな…しかし警戒してるけど一向に攻めてこない。
もしかして逃げようとしてる？
そしてこっちも回復を終えてはいるが似たような感じかく

ん？

あれ？

もしかして俺に相互警戒してるのか？

まあ俺は空に浮かびながら変な事してるように見えるだろうな…

回復してるだけだけどな…

キーン！

1分程だけど、何とか回復したか…全快では無いけど、残りの殲滅できるぐらいはいける。

俺は地上に降りるとリーダーらしい人物に話しかける。

「そっちのパーティーの現状はどうなんだ？」

俺の格好を見て怪訝そうな顔だが…

「あ…ああ、そのありがとうな、助けてくれて…こっちは半分がもう戦闘不能だ、さっきの回復でもう打ち止めだから撤退したいんだがな」
辛うじて動ける人もいるが3人ばかりは完全に意識が無い…

「それはあちらも似たような事を考えてると思うよ…こっちの出方を見定めてるからな…俺がここで奴等を牽制してるから撤退してくれないか？」

驚いた顔で、しかし心配そうに

「…しかし、それでは君が…」

「大丈夫…俺にはとっておきがあるから心配しなくても良いぜ！」

俺は目だけ敵を見て答える。

「分かった…えっと名前は孫悟空で良いのか？それコスパ…」

?!

動く！

「どうやら向こうはこっちに仕掛けるようだな。ここは任せて早く下がれ！」

俺は叫びながら前に出て彼等を後方へやる。

「すまん……」

無念そうな顔で通路に進むパーティのリーダーらしき男性が通路へ下がっていく……

《《《ゴオオオオオオー!!!》》》》

3体ほどのホブゴブリンが追撃しようとしている

「おっとここから先は行かせないよ」

俺はホブゴブリンの行く手を遮って手を広げ邪魔をする。

《《《ガゴオオオオオオー!!!》》》》

完全に俺にターゲットしてきた

後ろのロードとシャーマンは……動かない？

何故？

《《《ガアーー!》》》》

棍棒を振り降ろすホブゴブリン達……

「へ！そんな緩慢な動きには当たらないぜ！」

振り降ろしてきた棍棒を避けて……

その棍棒の上に乗って！

「おかえしだ！」

真正面に顔に右のハイキックを直撃！

その反動で左のヤツに回転しながら上段回し蹴りで首にヒット!!
更に回転して右側のヤツに回し後ろ蹴りを当てる!!!

《《《グ！ガオ!!グボ!!!》》》

3体のホブゴブリンは…まあ大してダメージ入ってない…が牽制にはなったな。

俺は少し下がって

【キャラインストール】ブレイン

すぐさま鞘と柄を握り、更に後方へ下がる。

【円展開】発動！

既に3 m以内…

いくぞ

剣技【雷火4連】!!!

絶対命中にして超高速の同時四連斬撃が3体のホブゴブリンへ収束していく…

派生技【円展開】【雷光閃】【雷火4連】にて

最強秘剣【神雷】完遂！

ズバー！ズババー！ズバー!!!

《《《…》》》

一瞬にして3体のホブゴブリンは3つの魔石となって転がる。

やはり慣れない格闘より刀で斬る方が安定感が違うな

あれ？

さつきから動こうとしない残りの連中…

何か罠でもあるのか？

あ…ジリジリと下がっていく…

(どうしよう…追撃するか？)

走って逃げていく…

まあ、いいかく追撃できるけど撤退したパーティが気になるからな。

とりあえず落ちてる魔石を【魔手】で回収して…

コスプレを解除して彼らを追う…

2階層に上がる階段途中で一時的に休憩を取る2組のパーティ

「大丈夫だろうか…さつきの…悟空のコスプレの人は…」

「気にはなるが…大丈夫って言葉を信じるしかないな。」

スマホを持ちつつ…

「救援の連絡はもうしたから待つしかない…下手に動いてモンスターと接敵したら…だからここで待機だ」

そう言うのと自然に身体が足から力が抜けてその場で座り込む。

2階層程度の敵なら…

大丈夫だろう…

だが既にリーダー2人は思考が停止していた。

彼らもまた動けてはいたが限界だった…

ちなみに転移門は5階層、10階層、15階層までであるが2階層に
はない。

30分程度、無言で座つてると

『おおおーいー大丈夫かあゝ』

2階の上から声をかけてくる集団があった。

「あ…：救援隊だ…」

助かると思うと、ようやく精神的に張り詰めた気持ちが和らいでい
く…

「神宮司さん…無事、合流できたみたいですよ」

無線機で返答しながら笑顔で安藤さんは答えてくれた。

「そうか良かった…」

俺は彼らと合流して助けようとしたが、救援を呼んだ事が分かった。

【完全遮断】で近くに待機していたから…

だから、救援隊が来るまで彼らには気が付かれないよう様子を見ていた…

（空牙で行けば分かるが突然知らんヤツに話しかけられても困るだろうし）

そして救援隊が来たのが分かったので、俺は一足先に転移で戻っていた。

「はい…ホブゴブリン10体確認…D級昇級試験完了ですね〜カード更新しますので、おめでとう神宮寺さん」

「はいありがとうございます」

どうやら俺も疲れたらしい〜久しぶりにこんな時間から眠くなっているのを感じる。

本当、長い1日だった。

F↓E↓D級へと昇格した…そんな1日の話…

第11話 鈴見華鈴と謎の美人さんがやってきた日

「ここか…いきなり来ちゃて不味かったかな？」

私、鈴見華鈴はこの前、教えて貰った住所の家に来ている。

ピンポーン！

玄関でチャイムを鳴らすけど…

一向に動きが無い。お出かけしてるのだろうか？スマホを再び覗くけどさつき送ったメッセージを読まれてないようだ。

(まさかダンジョン行ってるのかな？失敗したかな…もうあと10分待ってこなかったら次の機会にしようかな)

そんな事を考えてると…

「おはようございます」

見た目普通では無い美人が突然、声をかけてきた…何故？

「あ、おおはようございます…」

つい緊張し過ぎて声の上擦ってしまった。

「神宮寺さんの玄関先で待ってるということはお友達ですか？あく失礼、私はこう言うものでして…」

名刺を渡してくるので受け取りながら…

「友達と言うかく以前ダンジョンで助けて貰って…って、え!？」

名刺に書いてある職業と名前に驚く！

「…あの…神宮寺さんに何の御用ですか？」

少し強張った顔で顔を覗く…

「その…この前ダンジョンで起こった事件の通報と救助に貢献して下さったのでその御礼を…」

「ぷっー…あつごめんなさい！」

「いえ…どうかなさったんですか？」

不思議そうに私の顔を覗く美人さん

「いえく神宮寺さんっていつも人助けしてるんだなと思ったら可笑しくて♪」

「そうですね…神宮寺さんみたいな方って珍しいと思います。」
「ですね〜」

少し打ち解けたのかお互いに笑いあっていた時！

ブロン！ブロン！キツキツイー！！

1台のバイクが玄関先の前の道路に停まる。

エンジンを止めて敷地内に入ろうとした時に気がついたようだ。

「あれ、鈴見さん？」

彼はそう言つてヘルメットを脱ぐ顔は神宮寺彰人だった。

「よかつたりハビリも終わって退院したんだね…ん？あなたは？」

ヘルメットを腕に通してバイクを敷地内に入れながら鈴見さんと
もう1人の方(かなりの黒髪美人さん)が佇んでいるのに気がついた。

「はじめまして神宮寺さん…私、こういうものでして…」

彼女から差し出された名刺を見てグローブを外して名刺を貰う。

「公安…菅生 《すごう》 アキラさん…」

「はい…」

満面の笑みのそこには美人さんが立っていた。

バイクを定位置に置いて玄関先で鍵を開けて、客間に2人通して…

「お待たせしました…粗茶ですが」

お盆に載せたお茶を菅生さんと鈴見さんの前に静かに置く。

「ごめんなさいね〜先にお話しさせていただきます。改めまして私は
警察組織に所属する公安課の菅生アキラと申します。」

鈴見さんに断つて挨拶してくる菅生さん…鈴見さんもどうぞどう
ぞと言っている。

名刺を渡されていたのでさつき見たのだが…

公安課所属

日本探査者犯罪取締局へJ—SCBへ

菅生アキラ

他には何も書いて無い…まあ公安の人の名前なんて実名か分から

んしな…

にしても綺麗な方だな、とてもあんな荒事をしている感じのタイプでは無いロングの黒髪にポニーテールで結び姿勢も良くモデルと勘違いしてしまう程、そんなスタイルの方なのに黒スーツですらりと佇む姿は…いかんくボーとしてしまった。

「スゴウさんですね」

「はい、この度は田上を救っていただきありがとうございます」

「タガミ…あく田上つてこの前、助けた方ですね…え？何故、公安の菅生さんがお礼を？」

「勿論、人命救助として公務に対してのお礼と私の部下を救ってくれたお礼でもあります」

ん？

「部下ですか？」

「はい…田上は私の部下で密偵として働いてもらってますから…」

「密偵…と言うと、もしかしてこの前の犯罪者達の？」

(何でそんな聞いてもない事を彼女は教える?)

一瞬、警戒レベルを上げそうになるが…まあこんなまだまだレベルも低い探索者が何ができると俺は考えを改めて彼女の話聞く。

「何の事件に関わっていたかは、まだ捜査中の案件でして守秘義務があるので話せませんが…肯定とは言っておきます」
「なるほど分かりました」

「それと一つ私的な事ですが…田上の探索者カードに田上と共に何かをした形跡があるのですが、エラー表示がされていて認識できませんでした。」

…もし神宮寺さんに問題が無ければ教えていただければと」

(あ…そうか職業を非公式にしてるからか)

俺は少し考えたが…

「分かりました…」

実は自分の職業やスキルが特殊で協会には非公式にしてもらってまして…何をしたかは簡単に言うとは転移です」

「なるほどそれなら納得です…なかなかのレアなスキルをお持ちなんですね」

鈴見さんはそれを聞いて驚いている…まああの時はまだ取得してなかったしな…

にしても…

「レアですか？」

「最近の話だと、転移系のスキル持ちは世界でも10人もいないかと…」

「そんなに少ないんですか？」

「はい、ですから非公式にしてあったのは正解かもしれませんね…そんな能力が知れると、色々面倒な事もありますからね」

（気軽に俺は使ってたけど結構ヤバイ能力なんだな転移は…）

「神宮寺さん、この事は勿論ここだけの話としておきます」

「ありがとうございます」

鈴見さんは…凄い目で俺を見ている…俺は少し目を反らし、さて後で何て言われるやら…

「それで…もしなんですが」

「はい？」

「もし宜しければ、今すぐと言いませんが仕事の依頼するのでお手伝いをお願いしたいと願っております…」

「お手伝いですか？」

「先程も言う通りレアなスキルなので、勿論報酬の方も正式に払わせていただきますので…ご連絡先の交換をしていただければ…」

（うむくまあ公安に伝手があるのは悪い事でも無いかな…）

「はい！分かりました」

俺達はこうしてお互いに連絡先の交換を行なった。

「あと、こちらは田上に使用した薬代としてと心ばかりの謝意も込めて少ないですがお納めください」

そう言う厚い紙袋を渡してくる。

「それでは長々、申し訳ありませんでした…それでは失礼します…では…」

(まあここで受け取らないのも悪いかな)
「分かりました、ありがとうございます」

俺は素直に受け取る…

菅生さんは立ち上がって鈴見さんに挨拶してから玄関口で、それではと会釈して去っていく…

その後ろ姿を見て仕事を誠実にこなす彼女に好感を持つ…

(俺とそんな年齢違わないのに立派だな)

ちなみに後で見たんだが…

菅生さんから貰った紙袋の中はお金だったんだが…300万程入っていた。

薬代で200万計算かな？

相場としては多いのか少ないのか？

何にしても銀行に預けるかな。

止まっている黒い車の後部座席に乗り込むと…

「本部に戻って」

「はい」

運転席にいる部下が返事をしながら車を走らせる。

「例の探索者は如何でしたか？」

「そうね…私の部下として1番欲しい人材ね」

「それほどに優秀な人材ですか？」

「まあね〜でも本人が嫌がっても困るから暫くは様子見ね…大学生だし、でもまだ伸びるわねあのタイプは…早いうちに手伝って貰って縁を結ぶのも悪くない」

「そこまで…ですか？」

その質問に答えずに

「あなたが驚く案件ではないわ…次の仕事もハードなんだから余計な

事は考えないの」

「はい」

(神宮司彰人：そう遠くないうちにまた会えそうね)

そんな事を考える菅生アキラだった。

第12話 鈴見さんの悩みと杏さん襲来

玄関から戻って

「ごめんね鈴見さん…さっきはスマホ忘れてしまつて返信できなかったんだよ」

昨日、大学に行つてサークルに忘れ物をしてしまい朝一で取りに行つていたのであった。

途中で気がついたがすぐ戻るつもりだったから…

「こちらこそ急に来ちゃつてごめんなさい…それとこれ半分だけど薬代として受け取つて欲しいの、本当、残りは頑張つてまたダンジョンで稼ぐんでもう少し待つてて…」

彼女は封筒を俺に差し出して来る。

俺はそれを見て…

「ん…その…鈴見さん…お金はいいよ、菅生さんのは公務だから謝意を断るのもアレだから受け取つたけど、本当言うかね…この前、使つたポーシオンはタダみたいなものだから…」

「タダ？」

不思議そうな顔で返してくる鈴見さん。

俺は薬鞆を呼び出すと突然、目の前に鞆が現れる。鞆を置きながら中からハイポーシオンを出して置く。

「この鞆は出自は秘密だけど使つたら24時間で補充されるんだよ。今は12時間経つと補充されるんだけどね…だから実質タダみたいなものだからお金はいいよ」

鈴見さんは口を開けて目も大きく見開いて俺の顔と鞆、ハイポーシオンの瓶を見比べる。

「すいませんお見苦しいところをお見せしまして…」

鈴見さんはすっかり落ち着いたようで…

「まあ、お茶も冷めてるから新しい飲み物出すよ」

俺は新しく持つてきたコップにジュースを注いで勧める。

「あ、ありがとう」

鈴見さんはコップを受け取ると喉が渴いていたのかゴクゴクと良い飲みっぷりく

しかし鈴見さん…救出した時は顔も汚れて身体が辛そうな表情だったから分らなかつたが、こうして面と向かって座って見てみると凄く可愛い人なんだなと分かる。容姿も可愛らしくて探索者の時とまるで違う事に今更ながら気づくなんて…

「あ、あのさっきの転移や薬鞆の事も誰にも言いませんから…」

飲み終えてそうはつきりと告げる真剣な顔に一瞬、見惚れていると「どうしたんですか？」

「いやこちらこそありがとうございます、そういえば相方さんの具合はどうなの？」

俺は誤魔化す様に話題を変える。

「はい、冥耶は今は家で休んでます…でも…」

悲しそうな顔で…

「でも、もしかしたらもう探索者としてはダメかもしれせん」

「駄目なんだ…」

「やっぱりあれだけの体験しては、心が折れてしまうのは仕方がないと思います」

実力があっても身体が丈夫でも心が折れてしまえば、立ち上がる事もできなくなるのは探索者だけではないことだろう。

「鈴見さんは探索者続けるの？」

「私達のパーティは冥耶以外、3人も亡くなったので…私も今は新しいパーティ募集を探してる真つ最中にして、神宮寺さんみたいにソロで活動できれば良いんですが…流星にそう簡単には…」

「そうかくパーティか…普通は必要だよな」

俺は好きでソロやってるし迷惑かけたくないから…だしなく

俺のスキルはな…

そんな事を考えてるとく

ピンポン！

「ん？…今日はやたらとお客さん来るなあ〜鈴見さんちよつと待ってよ」

俺は特に気にせず玄関を開けながら

「どちらさまですか？」

と聞きながら見ると…

「お久しぶりです〜カムイさん！」

そこには杏奈さ…じゃなくて杏さんが立っていた。

「あれ、久しぶりだね…今日はどうしたの杏さん」

「今日こっちの方で用事あったんで帰りに寄らせてもらいました」

「あくじやあ上がってよ…知り合いが来てるけど大丈夫っしょ？」

「はい〜失礼します」

客間に通すと鈴見さんと杏さんが初顔合わせ

「はじめまして〜杏です」

「え？あ、あの鈴見華鈴です…神宮司さん、彼女は？」

「ああ彼女は…（俺の趣味の事、言っただけ〜まあ大丈夫か）俺の趣味の友達だよ」

「ほうほう〜カムイさんのお友達と言うとコスプレイヤーですか？」

「こ、コスプレイヤー？」

目を真ん丸として驚いてる様子だった

「あく鈴見さんは探索者やってる人だよ」

「なんと！〜ではカムイさんのパーティ仲間なんですね…じゃあもう孫悟空で私の部屋まで来て教えてくれたのに〜今度見せてくれるって言ったのに全然連絡してくれなくて本当、カムイさんって焦らすの好きなんだから〜」

「…へ？」

鈴見さんはあっけに取られて呆け顔になっていた。

「…（しまった〜口裏合わせておくの忘れてた!!!）」

（どうすればいいんだ？）

「あれ?!お二人ともどうしたんですか？」

杏さんだけ俺たちの顔を見て不思議がってる。

「神宮寺さん…」

「はいー」

俺は背筋を伸ばす。

「孫悟空のコスプレ?…かめはめ波?…瞬間移動?…もしかして神宮寺さん…」

「ごめんなさい!!」

俺は土下座して謝る。

「その…嘘をついてごめんなさい!!」

その後、俺は土下座しながら鈴見さんに孫悟空のコスプレ姿で鈴見さん達を守った事、そして知らない嘘を付いていた事、そして自分のスキル、職業コスプレイヤーとキャラクター、クリエイトの事の説明に追われた。

杏さんは事態が呑み込めず、頭にクエスチョンマークをいくつも炸裂していた。

「その分かりましたから…神宮寺さん…頭を上げてください」

鈴見さんはそういうと俺に声をかける。

「スキルは人にとって致命的なものになるし嘘ついたのは仕方がないですし謝る必要ありません。だから気にする必要はありませんよ。」

俺はその言葉にホツとして顔を上げたが…

「まあ確かに…悟空の事、聞いて嘘つかれるのちよつとムツとしましたけどね…その力で私達を助けてくれたのだから感謝こそすれ謝る必要はないですから…だから気にしないで…」

しかし目には薄っすらと涙が溜まっていた。

「本当ごめんね…鈴見さん」

俺は再び土下座を完遂する事になる。

…で…どうしてこうなった?

「はいでは…孫悟空のコスプレ披露です!!どうぞカムイさん!」

杏さんは気軽に、鈴見さんはワクワクした顔で俺の方を見ていた。

「えええ〜では孫悟空のコスプレ始めさせて貰います〜」

【キャラクター】 孫悟空

彼女たちの前で俺は孫悟空のコスプレをして立つ…

「おおおおく孫悟空のコスプレだ!!…良いじゃないですか!」

「本物の孫悟空だ…」

杏さんはカメラマンの目になり、鈴見さんは憧れの人物に会えたファンみたいな顔で俺を見ていた。

「超サイヤ人はできるんですか?3は?もしかして黒歴史の4は?もしくははゴツド?」

杏さんはテンションアゲアゲの状態で聞いてくる。

「まだ覚えてないよく多分あるとは思うけどね、瞬間移動が最新」

「確か雷王拳使ってましたよねく身体中に電気のスパークが光ってましたよね」

「おおく雷王拳とはまたマニアックな…」

「流石に部屋の中で雷王拳使うと不味い気がするからパス」

「えええええー」

2人はついさつき初めて会ったとは思えないシンクロさで俺に不平を言う。

「コスプレか…学生の頃やってみたいなとは思ったけど、なかなか敷居が高かったしやり方も分からなかったからできなかつたんですよね」

「ならやりましょうよ!」

「え?」

「衣装なら私持ってますしく最近は配信の度に着てますよ!!」

「配信?」

「私、動画の配信者でもあるんで着る服が、意外と面倒臭くってウィッグ被ってコスプレ衣装着てやってるんです」

「まあ…お試しに试着みるのも良いかな」

俺はそんな光景を微笑ましく見ていると…

(ん?!あれ何か違和感が?)

俺はスマホを覗くとステータスに新たな項目が追加されている事に気がついた。

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈 〈貸出可〉

・鈴見華鈴 〈貸出可〉

これは…

第13話 ダンジョンで歌が聴こえる…コスプレイヤーフレンドの実態

『なあ最近、ダンジョンで歌聴こえないか?』

『おお聴いた聴いたあの声ってモンスターだろうか?』

『いや…あれはどっちかというところ…アイドルソング?アニソン?…何か聴いてると元気が出てくるって言うか…』

『ファンタジーでよくある吟遊詩人かなんかかな?』

『妙に声通ってて女の人の声だよな?』

『人魚かなんかだろう?』

…と好き勝手な想像をしてる人達を尻目にダンジョンの奥深くで歌が聴こえる…

『携えし―無双の槍はくガングニール―』

大きな槍を持つ黄色いボディスーツにアーマーを付けた女子

【激槍流星竜巻】

槍から迸る可視化されたエネルギーとなって竜巻のように、うねって敵を切り裂いていく!

『気に食わない―ヤツら―は私の―デカイ此奴《こいつ》で―バン♪バン♪バン♪』

後方で両手にクロスボウを持った赤いボディスーツにアーマーを着た女の子が敵に向けて連射する。

『防人の―剣を一度振るわば♪―燃えて灰となる―』

青いボディスーツにアーマーを付けた身体の大きい女(?)が刀を振るいながら…

【風林火斬】

刀が剣に変形してもう一つの剣と柄同士を合体させて炎を剣に纏わせながら回転させて敵に斬り込んでいく…

そして何故か3人は歌を歌いながら戦ってる…

6階層の奥で人の気配はない空間で女性達(?)の声だけが響いて

いく…

「いや〜意外と癖になるねーこの歌いながら戦うのつて〜」

槍を立てかけて黄色の女子は水筒から飲み物で喉を潤しながら感想を言う。

「え〜そうですかー私、ただ歌いながら撃ってるだけですからちよつと物足りないつすよ」

赤色の女子は岩に腰掛けながら同じく水筒に口を付けながら喉を潤しながら呟く。

「……」

青色の女子…と呼ぶよりガタイの良い人物は同じく水筒を飲みながら無言を貫く。

「カムイさん…：やっぱりまだ慣れませんか？その身体？」

「まあ神宮寺君が協力してくれて言うから手伝ってるけど…：やっぱり嫌？」

「…俺は別に他のキャラでも良いんですが…：お二人に手伝って貰ってますから不平なんてありませんよ…：ただ…」

「ただだ？」

「こっく男のアレが無いのと胸があるのがどうも違和感しか無くて戸惑ってるだけだよ…：女性ってよくスカートとか履いて外歩けますよね？…：俺はそれを想像しただけで怖いです。」

「まあ〜慣れよ慣れ！」

「女装コスプレもそこまで処理できたら他の女装レイヤーさんが嫉妬しますよ〜きつと」

そう俺の身体は今、キャラインストールのおかげか？男のアレが綺麗に無くなって…：感じがするし、そう大きくないが女性特有の胸が膨らんで触ると、これまで感じたことない感触に…：マシユマロ？何とも言えない感覚に俺は…

「カムイさん…：それ以上はセクハラになりますよ〜」

「まあ気持ちは分かる…でも私らも何か…魔法少女と言うかアニメや特撮の変身ヒーローになった感もあって…しかも身体のラインがモロに出てるしちよつと恥ずかしいかな…って」

「そうだよね〜ゴメンね…手伝って貰ってるしね〜今更だよね」

それは3日前の俺の家に来ていた鈴見さんと杏さんがいた時の話に戻る…

俺はとりあえず

スマホアプリで載ってるステータスの表示を2人に見せる。

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈 〈貸出可〉

・鈴見華鈴 〈貸出可〉

「これは…どういう事？」

「私…友達？」

「今確認したら表示されてたよ…まあ新スキル扱いだから探索者事務所所に行つて更新しないとね…ただ、わざわざスキルに表示されて2人の名前のところに未実装って事は俺のスキルを使えるかもしれない」

「え?!私が孫悟空になれるかも?」

「え!私がカムイさんの様な力が使える?」

2人の顔は思っていたのと違つてたのは少し驚いた。

「明日以降何か予定あるかな〜二人とも?」

「私はまだダンジョン潜れないし大丈夫だと思つよ。」

「私も動画編集するぐらいなので大丈夫です。」

「了解…ちよつと試したいから連絡するよ。」

二日後、神宮寺家にて…

「二人ともありがとうね〜呼び出して…」

「いえいえ」「こちらこそ」

「さて、まずこのスキルだけど連絡した通り、やはり俺のスキルをフレ

ンドになった人にスキルの力を使える様にするらしい。」

「おお〜」

「と言う訳で〜まずは杏さんには…」

「うんうん」

「まずこのウィッグを被って欲しい」

「へ？これ被るだけですか？」

「まあモノは試しにね〜」

俺は杏さんを化粧台のある洗面台でウィッグを被らせる手伝いをする。

ウィッグは銀色のロングの髪の毛で昨日のうちに用意していて約30分かけて杏さんに付けてメイクも俺がやったんだが…

結局、1時間かけて終了。

さて杏さんはウィッグとメイクで何とか完成…しかし服はいつものチェックのシャツにジーパンで…

「これで本当に雪音クリスとしてはどうなんでしょう？」

杏さんもかなり不安そうだったが…

「では杏さん両手を出してください」

「え?!:こうですか?」

両手を俺の方に向けて出してくる。

「ではいきますね〜失礼します」

そう言って杏さんの両手を両手で握り返す…

「あ…ん…何か緊張します」

少し恥ずかしいのか…頬が赤く見える

【キャララインストール】雪音クリス

俺はそう言葉にして…そして発動する。

両手を離して

「どうかな?これでインプットしたはずだから髪の毛とか触っても大丈夫ですよ」

「はい…あ…凄い…ウィッグじゃないみたい」

「本当どれどれ？」

鈴見さんも触り始める。

スマホを覗くとステータスに

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈 〈雪音クリス〉

・鈴見華鈴 〈貸出可〉

(よしうまくいったなくそしてこれでやっと作れる)

クリエイトの項目にイチイボウの首飾が表示されてるな…

そのまま【クリエイト】を発動！

【クリエイト】イチイバルの首飾 作製

スキルを発動して事前に用意したアクセサリーショップで売つた安いペンダントを媒介にして俺の前の空間でペンダントが変化していく…

そして光が収まると赤い石でできたペンダントが現れた。

できたペンダントを…

「はい、杏さん…このペンダントを首にかけてください」

杏さんに渡すと鈴見さんが手伝ってくれて無事、胸に赤い石のペンダントをかけている。

「では杏さん…赤い石を両手で持って—イチイバルユニット発動…つて言ってください」

「え—ま、マジですか？」

「はい」

杏さんは雪音クリスの顔で顔が真っ赤になりながら

「イチイバル—ユニット…発動です」

その声と共にペンダントが光り始めて彼女の身体を包み込む様に赤い球体に、すっぽりと収まると次の瞬間、赤い球体が消えてそこには…イチイバルのユニットを纏った杏さん…もとい雪音クリスがいた。

「おおおおお!!」「…ええええ!!」

俺と鈴見さんは驚いた顔で称賛し、杏さんは恥ずかしいのか胸の谷間を両手で隠す…まあ雪音クリスのイチイバルユニットは身体のライン出るし胸も特盛の女子だから、まあこうなるよね…とは思ったが、想像以上だった。

「凄い…杏さんヤバい…可愛いし大きい！」

鈴見さんの顔がみるみる○○○○顔に変化していく…

(鈴見さんって意外とエロい人?)

「ううう…もう着替えたいです」

「杏さんありがとう…これで実験終わったから元に戻ってもいいよ」

「はい…ごめんなさい」

「じゃあ次は鈴見さん…鈴見さんそろそろ解放しようね」

鈴見さんは杏さんの胸を揉んでいた。

「鈴見さん！そろそろ女子に戻って！はい鏡！」

俺は鈴見さんの前に鏡を見せる…かなりショックなのかすぐに手を離していつもの鈴見さんに戻っていた。

「ねえ…私のコスプレするキャラって巨乳？」

「え…まあまあ巨乳だったかな？」

鈴見さんがどんどんポンコツに見えてくるなく

さて杏さんと同じく洗面台で赤いロングウィッグを被せてメイクは鈴見さん本人がやってくれて時間短縮。

そして…

【キャラインストール】 天羽奏

スマホを覗くとステータスに

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈 〈雪音クリス〉 ●貸出

・鈴見華鈴 〈天羽奏〉

ガングニールの首飾表示されてるな…

そのまま【クリエイト】を発動！

「クリエイイト」ガングニールの首飾 作製

スキルを発動して事前に用意したペンダントを媒介に光が収まると赤い石でできたペンダントが現れた。

「できたよ…これを首にかけて赤い石を握りながら、ガングニールユニット発動でよろしく」

「分かったーえくとガングニールユニット発動!!!」

鈴見さんはどこか魔法少女を意識してるのか両手で握りながら身体を回転させて…

黄色い球体に鈴見さんが包まれて光が収まると…

そこには天羽奏のガングニールユニットを纏った鈴見さんが立っていた。

「おおおおお」

俺と杏さんは声を出して驚くく想像以上に似合う！

「これがガングニールユニットか胸も思ったより大きいし、何か軽いね…意外と悪くない…あれ？槍は？」

自分で自分の胸を下から手で持ち上げながら自分で揉み揉みして…

「あくそれは両手の籠手を合わせると槍に変化するはず」

俺は呆れながら鈴見さんの質問に答える。

「了解！…おおお籠手が合体したく凄い変形した！」

籠手が合体して変形して大きな槍…見た目には斬馬刀って感じの大きい刃なのだろうか？

「ねえく技は何があるの？」

「その場合は、聖歌を歌えば技を発動できるけど、外でやってね」

と言う訳で庭に出た鈴見さん…

「歌か…聖歌か…あ…これかな…ああああくおほん！……」

『神の槍くガングニール♪その無双の槍にて貫ける物無し♪』

槍に光が灯る…聖歌のエネルギーで力が増していく…

そして

「あ…駄目だ…ここで使うと不味いわ」

そういうと鈴見さんは歌を止めてウイッグ被った天羽奏コスプレした鈴見さんに戻った。

「やあく危なかったよ、ここで使ったら家壊してるかも…ダンジョンでしか無理だわ」

鈴見さんにもどうやらその辺の分別が分かるらしいく良かった。

「よし！今からダンジョン行きましょう!!」

「えええ」

さて俺と杏さんは鈴見さんの暴走を止められるか？

第14話 続・ダンジョンに歌が聴こえる…

止められなかったよ…

と言う訳で急遽ダンジョンに潜る俺達

一応、瞬間移動で鈴木先生に連絡して許可を得て事務所へ転移。その後、事務所2階で受付く杏さんは仮探索者カードのままなのでカードを更新して本格的に探索者になるようだ。

「今日、行くかもしれないと思ってカメラ用意して正解でしたね〜」
「いいの？そこまで付き合う必要ないよ〜杏さん？」

「だってせっかくコスプレして、しかもモンスターと戦える力を持つるのなら使ってみたいですよ」

「杏さんが良ければいいけどね〜鈴見さんは用意できた？」

「うん〜大丈夫よ…いつでもOKよ」

「では行きますか」

「「おおおー」」

1階層を通り、2階層も抜け、3階層辺りで奥に行く俺達…

(この辺になると人も減るな…キャラインストールするなら…)

「神宮寺くん〜」

「ん？何？鈴見さん？」

「神宮寺君も勿論、シンフォギアのコスプレするよね？」

「え？いや〜その…俺は別に良いかな〜って、だって今回は実験的な意味合いも多いし流石に…破廉恥《女装コスプレ》かな〜と…」

しかし二人は納得してない模様

「え〜カムイさんの女装コスプレ興味があります！」

「さささ〜見せてくださいよ…ひひひ…」

(あれ？鈴見さんいつの間にか俺を君付けだし何だろうどんどん鈴見さんヤバい人な気がしてきた〜どうしよう？)

「ガングニールユニット発動」

「イチイバルユニット発動」

鈴見さん&杏さんは天羽奏&雪音クリスのコスプレを発動する！

「さあ」

(いやそんな笑顔で言われても…)

あれ？彼女達、ワクワクしてる感じだな…

…

「分かりましたからシンフォギアのコスプレしますから…」

【キャラクター】 風鳴翼

俺は赤い石を握りながら…

「天叢雲剣ユニット発動！」

青い球体に包まれながら俺の身体は変化していく、髪の毛は青いリングの髪の毛になり胸を膨らみ、男のアレが消えていく感触を感じながら、天叢雲剣ユニットを装着した風鳴翼《女装コスプレ》になった神宮寺彰人が姿を表す。

「おお」

「行きますよ！2人とも!!」

「了解！」 つす

『さあさあー♪期待に伝えてく Brett のパレードを並んで食いやがれ〜♪』

ギューンー！

バラバラバラバラバラ×2

両手にダブルガトリングガン×2、持って撃ちながら歌う幸音クリスティー(イチイバルユニット)のコスプレの杏さん…意外とノリノリ…

杏さんって普段、伊達メガネかけてるけど今回コスプレで外してるけど…こんな活動的な事もできる人だったんだな…目も元々良いしカメラマンとして腕も良いから中遠距離の銃、弓系が合うんだろうな。

『Run through break through any where♪ 無敵の槍で何処までもー♪』

【激槍重力落】

歌を歌いながら大きい槍と共にジャンプして槍を放り投げてオーガに刺さった先でそのまま腰のブースターを全開にして槍の持ち手にキックしてトドメとばかりに一撃で倒してる。

鈴見さんは探索者として元々戦士系で剣、槍を使っていたと言う事でガングニールの槍使いの天羽奏を勧めたが：想像以上に合ってるようだ。

『防人の剣をー♪受けたきモノどもはー♪剣のサビにして護国のイシツエにー♪』

【陰縫い】

オーガ達の影に陰縫いの小さな剣が刺さると途端に動かなくなつて戸惑つてる。

鈴見さんは槍を回転させて斬り伏せて突く！

杏さんは動けなくなったオーガ達にガトリングガンの弾を浴びせる!!

そして俺のコスプレ、風鳴翼の天叢雲剣ユニットは刀と剣を中心に使う戦い方が俺とは合ってるので：

まあ俺は戦姫絶唱シンフォギアって作品が好きだけどね〜ある特定のキャラは好きだけど翼はそこまで関心が無いし、杏さんは作品を知ってる程度で鈴見さんは知らないなので、当然スキルレベルも1レベルスタート：しかしあつという間に2に上がった。

この作品は歌を歌う事でそれを力と変えユニットを武器化、防具化して戦うと言う少し変わってるけど歌にはユニットへのエネルギー供給機能がある為、精神力を消費する事なく戦い続けれるので：

気がつけばスタミナの消費と喉が渴くのでカラオケで運動しているものだよな〜

だから：

「はあはあはあはあ」

まあこうなるよねー

「いやー体力あるつもりだったけど…少し考え直さないといけないかも」

鈴見さんもキツそうだが大分、落ち着いた様子だ。

「単に慣れの問題な気がするな…いくらエネルギーが歌で減らないとはいえスタミナと喉にかかる負担を抑えつつ…」

隣を見ると杏さんはぜえぜえと辛そうだ。

「はあはあはあはあ…んぐー!」

杏さんはそんなに動いてないけど初めての实战だからな…息を切らして水筒の水で喉を潤している。

「大丈夫…杏さん?」

「は…はい」

「まあとりあえずお二人ともどうでした?」

「何か最初不安だったけどオーガってそれ程、怖くなかったわ…槍の必殺技が良いわね〜下手すると私1人でも倒せるかも」

「まあ自分の技量と合わせてガングーニルユニットが噛み合ってる感じだね」

鈴見さんは女性だからどうしても槍とは言え非力なのかもな…槍スキルにもそういう技もあるだろうけど精神力の消費が激しいからそんなに気軽に使えないだろうし…

自分も面白いように技を使えるのは利点だなと思う。

「私は後ろから撃つだけだけど、全然武器も重く無いし反動も無いし思ったところに当てられるのは楽しかった〜ゲームでもこうはいかないですよね」

なるほど歌を歌ってエネルギーを生み出し武装やアーマーにも供給されるからなあ…杏さんらしいな。

「さて検証も済んだし戻りますか?」

「了解」

こうして新たなスキル「コスプレイヤーフレンド」の検証が終わり、

いつものパターンで先生の元へ瞬間移動して事務所で帰還報告して
：モンスターの落とす魔石を換金して、帰路に着く…

第14・5話 可愛いエリー

え？どうやって帰ったって？実は建物はダメだけど生き物…つまりペットなら良いみたいで、近所の犬さんを登録して神宮寺宅へ戻れる事が分かった。

2階の事務所から降りて転移門のあるところにまで移動する。

突然、人の目の前から転移するのはマズいので…転移門のあるところなら、転移しても大丈夫ではないかと…

俺はある存在を思い浮かべて瞬間移動の準備をする。

【瞬間移動】 エリザベート

エリザベート…通称《エリー》

実は建物はダメだけど生き物…つまりペットなら良いみたいで、近所の犬さんを登録して戻ってきました。

到着したのはうちの近所の家へ…

ワンワンワン!!

出迎えてくれたのはエリザベートちゃん

犬のエリーが尻尾を振って喜んでくれる。

「おお〜いつもありがとうなエリー」

俺は目の前で喜ぶ犬のエリザベートを抱き締めて感謝する。

「凄いね…彰人って…」

「私も流石に無理かもな…良い子とは思うけどね」

まあエリーはドーベルマンだからどうしても見た目が怖そうなのはね…

俺が学生の頃から懐いてくれるからね。

「あらあら神宮寺さん、おかえりなさい」

エリーの飼い主さんが挨拶してくれる。

「ただいまです」

俺は挨拶を返し…

「こんにちは」

華鈴達も挨拶する。

「まあまあ神宮寺さんってばモテモテね〜」

「へ?! あ〜彼女達は友達ですって〜」

とまあご近所トークの後に帰宅する。

そして鈴見さん、杏さんの2人はそれぞれの帰路となったわけ
です。

余談：

鈴見さんは戦姫絶唱シンフォギアのアニメを帰る際、観たいとの事
でシーズン1の入ったBlu-rayディスクを貸して喜んでいた。

「よし〜天羽奏の活躍見るぞ!!! 槍捌き勉強しないとね〜」

ウキウキ顔で帰っていく後姿を俺と杏さんは何も言わず生温かい
顔で見送った。

次の日：メールで

『何で奏が1話の序盤で死んじゃうの? 納得できない!! プンスカ
!』

と言うメールを貰い俺と多分、杏さんもその試練はもう受けたから
なあ〜と…これがオタクの祝福だよと心の中で思った。

合掌：

そして文句を言いつつシーズン1を見終わってまた一言…

『立花響はいつ槍を使える様になるの?』とメールがまた着てた。

彼女《立花響》は、拳《コブシ》だけだよ〜と返信したところ納得
できなくて再び俺の家に襲来したのは別のお話。

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv20

生命力： 871

精神力： 465

攻撃力： 572

回避力：586

筋力：287〈Lv20+キャラ8+SLV32+孫30〉

器用：285〈20+8+32+30〉

敏捷：299〈20+8+32+30〉

知力：242〈20+8+32〉

魔力：223〈20+8+32〉

風鳴翼〈キャラ使用中〉

生命力：381／871

精神力：142／465

武器：天叢雲剣ユニット：攻撃+150(Lv20+Lv09+

攻572)：攻撃力：733

防具：天叢雲剣ユニット：防御+150(Lv20+Lv09)

：防御力：179

：回避±00(Lv20+Lv09

+10回586)：回避力：615

スキル

戦闘スキル

・夢双一刀流刀術Lv09

・夢双一刀流槍術Lv07

・夢双一刀流拳術Lv04

・我流剣術Lv03

・我流銃術Lv02

コスプレイヤースキル

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈〈雪音クリス〉●貸出

・鈴見華鈴〈天羽奏〉●貸出

キャラインストール〈ギフト〉(8)

・オーバーロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス〈天賦〉

・ドラゴンボール

- 孫悟空 〈能力向上〉
- ピッコロ大魔王 魔Jr 〈同化〉
- クリリン 〈不意打ち〉
- ・戦歌絶翔シンフォニア
- 風鳴翼 〈絶刀〉
- 雪音クリス 〈魔弓〉●貸出
- 天羽奏 〈絶槍〉●貸出
- クリエイト(回数15回)
- ・Original 〈アイテムボックス+2〉
- ・ブレイン 〈護神刀、鎖着、葉鞘+2〉(未)首飾、指輪
- ・エルヤー 〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス
- ・孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー
- ・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未)■
- ・クリリン 〈(未)■〉
- ・風鳴翼 〈天叢雲剣の首飾〉(未)■■■
- ・雪音クリス 〈イチイバルの首飾〉●貸出(未)■■■
- ・天羽奏 〈ガングニールの首飾〉●貸出(未)■■■
- キヤラクタースキル
- ・ブレイン 我流刀術 Lv07
- 兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上
- ・エルヤー 我流刀術 Lv04
- 牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改
- ・孫悟空 亀仙拳術 Lv06
- 気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元気玉、瞬間移動
- ・魔Jr 魔王闘術 Lv05
- 爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法
- ・クリリン 亀仙拳術 Lv04
- 気配(完全遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾(追尾弾)
- ・風鳴翼 刀剣術 Lv02

☆風林火斬、☆陰縫い（☆聖歌）

・雪音クリス 弓銃術 Lv02 ●貸出

☆クロスボウ×2、☆ダブルガトリグガン×2（☆聖歌）

・天羽奏 我流槍術 Lv02 ●貸出

☆激槍重力落、☆激槍流星竜巻（☆聖歌）

【☆マークはそのキャラコスプレ中にしか使えないスキル】

聖歌 ：戦姫絶唱シンフォギアのアームドスーツが戦いの際に適合者が歌を歌う事でエネルギーを生み出しその力でユニットを武器化、防具化して戦う。歌にはユニットへのエネルギー供給機能がある為、精神力を消費する事なく戦い続けれる。聖歌はユニット内から頭に湧き出るように言葉が紡がれてその湧き出た言葉を歌にする事でユニットを動かすエネルギーを作り出す。

聖歌はアームドスーツでのみ使えるスキルになる為、通常スキルと違い変身しないと使えない。

第15話 冥耶さんの相談とワールドトリガーの スプレ編

「こんにちは神宮寺さん」

「いらつしやい2人とも」

「…そのお邪魔するよ…えくと神宮寺さんだったよね」

「ああ元気になって良かったよ」

「華鈴から神宮寺さんが私達を助けてくれたと、聞いてまだお礼も言つてなかったから…本当ありがとう」

「どういたしまして…まあこんな玄関で立ち話も、あれだから2人共上がってくれ」

客間に2人を通して、昨日貰った連絡の話し合いをする事になった。

2人にはコップと複数のジュースのペットボトルを置いて、俺もその中でミネラルウォーターを取つてお互い座り合う。

「さて…鈴見さんからの提案通り、冥耶《めい》さんに力を貸すことにするよ」

実は冥耶さんはあの救出後、ダンジョンに再び潜る事を躊躇っていたようで、ずっと部屋で引き籠っていたとの事…その話を鈴見さんから聞いて今回の件を相談されて冥耶さんにも俺の力を貸し出して貰えれば復帰できるんじゃないかと…

「本当に良いのかな？神宮寺さんに迷惑をかけるんじゃないや？」

冥耶さんは恐る恐る俺へ聞いてくる。

「別に迷惑だとは思わないしそれで冥耶さんの復帰の手助けができるなら…ん？鈴見さん、ん…どうした？」

「何で冥耶の名前は言うのに、私は鈴見さんなのかなと疑問に思つてね」

顔は少し怒つてる雰囲気醸し出しながら拗ねてもいるようだった。

「え？…だって俺、冥耶さんとしか聞いてないし名前だったのか？名

字では無くて…あれ不味かったかな」

「あ…ごめんね私は冥耶・(違う!!そういう事じゃない!!)」

冥耶さんの言葉を被せるように怒る。

「だから私の事も…華鈴《かりん》って言っても良いのよ」

…? 鈴見さんは何を言ってるんだ?

冥耶さんは何かに気付くと…

「ははあんくなるほどね…じゃここから私も…えくと彰人さんで良
いかしら?」

びくん!

「冥耶《めーいや》…後で覚えておきなさいよ!!」

鈴見さんは完全に怒ったのか…俺達の反対方向へ顔を向けてブツ
ブツ言ってる。

「あくちよつと揶揄い過ぎたわね…ゴメンね…華鈴ってば…」

「ホントウメイヤノヤツハ…アキトモアキトヨコマテイツテキヅカ
ナイナンテドンカンスギ…」

何やらブツブツと文句を言いつつようやく話の場が落ち着き始め
る。

「え…冥耶さんに…か…華鈴さんもお話いいかな?」

華鈴さんも話を聞く姿勢になる。

「では、改めて私の名前は冥耶・ハミルトンよ…この前は助けてもらっ
て感謝するわ…神宮寺彰人さん」

「ハミルトンって…親のどちらかが日本人とか?」

「母が日本人よ…私、小学生に引越してきた、いわゆる帰国子女って
やつよ」

「なるほどね…さてでは話に戻るけど俺のスキルを貸し出すのは全然
構わないよ…だから冥耶さんが使いたいキャラを教えてください俺
が知らなくても貸し出せると思う。」

「その…私の兄が好きで漫画の作品で私も好きなんだけど…ワールド
トリガーって漫画…アニメにもなってるから彰人さんなら知ってる
んじゃないかしら?」

「ワールドトリガーか…勿論知ってるよ…そうかそこか…で何のキャ

ラ？」

「ちよつと待つてよ！2人だけの世界に入らないでよ!!私にも分かる範囲で教えてよ〜どんな作品なの？」

華鈴さんは蚊帳の外に出された気分らしくまた拗ねていた。

「ワールドトリガーは異世界からの侵略者・近界民（ネイバー）と防衛組織・ボーダーの戦いを描くSFアクション漫画でアニメにもなってる作品だね」

「ふ〜ん面白そうね…あ〜ドラゴンボールと同じ集英社の漫画なんだね、彰人は持つてるの？」

華鈴さんはスマホで検索して情報を得たようだ。

「あ〜漫画は15巻ぐらい買ってるよ…まだ全部集めてないよ〜最新刊は20巻ぐらいまで出てたかな？」

「読ませて〜」

「はいはい〜ちよつと待つてね」

俺の部屋にある本棚から15巻をアイテムボックスに入れて客間に戻ると華鈴さんの前に置くと1巻から読み始める。

「さてごめん〜でどのキャラのコスプレしたいのかな？」

「烏丸京介（カラスマ・キョウスケ）」だけど…分かる？」

「分かるよ〜なるほど作中公認のイケメンだもんなくモテるしな」

「私でもコスできるかな？」

冥耶さんは髪型はセミロングで探索者の時はポニテしてる感じの金髪女子、だから黒髪のウィッグを用意すればできるか？

「多分、この前のシンフォギアもウィッグ用意すればできたからワールドトリガーでも、できるかも…簡単に」

「できる？」

「ああ〜この作品のキャラは普段は学生だったり、普段着から起動ユニット発動してトリオン戦闘体に換装できるから、ウィッグだけでできるかも知れないなくちよつと待つて〜」

俺はコスプレ用の荷物置き部屋から、予備の黒髪のウィッグを持ってきて早速、セットの準備をする。その間に華鈴さんと冥耶さんには待つて貰って…まあ、セットも何も長過ぎる髪をカットするぐ

らいで終わるゝカットした髪は専用の箱に仕舞い保管する。

何故、捨てずに保管するだつて？

それはレイヤーあるあるだが髭だつたり眉毛だつたり加工する事ができるし長めにカットした髪は短い髪にサイドテール、アホ毛を再現する時に利用できるからだ。

「とりあえずできたけど…冥耶さんさつそく被つてみて、多分洗面台行く必要ないともは思うが…」

冥耶さんにウィッグ渡すと目の前に置いたミラー台で被り始める。

「私もできそうなキャラいない？」

華鈴さんは漫画を読みながら…まだ4巻か。

「華鈴さんができそうなキャラか…槍使いは男性でいるけどね」

華鈴さんと冥耶さんの身長は165cm前後でまあまあ標準よりは背が高い方だと見受けられるが…華鈴さんの方が若干背が低いかな？

「男性でもいいなら槍使いはいるけどね…どうする？」

「ん…女性でいないか…槍以外でも良いけどね」

「烏丸と同じ隊で女性キャラいるけどそれでいいかな？」

桐

「うん」

「小南桐絵…この子だけど」

漫画の3巻初登場シーンを指す。

「この子のメイン武器は？」

「普段は両手で小型斧使つてて、ここ一番の破壊力が欲しい時には斧同士を合体して大斧で攻撃するキャラだね」

「ほうほう」

「これでどうかしら？」

綺麗に髪を纏めてウィッグに収納して眉毛も金から黒に塗つて多少化粧したのかイケメン度が増してた。

「じゃあ〜早速…とその前にスマホでチェック」

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈 〈雪音クリス〉 ●貸出

- ・ 鈴見華鈴 〈天羽奏〉 ● 貸出
- ・ 冥耶・ハミルトン 〈貸出可〉

俺のスキルの説明したからフレンドになったんだなくまずこれで第1条件クリア。

「よし〜フレンドになってる…では冥耶さん、両手出してください」「はい」

冥耶さんが両手を出してきた。

「では失礼するよ」

冥耶さんの両手を握って俺はスキル発動させる。

【キャラインストール】 烏丸京介

今一度スマホで確認すると…

コスプレイヤーフレンド

- ・ 立花杏奈 〈雪音クリス〉 ● 貸出

- ・ 鈴見華鈴 〈天羽奏〉 ● 貸出

- ・ 冥耶・ハミルトン 〈烏丸京介〉

「登録できてやはり起動ユニット持つてるからこれでトリオン戦闘体になれそうだな」

クリエイトの項目にやはり起動ユニットが追加されていた。

【クリエイト】 起動ユニット 作製

依代にするのは梱包材で使われるゴミを取ったあつたのでカッターで作中の起動ユニットらしく形を整えて、黒いマジックで塗るゝすぐ乾くからクリエイトで作製した結果…完成！

材質は不思議な材質…プラスチックでもないし金属でもない…中間の素材に感じる。

できた起動ユニットを冥耶さんに渡すと…

「これが起動ユニットか…使ってみても？」

「ああ〜勿論どうぞ」

「トリガーON!!」

漫画やアニメで起動シーンと同じ様に言う冥耶さんの身体に青いジャージ風の上着に黒のシャツ、黒のグローブとブーツ、グレーのズボンが確認できる。

「うわーい、トリマルだ!!」

冥耶さんはかなり興奮している。しかし何故、作中トリマルって呼ばれてるんだろう？後で調べてみよう。

キャラクタースキルをスマホで確認すると…

・烏丸京介 万能士 Lv01

☆アサルトライフル(変化弾)、☆エスクド×2、☆弧月、☆マント、☆シールド(☆緊急脱出、トリオン戦闘体)

凄いな…スキル(技)では無く装備としてなんだな…つまりレベルを上げても増えない？でも原作の特殊装備(ガイスト戦闘体)が無いのはスキルレベル上げないとダメかな？

冥耶さんは思い付く限りのスキルを発動する。弧月、アサルトライフル、シールド等…ちよつと外に出てエスクドを発動して壁を作ったり色々試している。

「これで早く戦闘してみたい」

冥耶さんはやる気が出るみたいだな…当初の予定通りなのだが…

「次は私の番ね！コレでどう？」

華鈴さんはさつき渡した茶髪のロングウィッグを被って小波霧依のコスプレのつもりらしい…が…アホ毛無いじゃん！

しかし華鈴さんはこれで十分と言わんばかりで…これで登録できるか？甚だ疑問だが本人が言うので試しにチャレンジだな。

【キャラクター】 小南桐絵

…しかし反応が無い。スマホ見ても登録されてない…

やはりアホ毛だな！

華鈴本人は

「何でダメなの？」

等と叫んでいた。

まあ仕方がないよね。

余談…

トリマルって名称は前の部隊の先輩に名前を間違えられてそのま

ま渾名になったようだ。流石、勉学を生贄にして戦闘力を得た大学生らしいな

第16話 続・ワールドトリガーのコスプレ編

「何でダメなのよ!!」

「ちよーちよつと待っててね」

俺は整髪剤とハサミで華鈴さんの被ってる髪の毛を集めて、整髪剤で塗ってドライヤーで乾かしながら角度を見る。

ある程度固まったら余計な毛を切る、そして切った髪を更にアホ毛に追加して整髪剤で固める。

そしてアホ毛の完成だ〜ついでに前髪を分けて更に似せる。

よしこれで試してみるかー

「ではいくよ」

【キャラクター・小南桐絵（コナミ・キリエ）

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈〈雪音クリス〉●貸出

・鈴見華鈴〈天羽奏〉●貸出

〈小南桐絵〉

・冥耶・H〈烏丸京介〉●貸出

よし!今度はバッチリだなくスマホで確認。

そしてさっきの要領で梱包材で形を整えて黒マジックで塗って〜それらしく見せて:~

【クリエイト】起動ユニット 作製

よし完成〜

「はい、これで手に持ってトリガーONと言ってみてね」

俺は華鈴さんの手に起動ユニットを渡す。

起動ユニットを貰った華鈴さんは…

「了解!トリガーON!!」

身体がトリオン戦闘体に換装されていく:~そこにはロングだった髪の毛はショートボブになりアホ毛が2本に増え、黄緑色の身体のラインが出るボデイスーツにホットパンツ、スーツと一体化していそうな大きい手袋、膝まで届くスーツと同じ色のブーツへと換装していた。

「良い感じ〜」

華鈴さんも気に入ったようだ。

冥耶さんと華鈴さん…いや〜トリマルとコナミが揃ってるのを見ると俺の心の奥底にあるナニカが騒ぎ出す…もしかして揃う？

ここまで見事なワールドトリガーの最強部隊の2人が目の前にいるのを見たら俺も木崎レイジ（キサキ・レイジ）にコスプレできるのではと、ふつつつと思いが膨らんでいく。

俺はすぐに昔、買ってあつた短髪のオールバック仕様の赤髪ウィッグを取り出し洗面台で髪型を整えて…すぐさまスキルを発動する。

【キャラインストール】 木崎レイジ

まあ〜木崎レイジは頭の良い筋肉と作中で言われ、特には特徴のない髪型なので顔は髭も傷も無いので特徴としてはこれが限界。ただ衣装や装備がなかなかサバゲーする装備一式なキャラなので時間のある時に揃えようと思つてたから…そう今こそ、このスキルを使うとき！

さつきと同じ要領で起動ユニットの依代を用意して…

【クリエイト】 起動ユニット 作製

完成した…そうか…変身して武装や隊服を着るタイプはウィッグ等、顔や頭だけで良いんだな。わざわざコスプレ衣装用意しなければいけないキャラより楽な訳だな。

早速、俺は起動ユニットを持って…

「トリガーON」

俺の身体はTシャツに黒のタクティカルベスト、腰には大きなポケットが付いて前後に前2つ、後ろ2つの腰バック、黒のズボンに厳つい黒のブーツを履いている。

「わ〜いレイジさんだ!!」

華鈴さんも反応しているし冥耶さんも喜んでる。

(ああ〜これだよこれ…やっぱ併せは良い!!)

俺はいつになく感動していた…好きな作品を共にコスプレできる喜び…

…とまあ喜んでいたが…

「ねえ、彰人君…いまか」

「おお！今からダンジョン行くか!!」

華鈴さんに被せ気味に返事する。

「お…OK！冥耶も良いよね？」

「うん、行くこう…あ、でも装備が無いから家、寄って貰っても良い？」

「大丈夫よくどうせこのコスプレした格好でダンジョン入る訳だし普段着で、ねえ彰人君？」

「そうだねどのみち転移で飛ぶから大丈夫だよ」

「転移？」

「まあ実際に行ってみれば分かるよ」

冥耶さんはよく分からないまま玄関に3人集まると…

「先生はOKらしいから行くよ、2人とも手を繋いでね」

俺はスマホで連絡して問題ないとの返信が着たので、右手を差し出すと華鈴さんは右手で冥耶さんの手を握って左手で俺の右手を握り返してきた。

「じゃあ、飛ぶよ」

【瞬間移動】 鈴木先生

医務室に着いて先生に挨拶して2階の事務所にダンジョンに潜る報告をしてからダンジョン内へ…

そして3人で…

「トリガーON!!!」

トリオン戦闘体に換装した俺と華鈴さんと冥耶さん

「転移でも驚きなのに何か夢のようなスキルね」

「さあ、行くこうか…とその前に2人とも緊急脱出スキルでここを設定しよう」

1階層階段下で俺は2人に指示する。

「せっかくなこのスキルがあるんだから…何かあるとは思えないけど念のためだね」

「了解」

さあ!!ダンジョンへ…

『オーガ発見…3体だな、俺と冥耶は華鈴のサポート、華鈴はオーガ相手に好き勝手、暴れてね』

『了解』

トリオン戦闘体に換装中は通信も声を出さずにできるようで、更に移動中にさん付けは止めようとなり名前でやりとりする事に…

『いくわよ！』

【炸裂弾×2】

ドカーン!!!

キューブ状の光弾が華鈴の手から出るとオーガに直撃！

3匹が怯んでる隙に華鈴が迫る！

【双月×2】

両手に小型の斧が現れて一番ダメージを受けたオーガに斧を叩きつける！

ザクツシュー

《グオッ》

いきなり1匹が倒され残りの2匹はすぐさま気付き反撃を試みる。

俺は

【ガトリングガン】

俺は1匹に攻撃！

ブーン！バラバラバラバラバラ！

冥耶は

【アサルトライフル】

冥耶はもう1匹に攻撃!!

ドツドツドツドツドツド！

俺と冥耶で1匹ずつ牽制して当ててるが…やはりオーガとはいえ銃弾が貫通する訳では無い、しかし痛いのか何とか避けようと動くのを見ると牽制になるようだ。

そしてその牽制でオーガの動きが単調になってるのを華鈴は見逃さない。

華鈴は双月の柄同士を近づけ！

「連結!!」

【双月（斧）】

変形して大きな斧に変わる！

「でやーあ!!」

2匹の真ん中に入って大斧を回転させる！

ザクシユーツ！

ザシユーツ!!

2匹のオーガは胴を真つ二つに切り裂かれる！

ほんの一瞬の出来事だが、あの斧の破壊力は凄まじく…作中でも似た作戦で木崎と烏丸の2人が銃撃で牽制して小南の斧で暴れ回るシーンがあつたから実際に有効な戦略だと感じた。

それから戦闘は止まらず…

【レイガスト】 + 【スラストー】

「うおおおー!」

ドカン!

オーガの懐に入って拳でお腹に一撃!

殴った瞬間、ブースターを発動してオーガを浮かしてもう一度ぶん

殴る!

ドカン!!

「そつちへ行ったぞー!」

本来は盾にも大型の剣にもなる武器だが鬼崎の場合、素手にシールドを発生させてブースターで殴ると言う、イかれた戦い方だが、拳大のシールドでぶん殴るのは小回りが効くし使い方次第で暴れ回るのに有効だ!

「はいな! 連結!!」

【双月（斧）】

ザクシユーツ!!

飛んできたオーガを切り裂く!

冥耶は華鈴に攻撃が行かない様に右手にカタナ、左手にアサルトライフルを撃ちながらオーガを引き摺り回していた。

【炸裂弾】 × 2

ドカン！ドゴーン！！

《グアー!?》

華鈴が冥耶が引き摺ってるオーガに炸裂弾を当ててオーガが怯む。すかさず弧月で切り付ける冥耶

こつちも片付いて援護に入りそのまま拳で背中を襲う！

ドゴーン！

吹っ飛ぶオーガに更に冥耶は斬撃を与えて消し飛ぶオーガ…

「ふう〜お疲れ」

「お疲れさん」

「良い感じね」

冥耶自体久しぶりのダンジョンでのしかもオーガとの戦闘も、だんだん乗ってきたのか最後は接近戦まで仕掛けていたから、大分吹っ切れたのかもな…

「さてじゃあ今日はこれで終わるかね〜2人とも?」

「了解!」

「あく最後に緊急脱出使ってみたい」

冥耶が提案する。

「ああ…どうする使ってみる?」

華鈴に聞くと…

「私も良いわよ!」

どうやら同意を得たので〜

「【緊急脱出】」

俺達3人は同時に緊急脱出を使用した。

到着したのはさつき登録した1階層の階段下へ到着した。

これで何かトラブルが発生しても緊急で退避できる。

「これって事務所横の転移門に登録しておいた方が良いかもな」

俺がそう提案すると…

「そうね今度はそうしましょうよ」

「賛成」

と言う訳で新たなフレンドも登録でき、冥耶さんの復帰に手助けできた事は本当良かったと思う。

事務所で帰還報告と魔石換金を終えた俺達は自宅に戻る為に：

【転移】エリザベート

近所の犬の元に転移するとエリーに挨拶して俺の家に戻る。

「本当ありがとう…彰人…今日楽しかったよ」

「冥耶の復帰に力を貸せたんなら良かったよ」

「本当にこのまま借りても良いのかな？」

冥耶は起動ユニットを手待ち：

「ああー大事にしてくれな」

「ありがとう」

「じゃあ私達帰るわくまたね」

「ああ気をつけて…」

玄関先で別れて2人は車で帰路に着いた。

余談：

『ねえ〜アニメ見てるけど、小南の起動ユニットって赤一色だったよ』
華鈴からメールがきて：

すぐさまネットで調べると確かに赤だった…むう勉強不足だった
な、反省。

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv20

生命力：901

精神力：485

攻撃力：592

回避力：606

筋力：297 <Lv20+キャラ11+SLV39+孫30>

器用：295 <20+11+39+30>

敏捷：309 <20+11+39+30>

知力：252 <20+11+39>

魔力 : 233 (20+11+39)
 神宮司彰人 (キャラ未使用)
 生命力 : 750 / 901
 精神力 : 142 / 485
 武器 : 護神刀
 : 攻撃 + 100 (Lv20 + Lv09 +
 攻592) : 攻撃力 : 721
 防具 : マント
 : 防御 + 5 (Lv20 + Lv09)
 : 防御力 : 034
 : 回避 ± 00 (Lv20 + Lv09
 + 回避 606) : 回避力 : 635
 スキル
 戦闘スキル
 ・ 夢双一刀流刀術 Lv09
 ・ 夢双一刀流槍術 Lv07
 ・ 夢双一刀流拳術 Lv04
 ・ 我流剣術 Lv04
 ・ 我流銃術 Lv03
 コスプレイヤースキル
 コスプレイヤーフレンド
 ・ 立花杏奈 (雪音クリス) ●貸出
 ・ 鈴見華鈴 (天羽奏、小南桐絵) ●貸出
 ・ 冥耶・ハミルトン (烏丸京介) ●貸出
 キャラインストール (ギフト) (11)
 ・ オーバーロード
 ブレイン・アングラウス (集中力)
 エルヤー・ウズルス (天賦)
 ・ ドラゴンボール
 孫悟空 (能力向上)
 ピッコロ大魔王 魔 Jr (同化)
 クリリン (不意打ち)
 ・ 戦歌絶翔シンフォニア

風鳴翼

〈絶刀〉

雪音クリス

〈魔弓〉●貸出

天羽奏

〈絶槍〉●貸出

・ワールドリガー

木崎レイジ

烏丸京介

●貸出

小南桐絵

●貸出

クリエイト(回数21回)

・Original 〈アイテムボックス+2〉

・ブレイン 〈護神刀、鎖着、葉鞘+2〉(未) 首飾、指輪

・エルヤー 〈神太刀、胸当、籠手〉(未) ピアス

・孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未) 重インナー

・魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未) ■

・クリリン 〈(未) ■〉

・風鳴翼 〈天叢雲剣の首飾〉(未) ■■■

・雪音クリス 〈イチイバルの首飾〉●貸出(未) ■■■

・天羽奏 〈ガングニールの首飾〉●貸出(未) ■■■■

・木崎レイジ 〈起動ユニット〉(未) ■

・烏丸京介 〈起動ユニット〉(未) ■●貸出

・小南桐絵 〈起動ユニット〉●貸出

キャラクタースキル

・ブレイン 我流刀術 Lv07

兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟

雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上

・エルヤー 我流刀術 Lv04

牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改

・孫悟空 亀仙拳術 Lv06

気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元気玉、瞬

間移動

・魔Jr. 魔王闘術 Lv05

爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法

- ・クリリン 亀仙拳術 Lv04
 - 気配（完全遮断）、太陽拳、舞空術、拡散双気弾（追尾弾）
 - ・風鳴翼 刀剣術 Lv02
 - ☆風林火斬、☆陰縫い（☆聖歌）
 - ・雪音クリス 弓銃術 Lv02 ●貸出
 - ☆クロスボウ×2、☆ダブルガトリグガン×2（☆聖歌）
 - ・天羽奏 我流槍術 Lv02 ●貸出
 - ☆激槍重力落、☆激槍流星竜巻（☆聖歌）
 - ・レイジ 全万能士 Lv03
 - ☆レイガスト×2、☆スラスト×2、☆シールド×2、☆アサルトライフル（通常弾、誘導弾）、☆ガトリグガン、☆炸裂弾、☆マント、☆スパイダー、☆イーグレット、☆アイビス
 - （☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）
 - ・烏丸 万能士 Lv03 ●貸出
 - ☆アサルトライフル（通常弾、変化弾）、☆エスクド、☆弧月、☆マント、☆シールド
 - （☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）
 - ・小南 攻撃士 Lv03 ●貸出
 - 防衛本能、☆双月×2（斧）、☆炸裂弾×2、☆シールド×2、☆マント
 - （☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）
- 【☆マークはそのキャラコスプレ中にしか使えないスキル】

第17話 廃倉庫の取引と…

或る夜の目…

廃倉庫にその場には似合わない…あるいはある意味、似合う男達が庫内で大きなコンテナを挟んで対峙している。

「例の物は用意してるんだよな？」

「勿論だ…おい！持ってこい!!」

後ろから男達が大きなアタツシユケースを持って呼ばれた男の元に置かれる。

「これがいつものヤツだ！チェックしてくれよ…」

「それには及ばんよ…あんたとは取引も長いからなく受け取ってこいや」

後ろにいる若い者達を呼びアタツシユケースを男の元から受け取りに行く。

「じゃあコンテナ開けてくれや〜」

言われるとコンテナを開く…そこには女性が眠っていた。

「ちゃんと生きてるよな？それと手も出してないよな？」

「ああ〜着替えは女にやらさせたからな…手も出してない…もう何年もやってるんだ分かるだろう？」

「まあなくこれからも末永く取引して貰うからな…信用しているさ〜」

「にしてもあんた程のもんが、この女…探索者でもないのになんでそんなに執着してるんだ？」

「ああ〜この女は確かに探索者ではないが特別なスキルを持っててな、依頼人が欲しがってるんで頼んだわけさ」

「それだけではないんだろう？スキルだけならこんな丁寧にいつもしてねえだろう？」

「ああ〜この女にご執心な奴がいるんでスキルとは関係無く必要らしいな」

「まあ〜この手の話はあんまし聞かない方が正解だろうな…これで止しておくよ」

「ああ助かるぜ！また頼むぜ」

「ああ！よろしく」

2人の男が握手し取引が終わる…そんな時！

『警察だ！その場で全員、動くな!!お前達は完全に包囲している。武器を捨てその場で手を上げろ!!!』

突然の拡声器による大きな音声が無音の両入り口に立っていた大勢の男達に振り向く。

「なんや?」

「ちい!」

「やべー」

「サツか!」

どう見ても多勢に無勢…

しかしこちらには人質がいる事を思い出した代表達は一斉にコンテナの女に振り向く…

が…

「な、なんやお前は!」

「黒い怪人!」

黒い怪人が、女をいつの間にか抱き上げていた。

「…」

黒い仮面を被り、黒いマント、紫と紺の色合いのボディスーツを纏った黒い怪人はそれを否定も肯定もせず無言で、ただ立っていた。

「テメエーその女を返しやがれ!」

「その野郎!」

一斉に男達は詰め寄ろうとするが手が届く前に怪人と女がかき消えた!?

「はあ?」

「どこ行きやがった?」

男達はただ茫然としていた…何が起きたのか頭で理解するより早く警察が動き出した。

『確保!!』

白いシャツにネクタイをした黒スーツを着たどう見ても普通《カタギ》ではない男女達が武器を持って迫ってくるのだけ見えた。

瞬間移動を終えると声がかかってきた。

「ご苦労様様です、協力者さん」

瞬間移動をしてきた目の前の女性は驚く事なく近寄って告げる。

「はい…ではこの女性を頼みます」

俺は自分が抱えてた女性をその人に託した。

「はい、後の事は大丈夫なので…」

女性を受け取りながら俺の仕事が終わった事を告げる。

「分かりました…菅生さんよろしく伝えて下さい」

俺はそう言うのと瞬間移動でその場を離れた。

「はい伝えておきますね」

その女性は顔は笑顔だが事務的な言葉で返してくる。

それを不気味に思いつつ帰る事にする。

【瞬間移動】レプリカ

再び瞬間移動を終えるといつもの俺の家の玄関だった。

『オカエリユーマ』

玄関には黒い炊飯器のような物が浮いていた。

「俺は彰人だよレプリカ」

『スマナイ…ツイ…クセデ…シユウセイシル…オカエリアキト』

「只今、レプリ」

俺はそう呼ぶといつもの自分の姿に戻る。

彼の名は「レプリカ」…ワールドトリガーの主人公空閑遊真のお目付け役と称する自律型トリオン兵（俺は愛称でレプリと呼ぶ）

この前、ネット通販で頼んでいたコスプレ衣装が届いた時に思い付きで試したのが空閑遊真く白髪ウィッグだけ注文して身長179cmの空閑遊真が誕生した。

本来は140cmの身長なんでコスプレしても似合わないが、彼の持つレプリカが使えるのではと思ってやってみたが…トリオン通常体

が付いていたのは嬉しい誤算だった。彼の場合、通常時もトリオン体なのでこれまでマントしかない自分には、もしもの為にはうってつけだし、レプリカは解析等、多方面で使えるし自我があるせいか瞬間移動の対象にもなったから重宝している。

そして今回、コードギアス 反逆のルルーシユの主人公、ルルーシユの学生服とウィッグでキャラインストールしたのだが、欲しいのは彼が着る「黒のゼロ」衣装である。今後、公安の仕事をこなすなら隠密に向き顔も正体も分からない方が安全と判断して決めたキャラだった。

しかしルルーシユの持つ「隷属の魔眼」：作品と違って絶対遵守の魔眼ではないが悪用するとヤバいのでまだ一度も使ってないが実験で使ってみたい衝動はある。

「菅生さん、女性は救急車搬送中です」

タブレットで細かい指示をしていた菅生さんに報告する。

「協力者の方は？」

顔を見ずにタブレットに集中している。

「はい指示道理、帰還させました」

「そう、了解……こっちも鑑識の仕事が終わったら速やかに撤収する」

「了解です」

撤収準備の為、現場に戻っていく。

「アキラちゃんくあんな凄いレアスキル持ち何処で見つけたのさ？」

私と同期の八賀裏《やがうら》が聞いてくる。

「まあ色々よくさあ、さっさと行くわよ！まだ終わってないんだからね」

「了解」

そうまだ終わってない……捕まえた連中からの事情聴取があるから……これからまだまだ長い夜が続く……

神宮寺彰人

ステータス

職業： コスプレイヤー Lv20

生命力：919

精神力：497

攻撃力：604

回避力：618

筋力：303 (Lv20 + キャラ13 + S Lv43 + 孫30)

器用：301 (20 + 13 + 43 + 30)

敏捷：315 (20 + 13 + 43 + 30)

知力：258 (20 + 13 + 43)

魔力：239 (20 + 13 + 43)

神宮司彰人 (キャラ未使用)

生命力：910 / 919

精神力：452 / 497

武器：護神刀 攻撃 + 100 (Lv20 + Lv09 + 攻

604) : 攻撃力 : 724

防具：S通常体、マント : 防御 + 1000 + 5 (Lv20 + Lv0

9) : 防御力 : 1034

: 回避 ± 00 (Lv20 + Lv09 +

回618) : 回避力 : 638

スキル

戦闘スキル

・ 夢双一刀流刀術 Lv09

・ 夢双一刀流槍術 Lv07

・ 夢双一刀流拳術 Lv04

・ 我流剣術 Lv03

・ 我流銃術 Lv03

コスプレイヤースキル

コスプレイヤーフレンド

・ 立花杏奈 (雪音クリス) ●貸出

- ・ 鈴見華鈴〈天羽奏、小南桐絵〉●●貸出
- ・ 冥耶・ハミルトン〈烏丸京介〉●貸出

キャラクターイラスト〈ギフト〉(13)

- ・ オーバーロード

ブレイン・アングラウス〈集中力〉

エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

- ・ ドラゴンボール

孫悟空 〈能力向上〉

ピッコロ大魔王 魔Jr 〈同化〉

クリリン 〈不意打ち〉

- ・ 戦歌絶翔シンフォニア

風鳴翼 〈絶刀〉

雪音クリス 〈魔弓〉●貸出

天羽奏 〈絶槍〉●貸出

- ・ ワールドトリガー

空閑遊真 〈嘘看破〉

木崎レイジ

烏丸京介 ●貸出

小南桐絵 ●貸出

- ・ コードギアス 反逆のルルーシュ

ルルーシュ・ランペルージ 〈隷属の魔眼、封〉■

クリエイト(回数20回)

- ・ Original 〈アイテムボックス+2〉

・ ブレイン 〈護神刀、鎖着、薬袍+2〉(未)首飾、指輪

・ エルヤー 〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・ 孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー

・ 魔Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未)■

・ クリリン 〈(未)〉■

・ 風鳴翼 〈天叢雲剣の首飾〉(未)■

・ 雪音クリス 〈イチイバルの首飾〉●貸出(未)■

・天羽奏 〈ガングニールの首飾〉●貸出(未) ■■■

・空閑遊真 〈起動ユニット、トリオン通常体、レプリック〉(未) ■

・木崎レイジ 〈起動ユニット〉(未) ■

・烏丸京介 〈起動ユニット〉(未) ■●貸出

・小南桐絵 〈起動ユニット〉●貸出

・ルルーシユ・ランペルージ 〈黒のゼロ衣装〉

キャラクタースキル

・ブレイン 我流刀術 Lv07

兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟

雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上

・エルヤー 我流刀術 Lv04

牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改

・孫悟空 亀仙拳術 Lv06

気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元気玉、瞬

間移動

・魔王Jr. 魔王闘術 Lv05

爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法

・クリリン 亀仙拳術 Lv04

気配(完全遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾(追尾弾)

・風鳴翼 刀剣術 Lv02

☆風林火斬、☆陰縫い(☆聖歌)

・雪音クリス 弓銃術 Lv02●貸出

☆クロスボウ×2、☆ダブルガトリグガン×2(☆聖歌)

・天羽奏 我流槍術 Lv02●貸出

☆激槍重力落、☆激槍流星竜巻(☆聖歌)

・空閑 攻撃士 Lv01

無心、☆スコープオン×2、☆グラホパ×2、☆シールド×2、☆

マント

(☆緊急脱出、☆サイオン戦闘体)

・レイジ 全万能士 Lv03

☆レイガスト×2、☆スラスタター×2、☆シールド×2、☆アサルトライフル（通常弾、誘導弾）、☆ガトリングガン、☆炸裂弾、☆マント、☆スパイダー、☆イーグレット、☆アイビス

（☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）

・鳥丸 万能士 Lv03 ●貸出

☆アサルトライフル（通常弾、変化弾）、☆エスクド、☆弧月、☆マント、☆シールド

（☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）

・小南 攻撃士 Lv03 ●貸出

防衛本能、☆双月×2（斧）、☆炸裂弾×2、☆シールド×2、☆マント

（☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）

・ルルーシュ ロスト？ Lv01

スキル無し

【☆マークはそのキャラコスプレ中にしか使えないスキル】

第18話 ????会議

ここはとある場所、そして時間にて…

????
幹部会議…

『…と言う訳でボスからの定時報告は以上だ…あとは各部門での擦り合わせの話となるが…■■■■から緊急の報告があると聞いたが何があった?』

ボスの懐刀と言われる参謀が聞いてくる

『ああ…俺の捕獲部隊のメイン張ってた奴が公安に捕まったんでな。暫く立て直して時間がかかるから実験体確保はできなくなる。以上だ』

言いたくなかったのか?面倒臭そうに答える

『ええ〜困るわ〜』

やはり面倒臭いのか?嫌な顔をして声の主に向き直す

『困るのは分かるがな…新しい捕獲部隊を作り直さないと』

また新たに部隊の編成を考えると頭が痛くなる案件だろう事は幹部達も理解している

『こちらの情報は〜ってあんたのスキルだから大丈夫だと思うけど〜』

椰揄いつつも捕まった連中から情報が引き出されないか?とは懸念するがこの幹部ならその辺抜かりないと思いつつ聞く

『そこは大丈夫だ…捕まったヤツもアイテム発動したみたいだからな…今頃…』

自分のスキルに絶対の自信があるのだろうか…

警察署内休憩所

「はい〜アキラ」

「…」

紙コップを差し出され無言で受け取る菅生アキラ…

差し出された紙コップの中身をチビチビと飲みます。

「まさか今度は齒の中に仕掛けがあるなんてね〜やられたわね」

八賀裏は同情する様に隣に座りコップの中身を飲み干す。

「指輪、ペンダント、ピアス…もう無いと思えば歯に仕掛け…用意周到ね」

「これで何人目だっけ？」

「5人目よ…確保した際、指輪、ペンダントの類をすぐに外したけどね」

「やっぱり白？」

「ええ…完全に白紙ね…もはや生きる屍ね…本人も知っててやってるのか？」

「今度、確保した際は眠らせるしかないわね」

「そうね…でも確保前でないともたやられそうね…今のは任意だけど、もし他の手段を使われたら…例えばアイテム以外で…考えるだけでも混乱しそう…うちの子達に精神系などの支配系スキル持ちいないからね…殆ど脳筋連中だしどうしても荒事仕事な以上、元々捕獲すら苦手な連中だし…」

「どうしても仕事柄、殺処分か？抵抗しない犯人の捕獲ぐらいしかできないのが揃ってる…東京の本部にでも頼むか？」

「あの子…」

八賀裏はポツリと呟く

「あの子？」

アキラもオウム返しに聞く

「転移スキル持ちの子に当たってみたら…彼なら知ってるんじゃない？」

顔を見ずに答える

「そんな都合良く…」

呆れた顔で八賀裏を見返す

「だって彼のアノ恰好がね…コードギアスのルルーシュでしょ？」

八賀裏はスマホを取り出して何やら弄り始める

「ルルーシュ…ルルーシュって何？」

「アキラちゃんは関心無いから知らないのだろうけど、彼のアノ恰好

はアニメの黒のゼロの衣装だから、もしかしたらあの子に精神系のスキル持つてる可能性無い？」

「さつきからなんなの？アニメとか黒のゼロって何？」

八賀裏はスマホで検索してアキラに見せる。

「彼のあの恰好はアニメの主人公の黒のゼロよ」

画面には神宮寺が被つてた仮面と衣装と同じものが映し出されていた。

「…彼のあの恰好はこれだったの？」

「コスプレってやつなのよね〜まあルーシユには転移は持つてなかったから、もしかしたら関係ないかもだけどね〜」

「ん？じゃあそのルーシユは何ができるのよ？」

「確か絶対だか強制遵守だかの魔眼で相手を支配できるのよね〜」

「!!!:そう…ちよつと予定を聞いてみるわ」

アキラは立ち上がるとすぐさまスマホを弄りながら立ち去っていく

「そうそう〜それでこそアキラちゃんよ」

ようやく動き始めたアキラを見て安堵する八賀裏だった。

「他に報告する者はいないか？なら情報部の▲▲▲から報告がある」

『ああ情報部からも話がある』

『あらく珍しい…いつもは情報なんて最低限しか出さないアンタが会議で喋るなんて〜明日は雨ね』

『明日は曇りだ』

真面目な顔して明日の天気を告げる

『そんな事はどうでも良い…話とは？』

くだらないと言わんばかりに問いただす

『実は最近ある噂が流れている』

『噂？』

幹部達が怪訝な顔で見返す

『ドラゴンボール芸人がダンジョン内で目撃された』

『…』

『そして…』

『ちよつと待て』

『ん？何だ？』

『そんな下らない話なら帰るぞ』

『構わんがこの話はボスから話せと言われた事だから僕の話の聞かないと言う事は…』

『ああく分かった分かったく先を進めてくれ！』

観念したのか手を上げて続きをと…

『あとその芸人かは分からないが孫悟空のコスプレした人物が襲われていたパーティーの窮地を救ったらしい』

『…』

『更に…』

『まだあるのかよ？』

『ああくあとは歌を歌いながら戦う女戦士達と銃火器を使う3人組とそれぞれ目撃されてるらしい』

『歌を歌いながら戦う女戦士は調査の結果、戦姫絶唱シンフォギアのコスプレと判明。近代兵器を使う3人組はワールドトリガーのコスプレらしい』

『コスプレって』

各幹部達が騒めく

『で銃火器とは？』

しかし銃器に目が無い幹部が聞き返す

『アサルトライフルやガトリングガンを使って戦ってたらしい』

『それは…』

ダンジョン内では基本的に銃やライフル等の近代兵器を使う事は禁止されていないが、日本国内だと元々銃は普及してない為、海外からの輸入兵器となるしそれだけの苦勞をしても、ダンジョン内のモンスターには効き目が薄いとの見解な為、使ってるのは一部の外人と狩人系とされている。

『で、その連中が使ってる兵器の威力は？』

『どういう原理か分からないがモンスターに効いている可能性が高い』

『ヒュー！それはいいじゃないか！』

『しかしまだ個人の特定には至って無いから更なる調査が必要だ』

『ちつ：ヌカ喜びさせんじやねえよ』

『だがこの話はまだ終わりでは無い』

『ああん？何があるんだよ？』

『その全ての噂や情報が斑鳩ダンジョンに集中している』

『?!』

『そう時間はかからないとは思うがね』

『良い報告を待つわ：話は以上だな？』

『ああ』

それぞれの幹部達はその返事を待つて解散となる。

会議室にはボスと参謀の2人が残る。

『気になるのですか？』

『ああ：漫画だかアニメだかは分からないが：ヤバそうな気はする』

『ボスの勘は大体当たりますからね：どうしますか？』

『俺が動くのは幹部で手に負えなくなつてからだ：と言いたいがそれでは遅いとも俺の勘が：な：だがまだ情報が少ないからなく今は待ちだな』

『そうですか』

それで話は終わり、それぞれの仕事に戻つていく…。

菅生アキラからの連絡があり…

『え？話ですか…ええ別に特に予定ないので…はい…分かりました…では』

第19話 菅生アキラさんとの打ち合わせと…

俺は10分前に待ち合わせ場所に着いたが…やはりまだ来て無い様だな…

…とそんな事を思っていると…

「神宮寺さん、お待たせしました」と声がかかり振り向くと…

そこには何時もの黒いスーツを身に纏った姿ではなく…

白いワンピースに黒い長髪を降ろしていて、凄く綺麗な佇まいで俺に声をかけてくれた…スゲー美人だわ…つい見とれてると…

「さあ〜行きましょうか」

と俺の腕を掴んで引つ張って行く…

「え?!ちよ?菅生さん?」

そのまま引き摺られるように俺は菅生さんとの合流を果たした。

彼女のお気に入りなのか喫茶店に入るとそのまま奥の席に進むとウェートレスに『いつもの』と言いつつお互いに席に座る。

「今日はゴメンね〜たまには休めと上司から言われててね…まあ結局、仕事絡みになるんだけどね」

「いえいえ…それで聞きたいことって何ですか?」

「そうね〜まずはこの前の仕事、ありがとうね…女性を人質に取られると厄介この上ないから、転移のスキル持ちの神宮寺君には本当助かったわ」

「それは良かった」

「でも…そのあと重要参考人がね…聞き取り調査ができない状態になって困ってるのよ」

「はあ…それは難儀ですね」

「でね〜同僚から聞いた話なんだけど…この前の事件の時に神宮寺君が着ていた服って黒のゼロのコスプレって聞いたんだけど…もしかしてまだレアスキルがあるのかな…って言ってるね〜勿論、言いたくないのなら仕方がないんだけど…」

「…そうですね(どうするか?)…」

このまま本当の事を言うか…それとも…

「あの何故、自分の転移以外のレアスキルを聞きたいんですか？」
「簡単に言うときつき言った重要参考人には証拠隠滅の為に廃人にする仕掛けを持たせているみたいでね…それを止めたいのよ…ときつき言った黒のゼロも作中に魔眼を持ってるって話だからもしかして神宮寺君も持つてるのかと…」

「なるほど…はい、魔眼あります…一度も使って無いですが…」
「やっぱり…でも一度使って無いの？」

「そりゃ…使ったら不味いでしょ？」

「そうね…危なくないなら今から試してみましよう…私が許可します」

「え?!誰に?」

「じゃあ今から店員さん呼ぶから彼女に魔眼かけてみて!」

「…まあ菅生さんが良いって言うなら…やってみましよう」

菅生さんは店員さんと呼ぶ…

「はい!追加注文ですか?」

「ちよつとねチップ弾むからお願いいきいて欲しいんだけど…」

「え?...あ、はい…何でしょう?」

「今から彼があなたに質問するから全部イイエと答えてくれる?」

と俺を指差しながらお願いする菅生さん

「はい、分かりました」

「ではいきますね…では質問ですが貴方は学生さんですか?」

「は、いいえです!」

【魔眼】発動

キーンンン

俺の目を見ていた店員さんの目が変わった。

「質問続けるよ…必ず、はいと言うんだよ」

「はい!マスター!!」

その後、いくつかの他愛の無い質問をした後、全ての質問に『はい』と答えるのを見て、俺は菅生さんの顔を見ると頷くので…

【魔眼解除】

途端に急に目が覚めたみたい、自分何やってるんだろう?的な反応

となりキャラロキャラロする。

「では最後の質問…彼氏さんいるの？」

ハツと気がつき…

「あ、えっといますけど…いいえです」
にこやかに答える

「ありがとうはいこれチップね！」

菅生さんは店員さんにチップを渡す。

「え!?こんなに！あ、ありがとうごさいます〜ごゆつくり…」

彼女はホクホクした顔で戻っていった。

「こんな感じですが…どうですかね？」

「想像以上ね…でも本当に使った事無いの？」

「そうですね…非常に危険な力だし人の意思を勝手に操るのは犯罪になりかねないし…」

「分かったわ、是非そのスキルを活用して欲しいわ」

「分かりました」

「でも本当そんな力があるならうちに就職して欲しいわ」

「ははは…まあまだ学生なんで…」

「気が変わったらいつでも言っつてね〜上司に売り込むから…」

「ありがとうございます」

その後は他愛の無い会話で解散とあいなつた。

サヨナラの挨拶をして喫茶店を後にする…

「ふくん彼が黒のゼロなのね…神宮寺君だっけなかなかの有能枠ね」

八賀裏が喫茶店の裏扉から入ってきて感想を言う。

「やっぱりそう思う？」

「とりあえずこれで対応できそうね」

「ええ…今度こそ尻尾を掴んでやるわ」

俺は人気の無いビルの間に入って…

【転移】豆レプ（家）

レプリカの小さいミニレプリカを玄関に設置してあるので一瞬で玄関に転移すると…

『オカエリアキト』

レプリカ本体が浮かんでいた。

「あれ？もう帰ってたのか？彼女らは…」

と玄関に靴が並べてあつてどうやら家に来ているようだ。

俺は靴を脱いで居間に行く

「「お邪魔してます」」

3人がテーブル囲んで座っていた。

「ああ、いらっしやいく随分と早かったね？」

今日4人でダンジョン攻略する予定だったが菅生さんに呼ばれた為、3人でダンジョン攻略となった訳で本当はまだ時間があるから合流しようと思つて家に戻つたが…

「それがね…ちよつと悩ましい問題が発生しててね〜カムイさんに相談してからと…」

「ふ〜ん、で問題つて？」

彼女達からの説明だと、ドラゴンボールの孫悟空、シンフォギア、ワールドリガーのコスプレの噂を聞いてる怪しいキャラ男がいたとの事…

聞かれたけど適当に誤魔化してその場は凌いだけど気になったので俺が帰ってくるまで待つてようとなつたらしい…

「う〜ん…何だろうか、それつて…わざわざ…」

「こうも聞かれたわ…銃火器を本当に使つてモンスターと戦つていたのかを気にしていたわ」

「銃火器？…レプリ、そのキャラ男の顔は撮影してない？」

「コレダ」

そういうと口を開けてディスプレイ表示で男の顔が写る。

「…ちよつと行つてみるか〜みんな少し待つて…」

玄関に行き靴を履いて俺は転移を使用した。

【転移】「豆レプ（斑鳩転移門）」

ささてただの噂好きな人なら良いけど…

第20話 チャラ男を魔眼で：

俺は事務所横にある転移門に常駐している豆レプの元に転移した。さて、チャラ男はダンジョン入り口とか言ってたな。

入り口方面に行くとは：

いた：さつき見た画像の男だ

【キヤラインストール】 黒のゼロ

俺はそのままダンジョン入り口に向かうと：

入り口手前で待っていたかのように：

「あ、兄さん兄さん、ちよつと聞きたいんだけど良いっすか？」

俺のこの格好を見ても特に気にしないようだな：よしなら！

カシヤ

俺は黒い仮面の目のバイザーを開くと：

【魔眼】 発動

キーンンン

チャラ男は俺の目を見た瞬間、目が少し虚な目になった。

「質問に答えろ」

「はいマスター！」

チャラ男は返事を返している：

よし魔眼成功（探索者相手に効くか気になってたから）

「何の目的でコスプレをしている人を探している？」

「上司から斑鳩ダンジョンで目撃された孫悟空、歌を歌いながら戦う

女戦士達、銃火器を扱うパーティーを探れと命令されました。」

「その上司の名前は……………」

戸惑うチャラ男

「どうした？言えないのか？」

俺は少し強い口調で聞いたです

「その上司の名前は……………」

顔が少しずつだが顔が苦しそうな面持ちだ。

ん？何だ？何で答えない？

もしかしてヤバいのか？

「分かった上司の名前はもういい」

そう言うのとチャラ男の顔が元に戻った。

何かプロテクト？呪い？聞かない方が良いかもな…

「質問を変える…お前の所属している組織名は？」

「……」

さつきより苦しそうな顔で汗をかき始めてきた

チィ！それも駄目か！

「質問を変える」

「…は、はい」

苦しそうだが元に戻ったようだ。

魔眼で支配しても言う事を聞けないのか？

それともそれ程、強力な呪いでも発動しているのか？

仕方がないか…泳がせるか…

「お前の名前は？」

「国木田アイクです」

「分かった…あと身分証の類を出せ」

「はいマスター」

彼は探検者カードを提示したのでレプリに写真を撮らせた。

「よし分かった…暫くここで待機しろ」

「はいマスター」

その姿を見つつレプリに豆レプリックを国木田アイクの荷物に忍ばせるようにする。

俺は彼から離れて建物の影に隠れると

【魔眼解除】

すると突然、顔が普通に戻り左右を見回して不思議そうに首を傾げていた。

再び…

【転移】豆レプリ（家）

スキルを使用して玄関先に戻る。

「キャラクターイラスト」を解くと普段着の状態に戻って居間に向かう。
「みんなお待ちせ」

「どうだった?」

「とりあえず豆レプリを付けたから正体を探って公安に知らせるよ」
「で、どうする?」

華鈴が聞く

「ああ…どうしようか?」

新しく作るか?

このままコスプレしていると危険な気がするのでそれとも暫くは自重するか?

「他のコスプレはどうか? 私はシンフォギアのコスプレしてないから作ってもらおうかと思ってんだけど」

冥耶が聞いてきた。

「私はワートリのコスプレをまだ使ってなかったから頼もうかと思っただけど」

杏さんも聞いてくる。

…
…

「ようは銃火器や歌を歌わなければ良い訳だろう?」

冥耶の烏丸のアサルトライフルをやめて他のトリッカーを…あ…
「ん?どったの?」

華鈴が不思議そうな顔で俺の顔を覗く

「みんなワートリの漫画読んでるよな?」

みんな頷く…

「起動ユニットだけ新しく作ってコスプレしないで自分の姿そのままでサイオン戦闘体に換装して武器も銃火器だけやめれば問題くない?」

「それってコスプレになるの?」

冥耶が疑問を口にする

「オリジナルコスプレみたいですな」

杏さんは俺の意図を分かっているみたいだ…

オリジナルコスプレとは基本漫画、アニメ、ゲームなどで出てくるキャラクターをコスプレするのと違い、自らが作った設定で自分の考えたキャラクターをコスプレするのがオリジナルコスプレと言われる。

ゲームでキャラクター作成して自分だけのオリジナルキャラクターを作って自分の分身にするアバターに近いかもしれない。

「私はトリマルのままが良いからライフルだけやめて射手士用のトリガーに変えるってできないかな？」

射手士は銃撃士と同じカテゴリーに入るがよりサイオン量や弾の数、速度など自分で自在にコントロールできる。

ファンタジー系で言う魔法使いに近い。

「ん…レプリは調整できるか？」

「デキル キドウユニット ヲ アズカル」

レプリックは口から触手みたいなものを伸ばして冥耶の起動ユニットをに触れる。

「ツウジョウダン ヘンカダン ツイビダン サクレツダン ニ ヘンコウデキル」

通常弾、変化弾、追尾弾、炸裂弾のいずれかに変更できるようだな

よし冥耶のはそれで変更して…

「杏さんはワートリのどのキャラやりたい？」

「雨取千佳ちゃんやりたい！」

「お〜トリモンかよ…」

トリオンモンスター…作中で雨取千佳がブラックトリガー持ち以外でトリオン量がノーマルトリガー最大量を誇る故に本部の連中にそう呼ばれる。

「まあライフル系多いけど、レプリが調整できるなら射手士に変更するのもできるか？」

とりあえずウィッグをネットで注文して後日またキャラインストールする事で話は終わり、その日は解散となった

にしてもめんどくさい話になってきたな〜

コスプレイヤースキル

コスプレイヤーフレンド

・立花杏奈〈雪音クリス〉●貸出

・鈴見華鈴〈天羽奏、小南桐絵〉●●貸出

・冥耶・ハミルトン〈烏丸京介〉●貸出

キャラインストール〈ギフト〉(13)

・オーバード

・ブレイン・アングラウス〈集中力〉

・エルヤー・ウズルス 〈天賦〉

・ドラゴンボール

孫悟空 〈能力向上〉

・ピッコロ大魔王 魔Jr 〈同化〉

・クリリン 〈不意打ち〉

・戦姫絶唱シンフォギア

風鳴翼 〈絶刀〉

雪音クリス 〈魔弓〉●貸出

天羽奏 〈絶槍〉●貸出

・ワールドトリガー

空閑遊真 〈嘘看破〉

木崎レイジ

烏丸京介 ●貸出

小南桐絵 ●貸出

・コードギアス 反逆のルルーシュ

ルルーシュ・ランペルージ〈隷属の魔眼、封■〉

クリエイト(回数20回)

・Original 〈アイテムボックス+2〉

・ブレイン 〈護神刀、鎖着、葉鞆+2〉(未)首飾、指輪

・エルヤー 〈神太刀、胸当、籠手〉(未)ピアス

・孫悟空 〈如意棒、筋斗雲〉(未)重インナー

- ・魔 Jr 〈ターバン&肩当マント〉(未) ■
- ・クリリン 〈(未) ■〉
- ・風鳴翼 〈天叢雲劍の首飾〉(未) ■■■
- ・雪音クリス 〈イチイバルの首飾〉●貸出(未) ■■■
- ・天羽奏 〈ガングニールの首飾〉●貸出(未) ■■■
- ・空閑遊真 〈起動ユニット、トリオン通常体、レプリック〉(未) ■
- ・木崎レイジ 〈起動ユニット〉(未) ■
- ・烏丸京介 〈起動ユニット〉(未) ■●貸出
- ・小南桐絵 〈起動ユニット〉●貸出
- ・ルルーシユ・ランペルージ 〈黒のゼロ衣装〉
- ・キャラクタースキル
- ・ブレイン 我流刀術 Lv07
- 兆し(危機感知)、円展開(派生)、雷火、身体向上、雷光閃(轟雷)、雷火4連(神雷)、身体超向上
- ・エルヤー 我流刀術 Lv04
- 牙斬、縮地、牙圓斬、縮地改
- ・孫悟空 亀仙拳術 Lv06
- 気配広域、気合砲、かめはめ波、界王拳(炎水風土)、元気玉、瞬間移動
- ・魔 Jr. 魔王闘術 Lv05
- 爆力、魔弾(包囲陣)、怪魔眼、魔手、魔貫光殺法
- ・クリリン 亀仙拳術 Lv04
- 気配(完全遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾(追尾弾)
- ・風鳴翼 刀剣術 Lv02
- ☆風林火斬、☆陰縫い(☆聖歌)
- ・雪音クリス 弓銃術 Lv02 ●貸出
- ☆クロスボウ×2、☆ダブルガトリグガン×2(☆聖歌)
- ・天羽奏 我流槍術 Lv02 ●貸出
- ☆激槍重力落、☆激槍流星竜卷(☆聖歌)
- ・空閑 攻撃士 Lv01

無心、☆スコープオン×2、☆グラスホッパー×2、☆シールド×2、☆マント

(☆緊急脱出、☆サイオン戦闘体)

・レイジ 全万能士 Lv03

☆レイガスト×2、☆スラストスター×2、☆シールド×2、☆アサルトライフル(誘導弾)、☆ガトリングガン、☆炸裂弾、☆マント、☆スパイダー、☆イーグレット、☆アイビス

(☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体)

・烏丸 万能士 Lv03 ●貸出

☆アサルトライフル(変化弾)、☆エスクード、☆弧月、☆マント、☆シールド

(☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体)

・小南 攻撃士 Lv03 ●貸出

防衛本能、☆双月×2(斧)、☆炸裂弾×2、☆シールド×2、☆マント

(☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体)

・ルルーシユ ロスト? Lv01

スキル無し

【☆マークはそのキャラコスプレ中にしか使えないスキル】

無心：空閑遊真の持つスキルで長い間の傭兵生活で身に着いた殺意の無い攻撃を与える事ができるので、危機感知や防衛本能などを相手以外には気付かれる事なく攻撃を加える事ができる。危機スキル系持ちには虫程度にしかならない為、余程警戒されてないと回避不可能となる。

トリオン戦闘体(通常体)：ワールドトリガーの起動ユニットで換装した姿の事。急所やその戦闘体が活動限界を迎えると生身の姿が現れる為、一度だけ死ぬほどの攻撃を受けても命に別状ない。

更に緊急脱出と組み合わせるので安全に退避も可能。

トリオン通常体は劇中、空閑遊真のみ本体の身体がブラックトリガーの指輪に収納されている為、通常活動用の素体となる。

黒のゼロ衣装：作中ルルーシュが日本解放を目的とした黒の騎士団のリーダー「黒のゼロ」になる為の衣装。ヘルメットに魔眼発動用に目だけ開くバイザーが作られているが衣装自体に防御機能は無い。

第21話 20話までの登場人物

神宮寺彰人（ジングウジ・アキト）

コスプレネーム カムイ

本篇の主人公、20歳

初めてダンジョンに入った事でm粒子（魔素）に触れた事で身体に眠っていたスキルが発動して職業コスプレイヤーに覚醒。

実はもう一つのダンジョン由来の物質がそのスキルを生み出したがまだ主人公はそれを知らず何故、ダンジョンに入ってもいないのにスキルを育成できたかは現時点で不明。

現在、探索者として活動していて公安の手伝いもこなしている…謎の組織からスキル（特に銃火器関係）を狙われている。

立花杏菜（タチバナ・アンナ）

杏チャンネル兼カメラ 杏（アンズ） 21歳

元々、動画サイトで杏チャンネルの動画を作っていて、コミケで神宮寺との出会い以後、同じ市内という事もありカメラマンとしても活動している。ダンジョンへ彰人を誘った張本人。

黒髪ロングで髪を団子にして帽子で隠している。伊達メガネをかけてチエックのシャツとジーパンでオタクルックでの活動的な恰好

彼女自身、動画で簡単なコスプレをしているが彰人の誘いで探索者として活動するようになる。

カメラマンとして活動していた為か銃や弓などで中距離遠距離の射撃が得意

鈴見華鈴（スズミ・カリン） 19歳

探索者として活動中、彰人に助けられてそれが縁でパーティーを組む事になる。

彼女自身、初対面の人には大人しい一面しか見せないが親しくなると一気に距離を詰めて仲良くなる。

その為、誤解され易くて2度ほどパーティー内でトラブルを発生させて解散の憂き目に…

2度目のパーティーの時に冥耶と仲良くなりそのまま3度目の

パーティーも、一緒に活動していたが斑鳩ダンジョン6階層でモンスターに不意を突かれ分断。5階層へ連絡の為に冥耶と登るがオーガに襲われたところを助けられた。

髪型は以前はロングだったがボブカットの黒髪、自称159cm
剣、槍や斧系が得意な近接戦闘向きな女性：ドラゴンボールが子供の頃から好き

冥耶・ハミルトン（メイヤ・ハミルトン）19歳

鈴見華鈴とパーティーを組むも襲われて死の間際だった事もあり以降、家に引き籠もりになるが華鈴からの提案に興味を示して以降、彰人達と一緒に活動する事に：

髪型はセミロングで探索者の時はポニテしてる感じの金髪女性、身長165cm

彼女はワートリが好きでトリマル好きなのもあり、その好きでトラウマを克服したくて華鈴の話に乗る。

近接、射撃など器用にこなせる事から元のパーティー内では斥候として戦っていた

菅生アキラ（スゴウ・アキラ）年齢不明

公安所属〈日本探査者犯罪取締局〉通称〈J—SCB〉

〈監視裁判官〉

ある犯罪組織を追って密偵を組織に潜り込ませようとして失敗、部下が危ぶなかった時に彰人が助けた事で縁ができた。

部下のカードに謎のスキルの発現が記録されていて後にそれが転移だと知ると仕事を手伝ってほしいと依頼した。

黒髪ロングで仕事中はポニーテールでプライベートはお嬢様風の恰好が好き。

菅生アキラは偽名で本名は別

八賀裏ルリ（ヤガウラ・ルリ）年齢不明

公安所属〈日本探査者犯罪取締局〉通称〈J—SCB〉

〈監視裁判官〉

菅生アキラとは同僚：見た目はバリバリキャリアアウーマンって感じだが性格はサツパリしている。彰人の衣装を見てアニメのキャラ

クター黒のゼロと知っていた。アキラには言っていないがアニメ好き。

安藤さん

斑鳩ダンジョンにある探索者協会事務所に勤めるOL

ドクター鈴木

斑鳩ダンジョンにある探索者協会事務所1階医務室に勤める常駐

医者

転移のマーカー替わりになっていて特に不快感も無く受け入れている。

国木田アレク

謎の組織の構成員で斑鳩ダンジョンで調査の為に赴く。見た目はチャラ男で探索者の滑降しているの辛うじてその関係者にみられる。

カオル

彰人の師匠の妹、スタジオ兼和風カフェ薫のオーナー

アキヒト

師匠の名前、45歳の時に心不全で亡くなる。彰人と名前が似ている事で以降仲良くなり彰人の事は息子の様に可愛がっていた。

実は師匠の趣味も漫画、アニメ、ゲーム好きで彰人はその影響を受けている。

???

謎の組織でレアスキルに異常な執着を見せる。

今後はこの謎の組織と公安も絡んでいく予定…

第22話 杏チャンネルへ忍び寄る影

「どうしようかカムイさん」

「ん〜どうした方が良いかな…一時的に動画を非公開にすると余計怪しいと思われるかな?」

話は杏さんから次の日の昼に相談を受けて…

杏さんは神宮寺家にて、この前の集まりを終えて帰宅後、杏チャンネルの定期生放送での一幕…

いつもの様に番組をスタートしてオンラインゲームで遊びながらコメントが流れる中、それは起きた。

初めて見るIDネームで視聴者からコメントがあった

『杏ちゃんって斑鳩ダンジョンでコスプレして戦ってるんですか?』と突然の書き込み。

一応この前の、シンフォギアのコスプレしてダンジョンで戦う動画はまだ編集が終わっていない(女性のセクシヤルな部分が動画削除される要因の為、動画の処理中…)

そしてまだ探索者になった事は公表してない〜
シンフォギア動画をアップした時に同時に発表する予定だったらしい

コスプレしてダンジョンで戦う動画はコスプレイヤーカムイ(つまり俺)のブレインの動画しかアップしてない為、杏さんもコスプレしてるのか視聴者は質問したのだろうか?

それとも例の組織が関わってるのか?

その為、杏さんは一瞬動揺してしまい生放送中のパーティーオンラインゲームでミスしてしまいゲームオーバーになってしまったのも、余計にその視聴者のコメントに動揺した疑いを持たれたようである。

一応、カメラマンとして撮影はしてるけど探索者にはなっていないと否定してとりあえず生放送は終了。

しかしその後、SNSの書き込みの際に全く関係ないのに同じ質問をされ、だんだん怖くなり俺に相談したというのが今の状況

「流石にレプリでもネットの書き込み相手まで探ることってできない

かな?」

「イヤ シラベル コト ハ カノウ」

そういうとレプリは俺のノート型パソコンに自分の触覚をUSBに差し込み調べ始めた。

数分するとレプリは

「レイノ ビル カラノ タドリ ツイタ」

「例のビルって?」

杏さんは気が気ではないのか気になる様子…

「ああそこに辿り着くか…杏さん、例のビルってのは豆レプを貼り付けた国木田ってヤツが出入りするビルだ」

さてこの程度では公安に相談するにはまだ情報が足りない過ぎるな

「レプリ…豆レプから何か良い情報は届いて無いかな?」

「スコシ マツテテ クレ」

レプリは空中で静止した状態で何やら豆レプと情報を共有し始めた。

「コレ ハ アサガタ ニ トレタ ドウガ ダ」

そう言う口を開いて画像を大きくして表示する。

「この男…国木田ともう1人…組織の上役か?」

豆レプが影に紛れて撮影したようだ。

動画では

『…引き続き探れ…この神宮寺と立花って女も…コスプレしながらなんてイかれた連中だがそれぐらいの方が良いスキル持つてるかもなく』

『女の方は家の所在が割れてますから拉致して聞き出しますか?』

『馬鹿野郎!そういう判断は俺が言うまでするな…』

『分かりました!』

『あと例のモノはいつも身に付けているよな?』

『勿論です…腕に巻き付けて仕込んでますのでいざとなったら使いますので…』

『ああ…それならいい…我がデウスの為だ、忠義を尽くせよ』
『はい!』

「イジヨウ ダ」

杏さんは固まっていた…拉致なんて言われたら、そりやあ怖いだろう。

「この動画を公安に渡そう…レプリはこれをこのメモリに入れておいてくれ…あと杏さん…」

「は、はい」

「どうする?連中、杏さんの家を知ってるみたいだが…」
「…」

杏さん…震えてるな

よしー!

「なんならここで暫く暮らすかい?」
「へ?!」

驚きと顔真っ赤になって俺を見る。

「いや!勿論、華鈴や冥耶も呼んで皆んなでほとぼりが覚めるまでって意味だけど…それともホテルか公安に保護してもらおう?」

俺も、しどろもどろになりながらも説明する。

「…いえ…ここで皆んなで暮らしたいです!」

「よし杏さんは親に連絡して許可を取ってもらって、華鈴達には俺が連絡するよ」

「うん、ありがとうカムイさん」

連絡すると華鈴達の行動は早かった。

「お邪魔するね」「よろしく」

華鈴たちは大きなバックやカートを持って玄関で挨拶する。

「早かったな2人とも」

「まあね〜みんなと一緒になんて合宿みたいで楽しそうだしコスプレ衣装や道具も相談したかったし〜」

冥耶は靴を脱ぎながら…

「そうそうく杏ちゃんは大丈夫なの？」

「ああ、今、車で家に荷物取りに行ってるよくレプリが一緒だから大丈夫だよ」

「許可貰ったんだ…良かった」

華鈴たちはホツとした顔で喜んでいる。

「部屋は2階に2つ余りあるから好きなもの使ってくれ和室と洋室あるから」

「しかしこんな家に1人つてご両親は？」

「うちの親は今、外国でのんびり暮らしてるよ」

「え？海外なの？」

「早期リタイア組って言うか夫婦でのんびりしたいでね〜一応、俺が高校卒業まではいたんだけどね…大学進学する春には荷物持ってさっさと行ったよ」

「へ〜兄弟とかいないの？」

「ああ俺は一人っ子でな…」

「つてかく彰人―この段ボールの山つて何？」

冥耶が不思議そうに尋ねてくる。

居間に大量の段ボールが重なって置いてある。

「それは今度やろうとしてるコスプレ衣装だよ〜買ったはいいが最近色々あったしな、まだ手付かずなままだよ」

「どんなの？」

と言いながら勝手に段ボールを開け始める華鈴

呆れながらも興味津々の冥耶

「Fateシリーズのヤツとドラクエ、Wizとか色々あるよ〜ダンジョンで臨時収入入ってるから大量に買い過ぎたわ」

「あ！これ槍の英霊《ランサー》に弓の英霊《アーチャー》、剣の英霊《セイバー》、アサシン？色々あるね〜」

冥耶の目の色が変わる。

「随分と詳しいじゃん」

「兄が好きでゲームも借りて遊んでるからね〜」

「Fateシリーズって色々あるのね〜ってかやたらと女の子の露出が激しくない？」

華鈴はスマホ弄りながら俺に見せつけてくる。

「それはスマホゲーのヤツだなくこの辺のシリーズになると有名イラストレーターや漫画家の人が書いてるの多いからな…ガチャ回させる為には女の子で露出が多いのは当たり前だしな…流星にその辺は追ってない。金がいくらあっても足りないし…」

「ねえねえ〜冥耶、これなんか良くない？」

「え〜それ露出ヤバイよ〜」

今宵は眠れない夜になりそうだな（オタク的な意味で）

第23話 m粒子とD—SEED

次の日、杏さん達は俺の家で待機して自分が帰るまで警戒している。

俺の家も知られてる可能性はあるし…豆レプリカズ（レプリの分身10体）を残して3人の警護をしている。

レプリ本体自体は俺の影に隠れて待機中…

豆レプを国木田アレク（組織の構成員）の荷物に忍ばせて探っていたところ、あるビルの事務所に入入りしていることが判明したので菅生さんに連絡して…今、そのビルの近くに待機している。

数時間前

菅生さんとの面会時にレプリカの分身が撮影した動画を見せた後

…

「ふーう…神宮寺君、凄い情報持ってきたわね」

菅生さんは動画を見て興奮してるのか今迄見せた事の無い顔をしている。

「それよりこの動画ってどうやって撮ったの？それが一番不思議なんだけど…」

八賀裏さんは興奮を隠せないようでこの動画の出所を知りたいようだが…

「駄目よ！神宮寺君と約束してるんだからね！この動画の事は証拠として貰う代わりに追求しないって！」

その動画にはこれまで公安が追っていた組織の片鱗が現れていた。

まず国木田アレクと上司と思われる人物の顔が映し出されていた

会話の内容も別の動画も撮っていて俺のスキルの話で特に銃火器に興味があるようだ。

モンスターに効く銃火器は探索者相手にも有効だと言う事だ…犯罪者の考えそうなことだな。

そして上司は名前をはっきりと言った。

組織の名は「デウス（Deus）」ラテン語で神を意味する言葉…

非常に単純、しかし分り難い言葉ではある。

そしてこれまでの過去の犯罪履歴にデウス、Deusの名前は無い
：

「多分、彼らの組織は探索者に限らず様々な人の持つスキルを収集して活用している…でも組織としてはまだ比較的に新しいようね。ダンジョンの誕生から20年程度、スキルを手術によって移植できるようになってまだ10年にも満たないから…」

「え？スキルって手術で移植できるんですか？」

八賀裏は「ああ」と嘆いている

「あ…まあいいか。ここまで深入りしているし情報提供者には知らせておいた方が後々便利だしね…」

菅生さんがニヤリと悪い顔になって微笑む

「え?!」

ヤバいかも…

「実はこのスキル移植は表には出てない情報よ…まあその由来がね…某国での人体実験で発見されて以後、その技術者が亡命したりして広まったのよ。まあ人権とか関係ない国だからできる事よね」

「…」

「つまりスキルでもレアスキル持ちの人はより危険なのよね。日本でも最初の頃はスキルを探索者協会とかは公表していたのだけど…スキル持ちの誘拐が発生以後、スキルの公表は任意で隠蔽できるようになったのよ。でもそれが探索者だけなら守り様があるのだけど探索者、スキル保持者の家族、身内もスキルを発生させる可能性が高いらしくてね」

「え？家族？身内ですか？…」

「神宮寺君…君はm粒子って知ってるよね？」

「ええ勿論…」

「でももう一つの粒子の話、聞いたことある？」

「もう一つの粒子？」

「それがD—SEEDよ」

「あくそういえば探索者専用SNSで話題になってましたね…まあ特に興味無かったから名前ぐらいしか覚えてないです」

「このD—SEEDは一般に知られている能力ってまだ研究中としていて詳しく説明してないのよ…でも分かっているのよ。これを公表して混乱が起こる可能性があるからねく正式名《ダンジョン種子》よくつまりこのD—SEEDはダンジョンを生み出す種なのよ」

「え?!ダンジョンを作り出す…」

「新宿ダンジョンが1999年に発生してその後、日本中にダンジョンが発生し始めて1年もかからずに世界中に広まった原因はこの種なのよ」

「…凄い種なんですね…まさか探索者やダンジョンに潜った人間が広めていたなんて…」

「そうねくダンジョン内には、このm粒子とD—SEEDが漂っているのよ…だから人間がダンジョンに入ってからこの二つの粒子に曝されるとm粒子は身体向上とスキル発生…そしてD—SEEDがダンジョンを生み出し、人には職業スキルの発現を促すのよ。」

「…」
俺は圧倒されて聞き入っていた。

「あとD—SEED保持者たち…つまり探索者が家族や親しく接する身内にこのD—SEEDが移るのよくある意味、ウイルスみたいなものよ…だから実は感染した人はm粒子に曝されない限り、職業スキルが発現していても身体の中で眠っているのよ。」

まあこれも最近分かった事だけど職業スキルって感染した人の願望やしたい事、夢中になつてる事が関係していてその思いが強ければ強いほど強力になるのよ。

ちなみにm粒子は比較的大きい物質だったからすぐ発見できたけどD—SEEDは更に小さい粒子でこれの発見が遅れたのもm粒子に隠れていたから余計に発見が遅れたのよね」

「へえ…ん…」

…

…

あれ？

って事は俺ってもしかしてD―SEEDを感染してたから、既に職業スキル発現していてダンジョンに潜ったから…つまりm粒子に触れたから職業コスプレイヤーって謎のスキルに覚醒したのか？

でも俺の周りにはダンジョンに関わりのある人って誰もいないよな…

誰だ？ダンジョンの種を持ってた人は…カオルさん？まさか師匠？

でも師匠からダンジョンの話なんて聞いたことないけどな…

「とにかくここへ踏み込みましょう！八賀裏は部隊の準備を！！私は上に掛け合うは…神宮寺君はここで待っててね」

「了解」「はい」

そして今、その国木田アレクが潜んでるビルの近くで待機している訳…

第24話 デウス（仮）ビル突入

作戦はビル内を超小型ドローンや他ビルから赤外線などでデウス（仮）ビルにいる構成員の人数と配置がはつきりしてから入口、裏口、屋上へ突入する為に近くで待機する。

配置が決定したら突入し、俺は国木田アレクの元に転移してすぐ魔眼で支配して残りの連中を公安が検挙すると言う作戦

俺は公安の用意した車の中で待機：既にキャラインストールして黒のセロに着替えている。

俺は秘匿通信で

『さてレプリ：状況はどうだ？』

『イマ コウアン ガ カクニン シテイル ヨウダ』

『国木田のマーカーは？』

『イマ ハ ブンシン ガ ハリツイテイル』

『国木田の様子は？』

『パソコン ネット ニ ツナゲテ ミテイル』

『上司はいそうもないか？』

『ゲンジヨウ コレ イジヨウ ハ ワカラナイ』

『そうか：お呼びがかかったらすぐ転移するから転移後、俺のサポート頼む』

『リョウカイ』

…

…

…

『ゴースト！行って!!』

預けられた無線機から菅生さんからの出撃命令が届く！（ゴーストは俺のコードネーム）

車から出ると

【転移】国木田アレク

瞬間、俺の身体はかき消えて目の前には国木田アレクが！

国木田アレクもすぐに気付いたのかこちらに振り向く！

「はあ!? あんたは!」

バイザーを上げて!

【魔眼】発動!!

瞬間、国木田アレクの表情は驚愕の顔から惚けた顔になる…

え…

ならないだと?

魔眼支配失敗だと?!

『ム! アルジ マドウグ ダ』

レプリが突然そんな事を秘匿通信で呟く

『魔道具って…』

魔道具は魔石を動力源として様々な効果を発揮する…

『マホウ コウカ ムコウカ ダ』

『魔法効果無効化って魔眼が効かないのはそのせいかな…』

「流石、兄貴だぜ。予想通りだぜ!」

国木田はこの事を予期していたのかニヤリと笑うと、右手が左腕を

叩く!

パキ!!という音が響く…

『くっ! しまった!!』

やられた! 廃人化してしまった!!

…

「ん? あれ…何で作動しない?」

何も起こらなかった…

そして国木田は動揺していた。

今だ!

【護神刀】 召喚!

左手に鞘を掴むと右手で柄を握る

剣技【雷火】

居合で刀を引き抜く!!

シユラーン!!!

最速で高速の一撃が不可避の剣速に達する居合斬り

ブレインのオリジナル剣技

ドサツ

「え…あ、ぎゃあああああああー」

雷火で肩口辺りを切り裂いて左腕を落とす…

ドシュー

斬り口からシャワーの様に血が噴き出す

腕を落とされた国木田アレクは右手で失った左腕の斬り口を抑え

た…

「腕があああ!!俺の腕がああああああ!!!」

余りの痛さなのか半狂乱に陥る

夢双一刀流刀術

剣技【陰討ち】

刀の向き切り替えて、刀の峰でアレクの首を叩く!

「ぐはっあ…」

ドサリ…

俗に言う峰打ちだ…咄嗟に師匠から教わった剣術を久しぶりに放ってしまった。

刀を鞘に素早く戻すと

アレクの左腕を拾いアイテムボックスへ収納して…

「レプリ!国木田の身体をチェックしろ」

「リョウカイ ダ」

…

「ペンダント ニ マリヨク ケンチ」

「これか」

俺は国木田の首からペンダントを取り上げる。

レプリが触覚を伸ばしてペンダントを鑑定する。

「ヤハリ マリヨク ムコウカ ダ タブン コノ マドウグ ガ

ゲンイン デ マガン シハイ シツパイ シタ カノウセイ ア

リ」

なるほど首にかけて初めて常時発動するヤツかペンダントもアイテムボックスへ収納

【葉靴+2】 召喚

すぐハイポーシヨンの栓を開けるとアレクの斬り口にかけるとシユウシユウと音を立て傷が塞がり血が止まる。

無線機を取り出し

『ゴーストよりリーダーへ目標確保：しかしアクシデントの為、目標を怪我させてしまった為に救急車を要請します』

『了解』

「とにかくこいつを運ぼう。」

【転移】 豆レプ（公安車）

国木田に触れながら一個待機させてる豆レプへ転移！

…

あれ？ 転移しない？

「アルジ コノ ビル ケツカイ ガ ハラレテル」

「え!？」

なんだ魔眼は効かないし転移はビルには入れたのに出れないだど？

「分かった」

【筋斗雲】 召喚

ドラゴンボールの孫悟空が使っていた空を飛ぶ雲で舞空術で空を飛べるようになったら、息子に上げた邪な心を測れる便利な雲

勿論、劇中の話でこの召喚した雲は善悪関係無しである。

国木田の身体に纏わりつくみたい白い靄が覆っていき身体は浮かび上がる。

【舞空術】 発動

よし空は飛べるな…

雲と共に窓を開けてビルから離れていく…

【兆し（危機感知）】 発動

な?!

『リーダー！ビルから退避して！みんな逃げろ!!』

無線機を掴んで叫ぶ！

【転移】豆レプ（公安車）

ビルから離れたから今度こそ発動したようで公安車の前に現れると…

ドカーン!!!

ゴゴゴゴゴ!!!

「あああ?!」

ビルのあった方向から爆発音と振動が伝わってくる。

『リーダー!?リーダー!?返事を!』

…

…

『ゴースト、聞こえる?』

菅生さんの声が聞こえる…

『良かった…大丈夫ですか?』

『ええ…でも部下が何人か退避に遅れて…そっちは…』

『はい、目標は確保してあります』

『そう…車のところにいるのね…そのまま待機してて』

『了解です』

俺はホッとしたものの一步間違えたらあの爆発したビルの中に入ったと思うと冷や汗が流れる。

時間があつたので国木田の身体を弄ると探索者カードを見つけた。

「そうか……迂闊だった…探索者カードか!レプリ調べてくれ」

「リョウカイ」

レプリはカードを口に入れて…

探索者カードには自分が行った行動と逆にされた事が記録される。本来は隠蔽してるから分からないはずだが協会と同じ装置があればスキルの内容は筒抜けだ。

もしかすると俺があの日、魔眼で支配した時の記録が残って…

「マガン ノ キロク ガ ノコツテイル」

レプリックの解析能力は協会の機械より精密だ…

「やはりそうか…俺のせいだ…」

俺のスキルへの驕りがこの事態を引き起こしたんだ…

第25話 事件の終わりと始まり

「まあ、そんな落ち込むことは無い…相手がそれだけ混乱してるんだと私は考えるよ…だって魔眼が効かないと同時に人格破壊装置も無力化される魔法無力化ペンダントなんてもんを使わせてるんだからね…逆に組織内が相当焦ってる証拠よ…」

八賀裏さんは俺を慰めてくれるが…

「…」

それでも俺には返す言葉は無い。

確かに魔眼対策の為に魔法無効化ペンダントを用意していたのに人格破壊装置も稼働できない状態にするのはどこか抜けてるのか？

俺の転移を察知して魔法結界を張る魔道具を用意して国木田、共々封じ込めて一緒に爆発させる予定だったのか？

どの行動もチグハグな事だ…もしかすると今回の事件はその組織内で勝手に行動している部下？上役？辺りの混乱なのだろうか？

転移、魔眼を知っているても空を飛べる方法があったりまだ俺のスキルを全部把握してない証拠なのかも…

考えれば考える程、ループしている感じに俺の頭は混乱し始めていた。

「とりあえず神宮寺君の仕事は終わったしもう戻ってもいいわよ…アキラには私から言っておくから…ゆつくり家で休みなさいな…お疲れ様」

とんと俺の肩を叩いて慰めてくれた

「はい…お先に失礼します」

俺は八賀裏さんにお辞儀してから家に帰る。

【転移】 豆レプ（家）

玄関に転移してキャラも解除して居間に向かう。

「「おかえりなさい」」

3人は俺を見ると声をかけてくれた…

「ただいま…こちらはどうだった？」

落ち込みそうになりながら声を上げながらそっちの状態を聞く

「ごっちは平和そのものでした」

「今、ニユースやつてるけどビルが爆発したって、もしかしてここだったの?」

「何にしても無事でよかった」

杏さん、華鈴、冥耶はそれぞれ声をかけてくれた…

「すまん、ちよつとシャワー浴びてくるから待ってて…」

俺は少し3人の顔を見たらホツとしたのと同時に自分の失敗を告げるには少し辛かったから慌てて風呂場に行く。

…

…

…

そしてシャワーから戻った俺は頭が冷えて冷静に話せる状態になつてから、彼女たちに今回の事件の顛末を教える…

「自分のスキルの能力を過信してたよ、転移や魔眼の力が無敵な訳ないのにな…そして組織の力を過小評価していた…そして死傷者をだしたのは、俺のその力を無敵と勘違いした驕りだった…」

俺はダンジョンに入って力を得て調子に乗っていた…

そう告白してその場の3人は俺と同じように俯いていた。

…

…

「カムイさん!」

「え?あ、はい!!!?」

しかし杏さんが突然大きい声でこれまで見た事の無い真剣な顔で…

「カムイさんは悪くありません!悪いのはその悪い組織です!!…そして許せません!!!みんな、ただ幸せに楽しく生きていただけなのに…カムイさんは、これで良いんですか?私は悔しいです。」

「そ、そりゃ…俺も…悔しいよ…」

これまで見たことのない杏さんの訴えに動揺する。

「だったらそんな組織…ブツ潰しましょう!!!」

杏さんはこれまで見た事の無い真剣で怒ってるのか初めて見せる

顔で叫んでいた。

「そうだよ！せつかくこんな凄い力を手に入れて、そんな悪い奴らに怯えて暮らすなんて私は真つ平御免よ!!どうせ一度は諦めた人生だもん…杏ちゃんに私も乗るわ!!」

華鈴は拳を握りながら杏さんに賛同する。

「そうね…こんなところで落ち込んだって仕方がない…彰人は神様じゃないもの…落ち込むのはこれで終わりよ…どんどん強くなって奴らをやっつけようよ！せつかくヒーローみたいな力を手に入れてこのまま終われないわ!」

杏さん、華鈴、冥耶の顔は真剣にしかし悔しそうな不思議な顔になっていった。

そして俺もだんだんと悔しさと怒りが腹の底から湧き上がってきた。

「…そうだな…やろう…もつと強くなるろう…折角手に入れた力だ…とことんやってやる」

こうして俺達はこのスキルを活用する事に決めた…

それから菅生さんからメールが届いた。

スマホで確認すると今回の事件の顛末が書かれていた。

デウス（仮）ビル内で爆発物で爆発炎上した。

現場検証により分かった事は魔道具によって魔法効果を検知すると結界が発動と同時に爆発装置のスイッチが起動し5分後に起爆するようにセットしてあったらしい

軽傷者 15名（警察関係）

重傷者 05名（同上、ビル内1名）

死亡者 10名（警察関係3名、ビル内7名）

菅生さん達は後方で指示していた為、怪我はないが…

犯罪刑務執行官は2名重傷、3名殉職

警察関係者が1名重傷で軽傷15人で済んだのはベテランの罪執行官が盾になって最後まで身体を張っていたかららしい…

「菅生さん、お疲れ様です」

俺は菅生さんにお辞儀しながら挨拶する。

「神宮寺君…お疲れ様…ありがとうね、来てくれたんだね」

警察葬の告別式に俺は来ていた…

「菅生さん、俺が失敗して本当すいませんでした。」

今度は謝罪の為に頭を下げたが…

「神宮寺君のせいではないわ…まさか爆弾を用意して待ち構えていたなんて誰も想像できないし、それを予測しないで部隊を動かしたのは私よ…」

「…」

お互い、長い沈黙の後…

「菅生さんに頼みがありました…」

「頼み？」

「今回の事件で、俺はあの組織にこの受けた借りを返さなければいけなくなりました…確かに亡くなった方達とは直接、交流も無いし縁も無いですが…しかし許せない気持ちちが宿つてしまいました…だから今後もどうか協力させてください」

「それはこちらも助かる…分かったわ…今後よろしくね」

「はい…ではこれで失礼します」

俺は菅生さんに挨拶すると帰宅の途についた…

そう、ここからデウスを叩き潰す決意と共に、仲間達と強くなる事を決めた日となった

この事件は終わり…

始まりとなった…

第26話 4人で探索者パーティー活動中

ここはいつもの斑鳩ダンジョンの中…

女の子が岩陰からゆつくりと顔を出す…

黒髪のセミロングで頭のとっぺんにアホ毛が立っている。

青い隊服にマントを羽織ってホットパンツを履いた、太ももの白さが際立つ女の子…

そんな彼女の手元から

『アイビス (デストロイ)』

使いたいと思っただけで、ずっしりと重たそうに彼女の身長に匹敵し、世間一般では対戦車ライフルという名に似た形の大型銃《ライフル》が女性の手元に出現する。

彼女は片膝を付いてライフルのスコープを覗くと

秘匿通信で

『目標、ゴブリンの群れ…撃ちます』

トリガーに指をかけて何処が一齐にダメージを与えられるか照準の置き所を見極めながら弾く！

カチツ

ズードオウーーン!!!

彼女の身体を超えそうな大きさに極太いエネルギー弾がゴブリンの群れへ放たれる。

ゴブリンの何匹かは音と衝撃で気がついたようだが、その異常なエネルギーの本流をモロに受けて消失していた。

しかしそれで終わらず

『《メテオラ》炸裂弾 (デストロイ)』

彼女は今度は正六面体のこれまたいつも、華鈴や冥耶の使う炸裂弾の10倍の大きさのモノが頭上の手の平の上に出現した。

『ズーーン…』

更に混乱しているゴブリンの群れに叩き付けると…

ドッゴーン!!!

《ゴブアワワー!!!??》

絨毯爆撃のように立方体が飛んでいきゴブリンの群れに降り注ぐ

《ゴブ?!》

大混乱に陥っているゴ布林達に

『よしみんないくぞー!杏は固まってる所に鉛弾追尾弾で援護を…』

『『了解!!』』

俺達は今、11階層まで潜っている。

神宮寺彰人、鈴見華鈴、冥耶・ハミルトン、杏の4人でパーティーを組んでいる。

勿論、10階層のフロアボスを倒して今は11階層で12階層に潜る許可を貰う為にゴ布林をパーティーを組んで戦っている。

まあゴ布林と一口に言っても11階層だと変化がある。

少し赤みが増し身体の大きさも2階層辺りにいるゴ布林とは違い一回り大きくなっている。

俗に言う鑑定で定められたモンスターの名前の前に、階級が付けられており下位種から無名(ノーマル)、ブロンズ、シルバー、ゴールド、ミスリルと付けられていてダンジョンの場合、11階層から一区切りとなり上位種へと上がっていく…

俺達が今相手にしているゴ布林は《ブロンズ・ゴ布林種》となる。階層が更に下がると上位職の名前が付き《ブロンズ・ゴ布林ロード》とかへ変化していく。

11階層のゴ布林はただのブロンズ・ゴ布林やブロンズ・コボルドが群れで徘徊している…

華鈴はいつもの小南桐絵《コナミ・キリエ》のコスプレで暴れ回る「いくわよー!」

【メテオラ (炸裂弾)】×2

ドカーン!ドカーン!!

混乱しているゴ布林に両手から放って直撃させると爆発して更なる混乱で収集つかなくなっている。

【双月】×2

走りながら両手から小型の斧のような形の武器が現れて複数のゴブリン達を切り裂いていく…

【鉛弾追尾弾（デストロイ）】

バシュー!!!

杏はさつきより小さいが同じ立方体、しかも黒い立方体が8分割に分かれて迫ってくるゴブリン達に放つと、当たった瞬間、突然身体から変な紅に染まる石みたいなのが生えてバランスを崩し倒れたり急に動きが遅くなる。

これは鉛弾と言う特殊な弾で当たると重りが生える。通常弾に特殊効果を付与し、直接的な攻撃力をなくす代わりに、着弾すると通常約100kg相当の六角柱の錘となり敵にくっ付くことで機動力を奪う。これもトリオン量によって増えるしデストロイのスキルでより重量は増す…

冥耶は烏丸京介《カラスマ・キョウスケ》のコスプレで杏が放った鉛弾で動きが鈍くなったゴブリン達を片付けていく…

『冥ちゃん！危ない!!』

【シールド（デストロイ）】

冥耶の前に可視のシールドが現れる

カキン！カキン!!カキン!!!

3本の矢がシールドで塞がれる！

『あり〜アン！』

杏に感謝を述べながらアサルトライフルを左手で持ちながら弓矢を持つゴブリン達を牽制する。

その牽制の間に

【《ハウンド》追尾弾（デストロイ）】

杏は頭上に立方体を浮かばせると3匹のゴブリンをロックオンして放つ！

《ゴブナー！》

上左右から追尾弾が誘導しながら直撃して消滅していく…

『本当、アンの攻撃力エグいわ』

『それは雨鳥千花ちゃんのデストロイのせいだね〜私の力では無い

よ』

雨取千佳《アマトリ・チカ》はワールドトリガーに出てくる主人公の1人

膨大な量のトリオンをもつため、幼いころから近界民に狙われてきたキャラで本来は背が低いのだが杏の場合、160cm以下なので意外と似合っている。

ちなみにデストロイの名称は破壊力や強さがトリオン量に左右されるスキルの1つで、雨取千佳のトリオンモンスターに付随するスキル

《ホブウー》

『ちよ、大きい?!ホブゴ布林?』

華鈴は通路の角から出てきたブロンズゴ布林ではないホブゴ布林に驚く…

さしずめブロンズ・ホブゴ布林と言ったところか?

【エクソード】

ガーシユン!

《ホブー!?!》

華鈴の不意を突いて現れたホブゴ布林に地面から突然、壁のようなものが競り出して進行を止め、更に顎にヒットしたのか後ろに倒れる。

『華鈴、うかつだぞー!もっと周囲の地形に注意しないと…』

俺は援護の為に地面から生える盾を発動:通常はシールドなど使うが、エクソードの利点は物理的に発生するので盾としてと相手を動かしたりと嫌がらせには最適なスキルだ。

『そ、そんな防衛本能で分かってたわよ!ちよつと大きさに驚いただけ!』

最近の華鈴はこんな感じでツン全開で俺と接するようになった。

まあ変に畏まっても困るから:まあそれだけチームとしては慣れてきたんだらうとは思う…

ちなみに【防衛本能】は小南桐絵の持つスキルで俺の持つスキル【兆

し」と似た性質で危機感知能力に長けてるから気づいていたと言うのは本当なんだろう。

「ちよつと大きいからつて凶に乗んな!!」と叫びながら双月同士の下部を接触させると!

連結!

【双月（斧）】

「でやー!」

小型斧から大型の斧に変形してそのままのスピードでホブゴブリンを横一文字に切り裂く!

ドツーズーン

《ホブ!?!》

そのまま切り裂かれ身体は消滅する。

流石だ、華鈴!

俺も負けてられないな!

分断されているゴブリンの群れに俺も迎撃に向かわないとな

【界王拳】

攻撃力、防御力、回避力、俊敏力が2倍になって、身体全体から赤いオーラを吹き出しながらゴブリンへ駆け出していく!

【縮地改】

縮地改のスキルを発動させながら、俺が赤い弾丸となって迫る。相手も迎撃の態勢だが2 m手前で急速に右方向へ旋回する

向こうも対応しようと動くが:

【スコープピオン】

その勢いのまま右脚を振り上げて足先から黄色の物質化した刃が伸びてそのまま首を蹴り切り裂く!

スコープピオンはワールドトリガー作中で変形が自由自在で定まった形状を持たない刃（ブレード）。

体中どこからでも出現させることが可能で、とても軽く重さはほとんどない。

攻撃力もAでカタナと同等。

ただしブレードの耐久力が低いため、受け太刀には不向き。だがその特徴は身体の何処からでも出す強みで失った足の代わりに、刃を変形させて仮の義足にしたり空いた穴を塞ぎ応急措置がわりの包帯みたいに使ったりと使い手によって様々な使い方ができてある意味、センスが必要。

…！

【兆し】

違う敵が俺を狙ってるのを感じる…

【先読】

そして敵の動きを読んだ俺は右足着地と同時にそのままの勢いで身体を回転させて右腕を振り

【スコープピオン】を出現させた剣を鞭のように長く伸ばし後ろへ放つ！

そこには目測10m付近に斧を投擲しようとするゴブリンがまさに振りかぶって投げようとしていた…

スコープピオンは使用者からある程度、離れると消失するが…

鞭のように伸びた剣先が限界に達する瞬間

【スコープピオン】

剣先から更にスコルピオンが出現しさせて鞭のように撓ってゴブリンの喉元に突き刺さる…

《ゴフー》

そしてそのまま消失する…

『マンティス決まったわね！』

どうやら華鈴の方は片付いたみたいで俺のマンティスが決まった瞬間を見たようだ。

『ああ、何とか使えるようになってきたよ』

マンティスはスキルではなくワールドトリガー作中で、影浦雅人《カゲウラ・マサト》と言う空閑遊真のライバルで後に友達になるキャラで、彼の使うスコープピオンを連結して使う技の事を言う。

主・副スコルピオン2本を連結して引き伸ばし、鞭のようにならせる。射程は一般的な弧月専用トリガーの旋空（15m）と同等を誇

る。

また、フックロープのように地形に引つ掛けることで短距離の空中移動も可能にする。

一気に伸びる射程とスコープピオンの可変性を活かした軌道の読みにくさにより、「攻撃範囲」・「鋭さ（攻撃スピード）」・「防御しにくさ」・「威力」の全てに優れた攻撃が可能な非常に強力な技。

ただし習得には高い技術力が必要であるようで、またメイン・サブトリガーを使用しているいわゆる両攻撃（フルアタック）であるため、瞬時の防御が難しくなる難点がある。

作中ではマンティスを使うのは影浦雅人、空閑遊真この2人のみ。自分は暫くは空閑遊真を使ってスキルを上げてた時に散々実戦で使ってたようやく様《サマ》になってきたのは最近の話。

既にブレイン、エルヤー、空閑遊真、木崎レイジはスキルレベル10に達している。

つまり今、俺のコスプレキャラは空閑遊真ではなく新たなワールドトリガーキャラ…迅悠一《ジン・ユウイチ》で戦っている。

さつき使った【先読】は迅悠一のスキルなので重宝している。

『殲滅したな…11階層でのクエストはこれで充分クリアしたよなくレプリ?』

『54タイ タオシタ カラ クリア シテイル』

どうやら30体以上いつの間にか倒していたようだな、ブロンズ・ゴブリンとコボルトだけのはずだがブロンズ・ホブゴブリンがいた事は報告だけしておこう。

『よし戻ろうか』

『だね』『お疲れ』『帰ろうか?』

魔石や使えそうで換金できそうなアイテムはレプリが回収してくれるのは助かるな…アイテムボックスに納めると歩いて10階層を目指す…

え?!

何で転移使わないかって?

最近は使わないようにしてなるべく転移を使えない印象を与えない為…

まあ面倒臭い事この上ないが組織の連中が何処で見てるか分からないし…

それに…

「華鈴ちゃん!」

「冥耶様お疲れ様です♪」

「杏ちゃん、次の杏チャンネル楽しみにしてるよ!」

ここ1ヶ月、こんな感じで3人は顔が知られて男性探索者達からアイドルみたいな扱いを受けている。

え?!俺はそんな彼女達とは離れて歩いている…

カメレオン（透明状態）で姿を消してね。

彼女達はそんな男性達に愛想笑いを振り撒きながら10階層の転移門で帰っていく。

『レプリコウだ?』

『トクニ アヤシイ ソンザイハ カンチ デキナイ』

『了解戻ろう』

俺は人の気配が無いところまで戻りそのまま帰る。

【転移】「豆レプ（探索者事務所転移門）」

事務所の転移門に着く頃にはカメレオンが消えて2階に上がる階段付近で彼女達が待っていた。

「先が上がってればいいのに…」

「リーダーがいなきや締まりが悪いでしょ!」

華鈴の言葉に残りの2人はうんうんと頷いていた。

「はいはい行くよ」

「はいはい!」

事務所2階の事務所に入ると受付カウンターに安藤さんが笑顔で待っていた。

「お疲れ様です!デウスレイヤーズの皆さん!」

第27話 デウスレイヤーズ

「お疲れ様です！デウスレイヤーズの皆さん！」

デウスレイヤーズ：それが俺たちのパーティー名である。

勿論この名前の意味はデウスの殲滅者達《スレイヤーズ》と言う意味で付けた名前だ：

まあ菅生さんからは挑発行為が過ぎると心配されているが、これぐらいの挑発で怯えるぐらいなら最初から喧嘩なんてしてないしな：

さて探索者カードの提出をして安藤さんはいつものようにカードリーダーを装置に置き活動内容を確認。

「はい！確認しました！12階層以降の許可出しますね」

そう言つてカードを返してくれる。

「にしても皆さんこんな短期間によく10階層突破して次から12階層なんて凄いですね」

安藤さんがそんな事を言うという事はペースが早いのだろうか

「それもリーダーのスキルのおかげだしね！彰人様様よ」

「うんうん」

「まあみんな…その辺でな」

「パーティーの人員募集はしないですか？」

「そうですね！今、この4人でじっくりくるんでね」

「結構問い合わせもあるですが…ではそのように伝えておきますね」

俺のスキルは以前、非公開にして隠蔽していたが今はオープンにしている。

更に3人と組み銃火器も当初は隠そうとしていたが、これも平然と使うようにしてデウスの出方を見る為に今は存分に見せている。

そして俺達の拠点は俺の家…あの後、そのまま一緒に暮らす事になって杏もこちらで暮らす事に…一応許可はもらう為に俺も杏の親と話し合いに行く事になったりとこの1ヶ月は忙しい日々だった。

あと動画サイト「杏チャンネル」のサブチャンネルを作つて探索者専門の動画を公開してコスプレした華鈴、冥耶がメインパーソナリ

ティーになり、裏方に杏が時々、ツツコミしたりと楽しく番組を運営している。

動画撮影はレプリカが主に担当して編集も杏と一緒に協力してもらっている。

基本的にはコスプレした4人(敢えて俺は目立たない様に編集して貰ってる)でダンジョン攻略をしてるのを流している。

ダンジョン動画は珍しくないが探索者がコスプレして、しかもいい加減ではなくウィッグも衣装も小道具も揃えてるのはなかなか無い為か：しかも必殺技も再現されてる為、評判も良くて今ではファンもいるみたいだ

たまにエゴサーチすると…

リーダーの俺の事をSNSで悪口もあつたりするが、ハーレムパーティーとか：それもあつて俺はなるべく一緒にいない様に尽力している。

俺はその放送されてる間、レプリカと一緒にネットで怪しい存在を視聴者から探す作業もしている…

わざわざ相手のネットを遡って住所を特定し、豆レプリや俺自身が現場に赴いて確認している。

この1カ月、そんな作業を繰り返してるが未だにデウスに繋がる存在には行きつかない。

もしかしてこの前の事件で…

組織が解体は…

ないなくそんな柔な組織では無いのは菅生さんから聞いてるし：しかしこの前の出鱈目な作戦が菅生さん達からすると今まで相手にしてきた組織にしてはお粗末な行動が目立つと言う。

とにかく少しでもあいつらの存在に繋がるのならと毎回、搜索しているのだが…

…

『では皆さん、またのご視聴をよろしくお願いします！チャンネル登録と高評価ボタン押してね！カリンからのお願い…ね』

ウインクしながら両手でハートマークを作って媚びている華鈴と

冥耶

その後、似合わねーとお互いに突っ込んで放送終了

「ふーい終わった!」

お疲れさん〜と言いながら俺は3人に紅茶を入れて労う。

リーダー、気が効く〜とか皆んなお互いにティーブレイクを楽しんだ。

「カムイさん〜一応コスプレリクエストがね…美少女戦士セーラー Moonとか、オーバーロードのラキュース達の蒼の薔薇とか、あずまん「ギャグ漫画は…」とか、Fateシリーズ、東京ミュウミュウ、革命機ヴァルブレイブ、聖戦士ダンバイン、ソードアートオンライン、マジンガーZ、聖闘士星矢、機動戦士ガンダム「ロボットはクリエイトで作れるのか?」、ドラゴンボール、原神、FF、ドラクエ…」

「ファイナルファンタジーシリーズに、ドラゴンクエストね〜ナンバリングかダイの大冒険? ロトの紋章? まあドラゴンボールならすぐできそうだな」

既にドラゴンボールなら4人分あるからな

「なら私、悟空!」

華鈴が手を挙げる。

「じゃあベジータかな」

冥耶が王子か…

「なら俺はピッコロだなく残った杏はクリリンかな」

ニヤリと笑いながら杏を見る。

「えークリリンも好きだけど…なら嫁さんの人造人間18号が良い」

杏は勝ち誇ったように答える

「18号いいなあ〜なら17号にする」

冥耶があっさりベジータから乗り換えた

「ズルい…ふっふっ〜なら私は21号はどうよ?」

華鈴も悟空から人造人間21号へ乗換えて何故かドヤ顔で振り返る

「この流れで行くと俺は16号か19号、20号? それとも劇場版13号か14号か15号? まさか合体13号?」

などとマニアックな話しが進む。

ドラゴンボールの人造人間編で出る敵側の人造人間達：

17号・18号は人間をベースにした双子の姉弟で17号が弟で18号が姉：

敵側だが後に生き返って17号の弟は動物保護でレンジャーになり18号の姉はクリリンと結婚する。

19号は完全機械型、20号は19号が改造手術して元人間の機械型で人造人間を作ったドクターゲロの成れの果て

16号はそのゲロの亡くなった息子をモデルに作ったが失敗作として封印されていた。

21号はゲームのオリジナルキャラで魔人の遺伝子を組み込んだ人造人間

13号、14号、15号は劇場版オリジナル人造人間

後に14号・15号の心臓部であるジェネレーターを1組入れる事で合体13号になる。

しかし気がつけば華鈴も冥耶もオタク話で楽しく話せるのだからアニメ、漫画、ゲームなどの文化は最高って事だろうな…

こうして今日も夜が深けていく…

第28話 再会と出会い

数日が経つが未だにデウスの動きは分からないままだった。

俺はこの日は大学へ通学…

華鈴は親戚の法事で4日程、帰省

冥耶は実家で母親が交通事故で軽傷（デウスは関係無し）大事を取って実家に帰省

杏は同級生だった友人が結婚するとの事で東京へ、そのまま暫く滞在予定

レプリカは公安の菅生さんの手伝いで長期出張

珍しくバラバラな日程となって暫くダンジョンに潜るにしてもソロとなる。

授業も終わりサークル参加く久しぶりに先輩、同級生、後輩たちとオタトークを楽しむ時間である。

「そういえばデウスレイヤーズ・チャンネルのカリンちゃんとメイちゃん可愛いなあ〜紹介してくれよ」

「合コンしようぜ!!」

「これをお二人に…詰まらないものですのでお気になさらずに〜」

「今度、併せしようぜ！オーバードとかどうだ？人間側で揃えようぜ」

…とまあ合コンはともかく併せに惹かれる俺であった。

さて1人で斑鳩、潜るかね〜

何時もの様に転移門へ行き事務所へ申請してダンジョンへ…

「おい！ナギ遅せつぞ!!グズグズすんなよく給料払わんぞ!!!」

「す、すいません！すぐ行きます」

え…

ナギ…

那岐？

那岐だつて?!

振替えるとそこには転移門からパーティーが帰還したようで那岐

と呼ばれた少年が大きいリュックを背負って足早に走って行くのが見えた。

俺は気になり休憩所（単なる喫煙所で屋根が申し訳程度に設置してある）で2階に上がったパーティーの様子を伺う。

30分後：

パーティーの面々が降りてきて、最後にさつきナギと呼ばれた少年が降りてきた。

確か最後に会ったのが俺が高校生でナギが中学生になる直前だったからもう3年前か？

俺は彼に近付くと

「甲斐道那岐《カイドウ・ナギ》か？」

と聞くと：

俺の顔を驚いた顔で見る。

やはり那岐か？

「俺だよ、神宮寺彰人だよ。那岐、久しぶりだな元気だったか？」

俺は彼に近付きながら声をかけると：

「アキ：神宮寺彰人さんですね。お久しぶりです」

軽くお辞儀しながら、まるで初対面の人に会う。何か拒絶と言うか壁を感じる言葉に俺は一瞬、戸惑う。

「え?!あ：あ、そうだよ彰人だよ。元気だったか? って言うかお前、今15歳で高校生のはずなのに何でダンジョンなんかにいるんだ? 那美《ナミ》はどうしてる? 元気か?」

そう言った瞬間

「あなたには関係ない事です。気安く姉さんの名前を言わないでくれませんか?」

ハッキリとした拒絶を喰らう

俺は顔が固まってしまいそれ以上何も言えなかった。

「では急いでますので失礼します」

そう言うのと那岐は立ち去って行く...

暫し思考が停止していたが元に戻る頃には歩いて帰って行ってる姿が見える。

え？アイツ斑鳩ダンジョンまで歩いてきてるのか？

：とりあえず事務所に戻って那岐のステータスが記載されてるかを確認しようと2階上がる。

2階事務所に入るとフリースペースにある端末で調べようと椅子に座ろうとしたら…

「あら？神宮寺さんダンジョンに潜ったんじゃないですか？」

安藤さんが聞いてくる。

「あ、あくちよつと気になる事があって戻ってきました、ははは」

慌てて取り繕う

「それはちょうど良かった〜実はさつき入れ違いで神宮寺さんに会いたいつて尋ねてきた方がいまして…会議室でお待ちしてますが…」

「へ？」

俺は間拔けな顔をして安藤さんを見る…少し思考が停止していたかもしれない

「…あ、勿論大丈夫です」

と返事を返す

「ではこちらはどうぞ〜神宮寺さんはお茶は何が好みでしたかしら？」

「コーヒーで」

「分かりました」

そして会議室に案内されて扉の前に立つとコンコンと叩くと…

「巻島様！神宮寺様がお見えになりました！」

「はい」

低い声が響く

「神宮寺さん！巻島様にはくれぐれも失礼の無いように…」

安藤さんが普段見せない顔で圧をかけてくる

「え？あ、はい」

まあ既に気配だけで凄い強さを感じる…10階層の階層ボスの強さより5倍？いや、もつと強いと感じる。

緊張が走るが…

「失礼します」

安藤さんが開けると

途端に更なる圧を感じて底が知れない相手と感じた。

「こちらが神宮寺さんです！神宮寺さん、こちらはS級探索者の巻島悠一郎様です…」

「初めまして巻島です！よろしく！」

凄いスピードで近付いて握手されていた?!

「ああ、すまんなくつい興奮してな…はははは！」

直ぐに離れて謝罪する…

「いえ、初めまして神宮寺です」

巻島さんは椅子に座って自分も座ってくれと手で招く

俺は勧められるままに指示された椅子に座る。

「いや〜ダンジョン入ったばかりと聞いてね。出てくるまで待機させて貰おうかと…こんなに早く戻ってくれるとは想像できなかったよ」
「はい、ちよつと昔の知人に会ってそれでダンジョン入る前でしたから…」

その後、安藤さんはコーヒーを俺達に配るとお辞儀をして出て行く
「さて急に済まないな…今日しか予定が空いてないから単刀直入に聞
くけど…デウスレイヤーズってネーミングは、当然デウスを知ってて
名付けているんだろうね」

「…はい…そうですね…その通りです」

嘘を言っても始まらないし…この人に言っても無駄だろう

「それがどんな危険と分かっているもか？」

巻島さんは真剣な顔で問うてくる。

「…」

「あの組織は危険だ…あんな挑発紛いの名前を付けるなんて自殺行為
と同じだ！」

沈黙は肯定と見なしたか、話を続ける。

「…とまあ正論を並べたが、それでも引く気はないのだろうか？」

「はっ」

俺もそれを肯定する。

「一度決めた事だろうしな…そこで俺が集めたデウスの情報が多少ある…その情報を神宮寺くんに渡そうと思う」

?!

「…え?!何故?」

「勿論、俺も今、探しているんだデウスの残党をな…」

「?!残党ってどういう意味ですか?まるでデウスが壊滅してるような話みたいに聞こえるじゃないですか?」

「ああ…俺がデウスを壊滅させた」

デウスが壊滅した?

第29話 デウス壊滅?と巻島の頼み

「ああ、デウスは俺の手でな…しかし幹部の一部には逃げられてな…今はそれを追いかけている訳だ」

え…デウスが…幹部が逃げた…

【嘘看破】は起動してるけど嘘は言っていないのは分かる。

「多分、君のその挑発的な名前は奴等も気付くし、それに君の持つスキルに大いに興味もあるだろうからな…いつか必ず君の前に現れるだろう」

俺のスキルか…

「俺としては、その逃げた連中を捕まえて己のした事の罪を償わせてやろうと思っただから残党の情報を提供したいと思っただけ」

そういうとUSBメモリーと名刺を渡される。

「もし奴らの情報や捕まえたりしたら連絡が欲しいし、俺の方でも連絡する…どうだろうか…頼めるだろうか?」

「あの、この事を公安に知らせても大丈夫ですか?」

「俺の邪魔をしないなら構わない…が公安に捕まる前に聞かなければいけない事もあるので、できれば捕まえたら先に俺に連絡をくれないか?もしくは怪しい連中が君の周りをうろついても良い…とにかく定期的に連絡が欲しい…頼めるか?」

しばし考えるが、S級のこの人が何を聞き出すのか知らないが…

「わかりました…公安の前にあなたに任せます」

「そうか…ありがとう」

「いえ…別に奴らが壊滅するならどっちでも構いませんので…」

「それで最後の質問だが…君のスキルには人を蘇らせる…つまり復活などができる力があるのか聞きたい…どうだろうか?」

「え…蘇らせる?復活?...死んだ人とかですか?」

「ああその通りだ…」

確かにこの前の事件以降、回復を超えるくもし亡くなっても救う事ができるスキルを欲していたから、いくつか考えてみたが…

「いくつか候補は在りますがまだ手付かずで検討している段階です」

「それはできる可能性がある？」

「何せ、俺のスキルは少し特殊なので…とにかくコスプレしてスキルが使えるようになれば成功なんですが…だから対象が必要なんですよ。例えば人を蘇らせる人物で有名なのは世界3 大宗教のアノ方とか？調べたら昔はアニメにもなったりしましたし後は…」

「そのスキル、何とかできないのか？」

巻島さんの顔は真剣な顔から怖い顔へと変貌していく

「へえ？」

今迄怖いと思う事はあつたけど…探索者としては、S級を怖えーと初めて思った…

「いや済まない、少し取り乱した」

顔が再び真剣な顔へと変わった

「いえ…あとは漫画とかで有名なのはドラゴンボールですかね」

「7つの玉を集めるやつだな」

「あとは最近だと、魔法科学学校の劣等生かな？」

「それはどんな力が？」

「主人公に物体の時間巻き戻しできる魔法があつて24時間前の状態に戻す…概要的には復活とは違いますが作中では殺された妹を蘇らせ…」

全て言い終えらないうちにガツシと肩を掴まれ巻島さんの顔が近づく(え?!【危機感知】や【兆し】が機能しない?)

「頼む！神宮寺君！俺の…俺の妹を蘇らせたんだ…頼む！」

俺の身体から離れて巻島さんは突然、土下座をして頼みはじめた。
「巻島さん！顔を上げてください…できるかはまだ分からないんですから…」

「ドラゴンボールでも劣等生でも構わない…妹を助けてくれ!!」

「わ、分かりました…成功するかは分かりませんが検討しますので、もう少しお待ち下さい」

「わかった…10年待ったんだ…よろしく頼む」

こうして巻島さんとの話し合いが終わった…しかし何故【嘘看破】
【兆し】【危機感知】の全てが機能しなかったのか…S級だから？それ

ともスキル？魔道具？

巻島さんはこうして去って行く…事務所に挨拶すると階段を降りそのまま掻き消えるように姿が消えていた。転移か？あるいは何かのスキルか？

事務所の安藤さんに断って再びフリースペースの端末で確認する。

巻島悠一朗 S級探索者

しかし彼のステータスの全ては秘匿されていた…現在はソロで活動中か？

甲斐道那岐 F級探索者 15歳

彼もステータスは秘匿している…しかし現在は探索者のサポートで活動中らしい

結局、その日はダンジョンに潜る事はしないで帰宅する事に…

そして案の定…コスプレイヤーフレンドに巻島悠一朗の名が刻まれている。

帰宅後、古今東西の漫画、アニメ、または創作物を検索してみたが…

人を具体的に蘇らせる作品はあるものの、例えば例の2つの作品以外だとお湯をかけて3分だけ死んだ人を生き返らせるとかくあまり有益な情報はなかった。

考えてみればドラゴンボールなどの漫画で有名な集英社の作品は、確かに死んだと思ってた敵や味方が助けにくる話とか死んだ描写が無い為、ドラゴンボールほど露骨に死んだ人を蘇らせる作品は無いのに調べていて気が付いた。

そして魔法科高校の劣等生の司波達也の生き返りは少し特殊で、死んだ直後で救急で蘇生可能な状態、死が定着し魂が完全に離れた状態だと身体だけが修復した死体となると…時間停止状態のアイテムボックスの中で果たして魂はどうなのか？確認する必要がある。

宗教の神様のコスプレをした方が早いのか？

ドラゴンボールの神様か？

もしくは司波達也か？

その日はベッドに入ってもなかなか寝付けなかった。

あとがき…

まあ世界3 大宗教のアノ方はあの人しかいませんが、名前を出してしまうのは憚れたので敢えて名前は記載しませんでした

昔はアニメでやってたんですよくだから大丈夫とは思うけどね

第30話 大魔王↓神様へ…そして異変

とりあえずピッコロさんをLv8からLv10へスキルカンストをしてから他のスキルを検討しようと思鳩ダンジョンに潜ってる。

パーティーだと1階層だがソロだと9階層ぐらいまでは行けると思ひ探索中…

9階層は森林地帯になっててモンスターとしては動物系が多く、今では地球上では絶滅したサーベルタイガーがいるのが特徴。

【魔弾】

バシュー！

《グオオーオオ》

襲い掛かってくるところを魔弾を当て怯んだ隙に背中から襲い掛かってきたサーベルタイガーへ踏み込んで裏拳を炸裂させる…

バゴーン！

ぐう…重てえー

【気円斬】

怪物が横に吹っ飛び態勢が崩れているので間髪入れず、掌から気の玉を発生させて玉を高速回転させると、円盤《えんばん》みたいな形に変形させて投げつける。

高速で回転しながら気の円は態勢の崩れた怪物の顔にヒットする

）

ギャリーン！

《ギャ…！》

そのまま鼻に当たってそこから顔が切り裂かれて真っ二つになる。

【漢の倍返し】

2体同時に襲い掛かってきた敵を、発動したカウンターで回し蹴りを首にヒットさせて、もう1体はアッパーで対処！

バチーン！

ドゴーン！！

しかしやはり重い…

吹っ飛んだ2体には再び

【気円連斬】

両手からさっきの気の円盤を片手に3枚、両手で合計6枚発生させて放つ！

ギューイン!!!!!!

《《ギヤイン》》

2体のサーベルタイガーは6枚の気の円盤が当たり、ズタズタに身体を切り刻まれる

【魔手】 + 【同化】 で瀕死の2体を吸収する…

ピッコロの【爆力】スキルで攻撃力を上げて薄くなった防御力を、新しくキャラインストールした戦姫絶唱シンフォギアの風鳴弦十郎の持つスキル【漢の倍返し】で倍のダメージカウンターで対処する。

おかげでほぼ一撃で倒せるのは効率が良く辛うじて生きてるタイガーには【魔手】で【同化】してこれで15頭は倒した。

ピッコロの装備しているターバン&肩当マント+2の重さのハンデに伴う経験値アップ効果とエルヤーの【天賦】で少ない経験値でも効率良く稼げる…

ターバン&肩当マント+2は防御力ではなく+1の度に重量が増し体感では50kgぐらいで+2の為、100kgの重さ…まあ【舞空術】のおかげでそこまで重さを感じないのは助かるが、それでも格闘する度に重さで振り回されるのはキツイがね、全部のスキルを切ると立てなくなるのは、やり過ぎた…

そのハンデで経験値を稼げる仕様なので仕方がないが…

しかしおかげでLv9に到達、スマホでステータスを確認すると【物質魔術】なるスキルが取得…

ああ、これは確か孫悟空の息子、孫悟飯に剣作ったり、服を作ったりした技か？

どうやら思い描いた物を高品質に作れるのか…あれ、もしかしてコスプレ衣装も作れば…これで通販に頼まなくても良いのか？

これも後で検証するか…さてあとLv1でLv10だな…

孫悟空の【気配広域】で探索…

…

【兆し】

1匹かかったところから30mか…俺は【舞空術】でそのまま浮き上がり木々の上を飛んでいく

見えたのはデカイ虎と言うか、フォレストタイガーだ…このまま空中に浮かびながらやるか…

まともに戦うと6mはあるデカイモンスターだから…ここ、9階層では強さの頂点にいるモンスターだからまともに戦うのは避けられないとな。

気を指2本で溜める為、額に集中する…

…バチ!

…バチバチ!!

…バチバチバチ!!!

【爆力】!

【界王拳】!!を発動して

魔王の力と悟空の技で攻撃力を増やして…

【魔貫光殺法】!!!!

ズギューン!!!!

ピキヤーン!!!!

気弾が螺子の螺旋の如く回転して、後頭部にヒット!!!

そのままゆっくりと膝を崩し…

ドスンと言う音と共に完全に倒れた…まだ息はあるようだが…

【魔手】

見えない手を伸ばして接触

【同化】

途端に消えてデカイ魔石が残る…そのまま魔石を魔手で掴むと自分に引き寄せアイテムボックスへ収納する。

ステータスの筋力が同化で強化されたのか?さっきまで重かった

ターバン&肩当マント+2の重さに変化が…つまり俺の筋力が大幅に上がったようだ。

多分、さっきのやつもかなりの経験値だなくあとサーベルタイガー15匹ほど倒せばLv10に到達するかな。

再び【気配広域】をかけながらゆつくりと探索する。

…それから何時間経過したか分からないが

15匹ほど倒して身体に違和感を感じたのでスマホを見ると…

・ピッコロ大魔王 魔王闘術 Lv10

爆力、魔弾（魔空包囲弾）、魔手、怪魔眼、魔貫光殺砲、分身、撃烈光弾、再生、物質魔術、神変化★

なるほど…最後のスキルは神様に変化する訳か…

神様のスキルを見ると…

【神様】（神変化・クリエイト1消費）

神手、神水雲、治療、範囲回復、完全回復、神殿転移、天界転移、神魔同化

神様はクリエイト1消費…これは初めてのスキル能力だなくつまりそれだけ強力な力を秘めてるのだろうな…レベルも無い。

クリエイトは…

へターバン&肩当マント+2（未）ドラゴンボール

やはりドラゴンボールが使えるなくスキル性能は…

【ドラゴンボール】

7つのボール（龍玉）で神変化で作成可能 クリエイト20消費
願い事1つ叶うと消滅する

クリエイト20消費か…今は74あるから3回は使える…でも神様になるだけで1消費して20消費でドラゴンボール…問題なのはこの願いで果たして巻島さんの願いを叶える事ができるのか？

魔法科高校の劣等生の司波達也も育てるか？

ふと時計を見ると…予定した時間を大幅に過ぎていた。

まずいな戻るか…

【キャラインストール】解除

いつもの探索者姿に変わって俺は転移を使う

【転移】探索者事務所転移門（豆レプ）

転移門に到着すると何処からか大きな声と唸り声が聞こえた。

周囲も騒然としていた。

「なんだ？…この雰囲気…」

ドラゴンボール

ピッコロ大魔王 魔王闘術 Lv10

爆力、魔弾（魔空包囲弾）、魔手、怪魔眼、魔貫光殺砲、分身、撃烈光弾、再生、物質魔術、神変化★

【神様】（神変化・クリエイト1消費）

神手、神水、治療、範囲回復、完全回復、神殿転移、天界転移、神魔同化

戦姫絶唱シンフォギア

風鳴弦十郎 我流拳術 Lv01

漢の倍返し

第31話 モンスターパレード

急いで2階に上がると事務所には、いつもの事務員さん達と探索者達が忙しく動いていた。

何かあったのか？

俺は事務所のドアを開けて中に入ると安藤さんの姿が見えたので

：

「安藤さん！すいません！」

声をかけると安藤さんは俺の顔を見て

「神宮寺さん!?良かったく神宮寺さんは巻き込まれなかったんですね！」

「何があつたんですか？」

「モンスターパレードが発生しました！」

「モンパレだつて!？」

モンスターパレード（略称モンパレ）

：沢山のモンスターが興奮して暴走する状態を「モンスタートレイン」と呼び本来、階層を降りたり登ったりまたは安全地帯に入る事で回避できる現象なのだが…

それが通用しない現象が稀に発生して別階層、安全地帯に入り蹂躪してしまう現象を「モンスターパレード」または「モンスターカーニバル」と言われる。

「俺は9階層にいたけどモンパレは何処で？」

「それははっきりしないんです！少なくとも10階層より上のようですが現在、1階層からモンスターが溢れるのを残留している探索者達が排除しています！」

俺はすぐ飛び出して斑鳩ダンジョンに向かうとさっきの怒号がはつきりと聞こえるようになる。

ダンジョンの入り口からぞくぞくとモンスターが溢れて出てくる。

コボルド、ゴブリン、ホブゴブリン、オーガなどノーマルタイプのヤツとさっき8階層であったサーベルタイガーやフォーレストタイガーも見られる。

探索者達も下はF級からC級も見られるのでフォーレストタイガーが1番厄介だがC級がいれば大丈夫…

しかし最初、下の階級しか探索者がいなかったのか怪我をした探索者達が溢れていた。

「誰か！ポーシヨンありませんか？」

「回復スキル、使えるヤツいないか？」

「意識をしつかり保て！目を瞑るな!!」

そうだな…迷う必要は無いな！

【キャラインストール】ピッコロ大魔王

再びピッコロさんに…そして…

クリエイト1消費して…

【神変化】

さっきのピッコロさんとは違いシワの多い姿のナメツク星人へ変わり、服に神と大きく描かれてマントと杖を持っている。

生命力も精神力も全快になってる気がする…ありがたいな

ドラゴンボールの神様へと変化した俺は…

【範囲回復】

スキルを発動して怪我した探索者達の回復を行なった。

完全回復はできないが少なくとも重症だった者は危機を脱するぐらいには回復しているようだ。

片手、片足を失ってる相手には【神手】で見えない手を当てて…

【完全回復】

スキルを発動する…

3人程、茫然としていた探索者達の手や足が切断されてた処からニヨキニヨキと生えてきて次第に欠損して失った腕や足が戻っていく

「え？おおお手が?!」「足が元通りに?」「何コレ?」

あまりの出来事に驚くが傍に立ってた自分に気付き、その人たちは俺の姿を改めて見るが…

「え?!」「神?!嘘?」「神様のコスプレ?」と口々に呟くが…

中には…

「デウスレイヤーズの神宮寺さんだね〜ありがとう」
手を掴んで握手してくる人物もいた。

まあ斑鳩ダンジョンでコスプレしているのは自分のところだけだからね…

正気に戻った一同はそれぞれ礼を言ってくる。

「まだ怪我してる人は？」

「こちらにはもういません」

俺は頷くとダンジョンの入り口の方へ…

ソロ、パーティー合同で魔法やスキルで入り口へ集中放火して飛び出してくるモンスターに対処していく作戦のようだよ

自分もスキルで対応する為にC級探索者の指揮官に声をかける。

「何だ？…ああデウなんちゃらの神宮寺か？手伝ってくれるのか？」

俺の姿を見ると怪訝な顔をしたがこの斑鳩で変わった事をしていく程度の知識はある様だ…

「回復を…疲労回復と精神力を回復が可能です。」

「何？本当か？なら使ってやってくれ！そろそろ後衛職の連中の魔力が尽きそうなんだよ」

「分かりました」

俺はその場でスキルを発動する。

【神水雲】

中衛、後衛全体に手をかざすと薄い雲が、上に広域に発生して水分を漂わせる…疲労回復に少しだが精神力の回復を兼ねる。

疲労の目えてた探索者達に活気が溢れていく…

「ほう〜すげ便利なスキルを持ってるな！よしこの調子で頼む」

指揮官はその効果に舌を巻く〜

続けて…

【元氣玉】

…

…

…

キーーーーーン！

1分程、周囲から集めた気を溜めて杖から気の玉を入り口付近に放つ！

ドツカン！

凄まじい爆発音と衝撃波がモンスター達を薙ぎ倒していく！

その一撃で怯んだのかモンスター達は入り口から出ようとしない。

「よし一旦、前衛は回復と補給を兼ねて下がれ！中衛はサポートに！」

C級探索者の指揮官は指示を出す

前衛に立つてた連中は相当の疲労の為か人目を憚らずに、そのまま寝て息を整えたり各々携帯食や水筒で補給と、回復職の人達も重傷者から治療を進める…

俺も今一度

【神水雲】

前衛の連中と回復に回ってる後衛職の方達に疲労回復と精神力の回復を続ける。

「お〜い誰か助けてくれ…こ、こいつを頼む…」

突然、入り口から出てきた男性探索者が見るからに死にかけてる女性探索者を肩に担いで連れてきた。

俺はすかさず

【完全回復】

スキルで回復して足がグチャグチャに折れていた足も回復し欠損していた頭の一部も修復し回復…

「ああ、良かった…ありがとう…」

そう言うとき女性探索者の手を取って生き延びた事に感謝しているようだった。

しかし男性探索者の顔を見て気がついた…

「パーティーの仲間の皆さんは？」

それを聞いて一瞬、喜びの顔が消えて…

「へ？…あ、あくバラバラになってしまったってそれぞれで逃げてきました」

【俺とコイツさえ生きていれば後の連中の事はどうでもいい】

【嘘看破】 発動

そう、この男性探索者は那岐を雇ってたパーティーのリーダーだった事に気がつく…

「那岐…那岐はサポートとして参加してたんですか？」

「ナギ…あくナギは俺達を、そう！に、逃す為にオトリになってくれたんだ」

【ナギの野郎、言う事聞かないから足を折って置いてきてやったぜ】
俺はそれを聞いて立ち上がり…

コイツの対処はまた後だ！

【転移】 甲斐道那岐

一刻も早く彼の元へ！

第32話 那岐救出へ

転移直後…ここがどの階層かは分からないが…今は特に関係無い…

ただ目の前にある物体に目を奪われていた。

かろうじて人の形に見えるが欠損した手足の損傷が激しく生きて
いる者には見えない。

しかしすぐ様、思い出す…死んだ人間の元には転移はできないと…
胸に手を置くと微かだが心臓の鼓動を感じるし微かだが息もして
いる。

生命力の強さに驚くが…しかしそれも時間の問題だろう事は身体
の損傷を見れば分かる。

俺は迷う事無くそして考え無しに

【完全回復】

スキルを行使する…しかし頭がフラフラし始めて魔力の枯渇を感
じ始めた。

みるみる内に損傷した部分が修復され那岐の身体は、元の状態に
戻ったようで心臓も息も力強く感じてホツとした…

多分、ダンジョンで気を抜いたのは、これが初めてだったのかもし
れない

ザクシユー！

「ぐつつがー！」

衝撃を受けたが体勢を整えようとして気がつく…

左手が痛い！では無く左腕が無くなっていた?!

「ぎいー痛えー」

そして俺の左腕を口に咥えて持っていった相手はサーベルタイ
ガーのようだ。

「テメエーこの牙虎野郎が！」

俺の左腕をバキバキ言わせながら咀嚼してるのを見て嫌悪感か、頭

に血が昇っていたからか、普段は絶対言わない荒い言葉を発していた。

しかし【漢の倍返し】が発動しなかった？

あのスキルは素手、無手で発動するカウンター技で俺は杖を持つてるのを忘れていた：

だが左腕を喰われてる時点でプツリと記憶が曖昧ではあるがキレタようだった。

後に那岐から話を聞いた顛末は：

「テメエーこの…」

頭痛えー何だこの大声は…え?! 兄貴？

「牙虎野郎が！」

中学の頃、荒れてた当時の兄貴を思い出し目が覚める。

その姿は異形：いや昔観たドラゴンボールに出てくる神様そつくりの格好をした人物から兄貴の声が聞こえていて気持ち悪かったらしい。

「だああああ【再生】はあー！」

バシャー!!と強烈な音と共に左腕が生えたそうだ：リアルに体液も飛び散ってグロいとか思ったらしい：

まるで失ってた左手の具合を確かめる様に手をグウパー、グウパーして具合を確かめてる姿は神様と言うより悪魔に見えたらしい

【再生】はピッコロ大魔王が使う技で身体や手、足などが欠損した際に元の状態に戻す：この技はスキルで使う技には珍しく魔力の消費では無く生命力が消費される。

しかも原作本編でもかなりの苦痛らしいのは痛さが半端ない、魔力があれば神様の【完全回復】が使うだろうから普通は使わないスキルつまり魔力が枯渇し始めているから無意識に使ったか？

俺の記憶は曖昧な為、不明

【護神刀】 召喚！

刀が突然現れて左手で掴むと

「待たせたなイヌツコロ！」と呼ぶ（ネコ科だから犬扱いは違うだろう）

サーベルタイガーは見た感じ攻め難く見えたと…

まあ食いちぎった腕が再び生えたりすれば戸惑うだろうか？…真相は果たしてどうだろうか？

シャツキンー！

しかしイヌツコロと言った瞬間…サーベルタイガーの口にある大きな牙が2本、音を立てて落ちる。カランコロんと…

無双一刀流刀術

剣技【音無し】

鞘から発する音以外は、音無しで斬る居合斬りの技…達人ともなれば鞘走りの音さえ聞こえないとか…

ガオー！！

流石にサーベルタイガーは怒りを振るわせ襲いかかるが…

シャキーン！！

兄貴の居合からの抜刀が下から上へ斬り上げた瞬間…

サーベルタイガーの顔が十字に切り裂かれ絶命してる様に見えるかと…

しかも速過ぎて2段に斬ってるのが見え無かったらしい…

無双一刀流刀術

剣技【逆十字】

うちの流派での師匠が得意な技だった思い出…俺は結局、習得出来なかった筈だが…いつの間にか使える様になったのか？

そこから約30秒経ってようやく目覚めてように見えたと後で那岐から教えてもらった。

「そうか…軽く飛んでたんだな…ああ悪い悪い」

那岐からの説明でこの意識を失っていた時の話を聞いて色々驚くばかりだが…

【キャラインストール】解除

神様から普段の自分に戻る。

「それが兄貴のスキルなのか？」

「まあな…ってこんなところで雑談するのもマズイからなくさつさと帰るぞ」

「うん」

随分と昔みたいな接しかつたになつたな…良かった。

もう魔力が底をついてるのでアイテムボックスから魔石を出して左手で持ち、魔力の代替品として利用する。

普段、ここまで魔力が枯渇するまでスキルを使った事がなかったから仕方がない。

「ほら手を貸せ」

「え、あ、うん」

那岐の手を取り

【転移】探索者事務所転移門（豆レプ）

転移門に転移する

「えー?!転移も使えるってスゲーよ!!!」

「あくまた説明するからな」

那岐を宥めながら2階に上がると…

安藤さんが出迎えてくれた。

「神宮寺さん！良かった〜心配しましたよ」

「ごめん！ちよつと野暮用でね〜とりあえず、神宮寺と甲斐道那岐の帰還なんで…よろしく〜」

「え?!あ、はい甲斐道さんと言えば…死亡届が出てますので生還として処理しておきますね」

「え?あ、はい!!」

那岐は生きて戻って来た事を実感しているようだった。
にしても死亡届?…あくアイツか…後で調べないと…にしてももう限界だな

「じゃあ安藤さん、お先ね〜身体が限界なんで…」

「はい次回にでも…お疲れ様でした!」

「行くぞ」

「うん」

階段を降りながら…

一度落ち着いて話がしたいと那岐からの提案を承諾して明日の昼前に会いに行く事に…

「じゃあなくまた明日」

「うんお疲れ…兄貴！また明日」

那岐は歩いて、俺は転移でそれぞれ帰宅していった。

風呂に入ろうかと思ったが気がつけば泥の様にベッドで寝ていた俺だった。

第33話 那美との再会

泥の様に眠り…起きて気が付けば午前10時に差し掛かっていた…
とりあえずシャワーを浴びて軽く朝食を取り、先に探索者事務所に赴くことにした。

【転移】探索者事務所転移門（豆レプ）

2階の事務所に向かうと疲れた顔の安藤さんが出迎えてくれた。

「おはようございます」

「安藤さん…お疲れ様です」

その後のモンスターパレードの顛末を聞いた。

死傷者は20人以上でまだ生還を果たして無い人達も入れると50人以上…原因は不明で現在は探索は禁止して未帰還者の搜索が行われているらしい。

「神宮寺さんが回復を担当していただいた様で、かなり多くの人達が感謝していますよ」

「…」

今回、モンスターパレードに対応した探索者達は死者0で比較的、軽傷の類が多かったのは俺の回復のおかげだと…

もっと早く取得したら効率良くできたのか？

悩んでも仕方がない。

「また後程、功労金が口座に振り込まれますので…」

大した金額では無いらしいがありがたいただく事にする。

「安藤さん…手を」

俺は手を差し出すと…

「へえ?!いえそんな神宮寺さん…いやだ私こんな疲れた顔で恥ずかしい」

何やら勘違いしているようなので…

「あゝすいません回復して差し上げたいので」

「え…あ、ごめんなさい」

俺の手を握ると

【完全回復】

安藤さんの疲労も回復した様で顔も艶々で元気になる。

「うわーありがとうございます」

「お疲れでしょうが、頑張ってくださいね」

そう言つて事務所を後にする。

まだ約束の時間までであるが、そのまま事務所から歩いて那岐達の入る家へ向かう。

確か事務所から歩いて3件目の家だったか？…田舎の更に僻地に近い場所だから1件、1件の間はかなり広くてまあまあ歩いてようやく…

ふとそんな遠くから怒号が届く…

どうやら目的地の家からの様だく嫌な予感がするから隠れて行つてみるか…

【キャラインストール】 汎用黒スーツ

普段の探索者の格好から黒スーツ、白のワイシャツ、黒ネクタイ、黒の革靴とこの辺の田舎には似合わない格好にチェンジする。

この格好はワールドトリガー内にいるB級部隊の二宮隊がこの黒スーツ姿の事もあつて衣装だけアイデアを貰い、ある意味オリジナルコスプレになるがたまに公安の仕事を手伝う際に着るのに便利なので…

ワールドトリガー内のスキルも8個まで装備できるのでカスタマイズできるのが地味に助かる。

【カメレオン】 + 【舞空術】

【カメレオン】はワールドトリガーに出てくるトリガーで姿を透明になつて消えるがレーザーや音、匂いは消せない。

空中から消えて近づくと…

「これ以上、迷惑かけるようなら出て行って貰うからな！いいな!!」
「申し訳ありませんでした」

この家の主人だろう高齢の爺さんって感じなのが、高圧な態度で接している。

那岐ともう1人の女性が那美だろうが…しかし空中から見ても顔色は悪いし全体的に細くて何か病気なのかと心配になる。

更に彼ら姉弟が暮らしてる小屋も窓など付いてはいるが広さが四畳も無いから環境的には最悪なんだろう事は一目で見えてとれる。

俺はアイテムボックスから【スカウター】を取り出して耳に付ける。【スカウター】はドラゴンボールに出てくる惑星戦士が装備する敵の強さを測定する装置

本編では敵の強さ、つまり戦闘力を数値化できる測定機なのだが、こちらののは万能鑑定機で敵の強さや状態、アイテムの鑑定も可能な万能機

普段はレプリカがやってくれてるので、こうやって使う機会があるのだから用意して置くものだとは思う。

それで那美の体調を調べる為、那美をスキャンし始めると1分程で鑑定結果が出た…

なるほどな…この病気に覚えがあるので、すぐに該当する相手に連絡する事にする。

「姉貴すまねー」

「那岐が悪い訳では無いわ…ダンジョンが暫く潜れないのは…私の身体がまともなら那岐1人に…」

「俺、相談しようと思うんだけど兄貴に…兄貴なら頼みを聞いてくれると思うし…」

コンコン

「俺だ」

「え？兄貴か！ちよつと待ってくれ」

ドアを開けると…

「すまん、待てなくて話を聞いてしまった」

「兄貴…」

「アキ…」

「久しぶりだな那美…」

俺はそう言っていると靴を脱いで中に入る。

「少し早く着き過ぎたのかもなく怒る声が聞こえてな…話を聞いてしまった」

「…」

「2人ともうちに来い…今は俺だけの家では無くてパーティーの拠点だけだな」

既に4人で暮らしていて部屋もまだあるし、ここの悪環境な場所よりはな…

「でも迷惑を…」

「ああ…迷惑と思うならその病気を治してからにしろよ…相変わらず融通が利かないな…那美は…」

まあ昔の那美なら遠慮なんてしないのに…それだけ大人になったのか…

「兄貴…治したいんだけど…不治の病なんだぜ」

「あゝ那美の病気はな、簡単に治る病気だ…一般の病院だと治せないがな」

「えっ?!」

2人は目を丸くする。

「そもそも病気でも無い…ただの魔力欠乏症だ」

「魔力欠乏症ってなんだ?」

「那美…お前、ダンジョンに短い時間入った事ないか?」

「え…あゝ確か高校生の頃に確か1分程…」

「それが原因だ…探索者の家族がよくかかるやつでな…」

「兄貴、それはどうやって?」

「探索者のネットに載ってるよろしくかもダンジョンに1時間以上潜れば治る」

「へっ?!」

「と言う訳で那美、これを持ってトリガーONと言いな…」

起動ユニットを目の前に差し出す

「え?何?これ…」

「今の状況よりは良くするものだよ」

「わかったわ…」

俺から起動ユニットを受け取ると

「えーと…トリガーON?」

すると光の粒子に包まれて那美の身体は黒スーツを着た状態へ変化した。

「えーこれって何?どういうこと?」

「それで身体も思う様に動けるはずだ」

俺の言葉を聞いた那美は頷いて立つと、さっきまでの体調不良が嘘の様に身体が動かせる事が分かる。

「え?嘘…全然辛くないし身体が軽い…どうして…」

「その装備は身体が弱くて病弱な人でも、壁を走れるぐらいに元気になる」

そう言うのと壁?、と2人は口が空いて塞がらない状態になる。

ワールドトリガー内で病弱な女性隊員がトリオン戦闘体になると壁は走るわ、射手士の中でも上位にランキングされる活躍をしている。

流石にナイスアクションと言いたいが…

「分かったなら俺の手を握ってくれ、那岐もな!」

那岐にも手を差し出すと、迷う事無く俺の手を握る。

「今から東京、秋葉原に行くぞ!準備はいいか?」

「秋葉原?」「なんでそんなところに?」

「斑鳩ダンジョンは暫く潜れないが、楽に近くのダンジョン行けるのが秋葉原ダンジョンだからか…まあ行けば分かるよ、転移で飛ぶから2人ともいいか?」

2人戸惑いながらも頷く…

よし

【転移】立花杏奈

今は東京秋葉原に訪れてる杏の元へ転移する。

第34話 秋葉原ダンジョン

転移を終えるとそこには…

「カムイさん、お疲れ様!」

相変わらずの格好の杏が立っていた。(リュックを背負って、ミリタリー帽子に伊達メガネ、チェック柄のシャツにジーパン履いてる。いわゆるオタクルック)

「ありがとうな、杏」

「いえいえ秋葉原ダンジョンへの登録もしておきましたから、そのまま入って行っても構いませんよ」

那美の為に登録した仮カードを受け取る。

「あくお二人ともこんにちわ杏と呼んでくださいね」

「はい!俺、甲斐道那岐です」

「姉的那美です」

オドオドしていた2人だったが杏が声をかけてくれたおかげか、挨拶する甲斐道姉弟

「杏く暫く斑鳩ダンジョンは例の事故で潜れないから予定変更、暫くはこっちで遊び惚けても大丈夫だぞ」

「了解!じゃあ私行くね」

「ああ、何かあったら連絡よろしく」

杏は俺達3人に手を振って秋葉原の街に消えていった。

「転移って凄いのねここ秋葉原なの?」

「そうみたいだねく実感湧かないけど…」

那美は初めての転移で驚き、那岐も2回目だがまだ不慣れなようだ。

「さて2人共、いくぞ」

「うん」

2人は戸惑いながら、こうして秋葉原ダンジョンへ

そして目の前に秋葉原ダンジョンとデカイ文字で書かれて、秋葉原と言うだけで萌えなイラストが沢山書かれている。

「斑鳩ダンジョンと大違いだな」

「本当ですね…」

「可愛い〜」

那美はイラストに反応して喜んでる。

「さあいくぞ」

「おお！」

まあ実は東京自体、俺も初めてだし秋葉原なんて、いつかは行きたいと考えてたから…

まあ今日は那美の件があるからまた時間がある時に遊びに来よう…

入り口を降りるとさっきの秋葉原の街中を凝縮したような風景が広がった。

秋葉原探索者現場事務所が1番最初に建物として設置してあって、その後はメイド喫茶などやアニフレンドって言うアニメ、漫画の専門店がある。

ただほぼ一直線上に左右に店があつてそのまま真っ直ぐに進むと

【この下からダンジョン1階】と看板がある。

小さい小屋に守衛室と書かれていて中年の男性が見張っている様で、俺と那岐は探索者カードを見せて、那美は仮カードを見せていよいよダンジョンへ…

しかし下に降りてもダンジョンと言うよりは空があつて遠くに森林地帯が見える…

「え？ここってダンジョンじゃないの？」

「ダンジョンって別の場所にあるのを階段が別の次元に繋がって行けるって話もあるけどまだ判明してないらしいな」

「兄貴！斑鳩ダンジョンでも森林地帯があるのは知ってるけど同じような感じなのか？」

「微妙に違う気がするな…」

まあ同じ風景なら繋がってる可能性もある…訳ないか…

と言うか…ダンジョンなのに何で店があるんだ？

流石にメイド喫茶では無いようだが…

「兄貴くあそこ何の店なんだろ？」

「入ってみるか」

店に入るとショッピングセンターにあるフードコートみたいな雰囲気となっていてそれこそ麺類、バーガー系、和食、洋食と様々な種類が…しかし店員さんは見当たらない。

気になつて2人を先に座つてるように言いカウンターへ行くと店内の扉から、メイド服を着た女性…あれ？男？女装？の人が近付いてきて…

「いらしゃいませ〜ご注文を承りますますわ！」

咄嗟に3人分のバーガーセットと炭酸飲料を頼み

「承りました〜お席でお待ちください〜」

元氣よく準備し始めてる…

5分程待つてると先程の方が3人分のトレイを豪快に両掌にトレイを持ち、トレイとトレイの間にもう一つのトレイを置いて持つてくる。

「お待たせしました〜料金はお帰りの際にお問い合わせします〜」

ささつと去っていく…

扉の前に二体の機械人形と清算する為の機械が設置してあるのに氣付く。

久しぶりにこうやって3人でフードコートで食べてると懐かしく

…

「昔はよく師匠と4人で食べてたな〜」

「…そうだね〜いつも奢らされて嫌だなんて言う割には顔は喜んでたよね」

「だな〜」

「でもなんか信じられないわ…身体がこんなに楽に動かせるなんて〜本当久しぶりな気分よ」

「元の身体もダンジョンに潜つてれば、すぐ回復する」

「そうそう〜それってどう言う事なんだ？兄貴〜」

「一度もダンジョンに入った事のない人が潜ると、m粒子とD―SE EDが同時に身体に入つて、スキルが定着して使えるようになるのが

少し時間がかかる…だがD—SEEDだけ身体に取り入れた人がダンジョンでm粒子を身体に入れると、身体に馴染むまで最速で15分程く30分かまあ人それぞれらしいけど、しかし那美は1分とか3分とか言ってたから、馴染む前にダンジョンを出た可能性が高い…その為、D—SEEDがm粒子を求めて暴れたり暴走したりするそうだし、それが身体の不調の原因だな」

「え？姉貴の身体にそのDの何とかがって種？が悪さしているって事？」

「ああ、身体の免疫機能が働いてアレルギー反応に近い状態を引き起こすらしい…だから簡単に言うとm粒子を求めて…魔力欠乏症になっただけ事だ」

「…」

2人はその話に呆然と聞き驚いてる。

「問題はその種をいつ貰ったのか？だな…実は俺もいつの間にか、その種を身体に宿していたらしく…俺の場合は15分ぐらいで馴染んだのかもしれないな…変な違和感と言うかな…すぐにスキルが発現したらしい…普通の人は同時に取り入れて早くて1日、遅くても1週間迄にはスキルが発現するんだよ」

「えーじゃあ俺もスキル発現してるのかな？」

「後で秋葉原にある探索者事務所で見ればいいよ」
「分かった」

「…」

「大丈夫か那美？」

「あ、うん大丈夫だよ」

バーガーも食べ終わり一息つくくと…

「那美、トリガーOFFって言えば解除されるよ」

「うん分かったわトリガーOFF」

黒スーツから普段着へ戻る。

「姉貴…大丈夫か？」

「うん…さつきと同じくらいか…凄く気分が良いわ」

俺は「スカウター」を再び付けてスキャンする。

「正常になったみたいだなく良かったな那美」

「ありがとう：アキ：那岐も心配かけてゴメンね」

那美の久しぶりの泣き顔を見て安心する。

「姉貴：良かった」

那岐も：嬉し泣きだな

俺も泣く：

こうして那美の身体は正常になった：

第35話 幼馴染達は再び歩き出す

3人で喜んで落ち着いた頃…

「そういえば気になったんだけど…あの人はここで何やってるのかしら?」

見るとモデルかと思間違いそうな綺麗な女性と大勢のカメラを持った男性達が移動していた。

「あれはもしかして…ポートルート撮影会かな?」

「それって何なの?」

「簡単に言うとモデルを撮影する…まあ写真を撮るテクニクで綺麗な写真を撮る事に命を燃やす…人達かな?」

「?」

2人はイマイチ分からない様子だが…

ポートルートは人物を被写体とした写真や肖像画を意味して、SNなどで「ポトレ」と略され、ポトレモデル・コスプレポトレ撮影などと使われている。

ポートルート写真は通常一眼レフカメラで撮影され、様々なポーズや角度で撮影され本人に合った1枚を探します。通常、被写体にピントを合わせて背景をぼかして撮影されることが多い…

「そういえばアレも撮影会かな?」

見ると原神のコスプレイヤーが様々なキャラにコスプレして3人ぐらいのカメラを持った人達がレフ板(光を反射する板)やライトなどで撮影している。

「あれはコスプレの併せかもなく原神っていうゲームのキャラクターのコスプレをして撮影してるから…にしてもここ本当にダンジョンなのか?」

気になってスマホで「秋葉原ダンジョン 撮影会」と検索するとポトレ、コス併せ募集だったり載って結構人気のスポットらしい…しかも秋葉原ダンジョン1階は敵性存在が出ないらしく2階から危

険地帯らしく2階に行ける階段付近には探索者専門の事務所が置いてある。

「ちよつと1階にある事務所に行くか〜ついでに測定しよう」

「分かったわ」「了解」

少し歩くと目的の事務所があつたので扉を開けると斑鳩ダンジョンにある事務所みたいな構成のレイアウトになっていた。

俺達3人が事務所に入ると

「いらつしやいませ〜何かこちらの事務所に御用でしょうか？」

受付嬢だが恰好が探索者の恰好なのでダンジョンなんだなと認識する。

「すいません、この2人の測定をしたいので端末借りて良いですか？」

「はい〜そちらのフリースペースをご利用ください」

俺達は空いてる端末で2人にカードをリーダー（読み取り機）に載せるように言う。

「まずは那岐か」

甲斐道那岐 職業：???Lv01

武器：なし

防具：なし

スキル：夢双一刀流拳術Lv03

異常生命体

うん？職業が??だが何よりも異常生命体???

何だこのスキル…

「なあ〜那岐つて端末でステータスつて見た事あるのか？」

「探索者登録の時には見たけど…最近はやポーターになってからは見てないよ」

「じゃあこの職業は前からこんな状態だったのか？」

モニターに映る職業を指差して聞く。

「いや…確か前は拳闘士だったよ…って異常生命体って何？」

そう思いクリックしたが「error」の表示…

これは登録されていない表示…つまり那岐だけのスキル？

詳しく知るには俺が最初にしたように特殊な装置で測らないとい

けない…

しかしここには無いだろうとは思ってから後回し…

「多分ここでは分からないから又にしよう…那美のカードを貸して」
今度は那美の仮カードをリーダーに載せて調べてみると…

甲斐道那美

職業：???Lv01

武器：なし

防具：なし

スキル：夢双一刀流槍術：Lv05

夢双一刀流拳術：Lv04

夢双一刀流刀術：Lv02

特異生命体

那岐と同じ?しかも今度は特異生命体???何だ…

「なあ那美はこれ見ても分からないよな?」

「…うん」

ですよね…

でも槍と刀、拳はうちの流派だな…当然、特異生命体をクリックしても【error】

どのみち地上の施設でないと詳しい内容が分からないかもな…

「とりあえず戻ろうか…目的は達したし…」

2人が頷くと事務員さんに挨拶してから外に出て人目のないところ…

【転移】甲斐道の家（豆レプ）

那美達の小屋に着く…

「便利ね…転移って」

「まあね…それよりどうする俺の家に来るなら、ここの爺さんに一言言っておかないといけないのか?」

ちよつと難しい顔をしたが那美は

「それは私が言うから…家は昔と変わらない場所にあるんでしょう?」

「ああ…」

幼馴染なら来れない事もないからな

「今日にはアキの家にお邪魔するわ…だからここは任せて」

「姉貴…」

「分かったく豆レプく」

呼ぶと部屋の隅に隠れていた豆レプが俺の手元に帰ってきた。

「これ渡しとくくこいつに話しかければ俺との通信も可能だから」

那美に渡す。

「分かったわ…ありがとうアキ」

那美は受け取ると…

「可愛いねく豆レプっていうの？」

「ああく本体は今は仕事でいないからまた紹介するよ」

「兄貴…」

「じゃあ手助けが欲しかったら遠慮なく言えよ…あとこれは交通費」

そういうと那岐に渡す。

「すまねー」

「じゃあまたあとで」

俺はその場で転移した。

【転移】家の玄関（豆レプ）

玄関に着くととりあえず、今後の事を考えて荷物置き場にしてる部屋を片付け始める。

ピンポン

3時間後、玄関のチャイムが鳴る。

玄関を開けると…

「兄貴…よろしくお願ひしますー！」

「お邪魔しますくアキ…暫くよろしくね！」

「ああく2人とも…おかえり…」

「ただいま」

再び幼馴染としての時間が始まる。

第36話 秋葉原ダンジョンのオーク狩り

2人には部屋に案内して落ち着いた頃に夕食作って…3人で楽しく食べてから食後に俺のスキルを説明した。

スマホを覗くと…

コスプレイヤーフレンド

- ・立花杏奈〈雪音クリス、雨取千佳、汎用黒スーツ〉●●●貸出
- ・鈴見華鈴〈天羽奏、小南桐絵、汎用黒スーツ〉●●●貸出
- ・冥耶・H〈風鳴翼、烏丸京介、汎用黒スーツ〉●●●貸出
- ・菅生アキラ〈汎用黒スーツ〉●●●貸出
- ・八賀裏ルリ〈汎用黒スーツ〉●●●貸出
- ・巻島悠一朗〈貸出可〉
- ・甲斐道那美〈貸出可〉
- ・甲斐道那岐〈貸出可〉

「さてこれで貸す事が可能になったから…何のコスプレをしたい？」

「俺はドラゴンボールの…トランクスがしたい！」

「私は…ってか最近のアニメ、漫画分らないよ…」

と言う事でアニメ、漫画、ゲームを時間の許す限り…

そしてあれから3日…

仲間はまだ戻ってこない…

斑鳩ダンジョンはまだ立入禁止なので、秋葉原ダンジョンに3人で行く事になった。

秋葉原ダンジョンは既に全10階まででクリアしている為、今ではオタク系探索者達が活動していると言う話は聞いてるので気楽に潜れる。

秋葉原ダンジョン3階にて…

『那岐…そっちへ行ったわよ！』

内部通信で那岐に注意する那美は敵と接敵している…

相手はオーク…

10階の2〜4階まではノーマル種、5〜7階まではブロンズ種、

8〜10階までシルバー種で10階の階層主であるボスはゴールド種だったらしいが現在はシルバー種のオークロードらしい：

何故、秋葉原ダンジョンの敵性がオークしかないのは不明だが女性探索者には不評な存在で、なんせ女性探索者と知るとオーク達が群がって襲ってくる事で有名。

実際に女性探索者がオーク達に捕まって救出隊が救出しに行ったが：生きてはいたが酷い性暴行でボロボロになるとの事、ちなみに男性は殺されて食べられたりと食料として見られているらしい：

『OK!!』

棍棒を持って襲い掛かってくるオークに対して

【パワーバレット】

バシユーン！

《ブゴー!?!》

手からエネルギー弾を放つと顔に食らって仰け反るオークに

【アクセルパンチ】

「オラーよ！」

ドゴン！

右拳を思いつきり腹に叩きこむ！

《グボーツホー》

【バーストバレット】

腹を押さえて頭が下がったオークに両手で連続エネルギー弾を叩き込む！

「くらえ！」

バシユバシユバシユバシユバシユ!!!

《ブゴゴゴゴゴゴゴゴゴ》

顔に胸に腹に連続にエネルギー弾を叩き込まれながら消滅する
オーク：

《ブゴー!!!》

オークが棍棒を上から振り上げて叩き込み

那美はゴツ！と腕に振り落とされるが、メリツと音がして靴が下の

地面に沈み込む。

しかしガードした左腕が痛くないのか？平気な顔をしてスキルを発動させる。

「アクセルキック」

ベツチーン！

《ボゴオオオ》

そのまま右足のハイキックで蹴り回して、頭にドゴンと当たると吹っ飛んでいくオーク

「バーストバレット」

吹っ飛んだオークへ、とどめとばかりに連続エネルギー弾を放つ！
バシユバシユバシユバシユバシユ!!

あつという間に消滅していくオーク

あとには魔石が転がっているだけ…

「ふう〜この身体、ヤバいわね…全然、痛くないわ、寧ろ武器が折れるわ」

金髪のアートヘアで切れ長のツリ目から青い瞳が覗かせている…デニムの袖だけ切った上着にデニムのスカートで黒いタイツにブーツを履いた格好は…

人造人間18号のコスプレをした那美

「本当だね…しかもこれだけ戦っても疲れないのは異常だよ」

切れ長のツリ目と黒のアートヘア、衣装は白と黒のTシャツの重ね着で、首にオレンジのバンダナを巻いているシャープで中性的な顔立ちの青年…

人造人間17号のコスプレした那岐

2人はドラゴンボールに出てくる人造人間18号と17号のコスプレで秋葉原ダンジョンを探索中…

ちょうどコスプレしようと衣装も揃えてたし、勿論着る予定だった華鈴達には話を通して許可も貰ったし…

俺はそんな2人の援護を2人でしていた。

ドラゴンボールのクリリンと魔法科高校の劣等生の司波達也の2人…

この2人は神宮寺彰人でピッコロ大魔王のスキル【分身】を使っている為、2人に分身してその分身してる彰人がそれぞれキャラクターンスツールしている。

分身のデメリットはステータスの能力は全て半分になりレベルも半分、生命力、精神力も半分になりキャラも同時に同じ者にはなれない。

スキルもキャラクターンスツールしているキャラのしか使えないが、それはデメリットとは言えないかもしれない。

メリットはもし片方のどちらかがやられてもレベル、経験値、記憶は失わず元に戻る（ただし生命力、精神力は半分に減ったまま）

「2人共、大分慣れたみたいだなくにしても、那美は流石に避けるよ〜見てるこつちがヒヤヒヤするよ〜」

最初のオークとの戦闘の際、那美は昔の組手のように動けず思いつきり棍棒でぶん殴られたんだが：棍棒の方が粉碎してしまいくしかりそれで吹っ切れたのか：昔のような喧嘩殺法で戦える様になったので安心してたが：

「あはは〜つい漫画みたいな感じな事やってみたくて〜今度は避けるからゴメン！〜」

那美は人造人間18号のコスプレしたまま、舌を出して照れ笑います。

ドキッ!?

え?!〜俺：人造人間18号萌えでは無いのに〜すんごく可愛い〜見えた!?

いや嫌いではないし〜クリリンとの夫婦コンビが好きだから：よし後でクリリンと人造人間18号でコスプレ自撮りするか〜（後で同人誌も探そう〜秋葉原だし）

「にしてもクリリンとイケメンが同時に兄貴と同じ声で喋るの、凄く違和感と言うか不思議だな〜」

那岐は不思議そうに俺との会話に違和感を感じているようだ。

そんな事を喋りながら、まだまだ潜る3人だった：

人造人間18号

Ger o 戦闘プログラム Lv03 (☆永久炉ユニット) ●貸出

☆パワーバレット、☆アクセルキック、☆バーストバレット

(☆マリオネット17号、〈未〉■)

人造人間17号

Ger o 戦闘プログラム Lv03 (☆永久炉ユニット) ●貸出

☆パワーバレット、☆アクセルパンチ、☆バーストバレット

(☆マリオネット18号、〈未〉■)

司波達也

魔法士 Lv03 (封■)

魔力弾、神霊の目、瞬間記憶

(銃型発動体×2、軍用ボディアーマー〈未〉■)

クリリン

亀仙流拳術 Lv05

気配(完全遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾(追尾弾)、気円

斬(連斬)

(〈未〉■)

第37話 オークとの激突

3階を抜け4階へ：

職業レベルとスキルレベルは順調に上がり続けている。

オークのノーマル種のいる最後の階：レベル的には10前後：

しかし：

『姉貴ー！』

バチーン！

《ゴボー》

オークを蹴って姉貴に送る！

【アクセルキック】

『ドリヤー!!』

ドゴーン!!

慣れて来たのか明らかにパワーが違う蹴りで那岐に返す！

【アクセルパンチ】

『はあー！』

右腕にパワーを上げて腹に減り込ます：

《グボ》

お腹を抱えたオークの元を、すぐにバックステップをして

【パワーバレット】×2

那美と那岐が並び立ちエネルギー弾を、同時に放つと合体して大きなエネルギー弾になって直撃!!

威力がデカ過ぎなのか？即消滅して魔石が転がる：

「2人共！こっちに誘導したぞ!!撃てー」

俺はクリリンと達也で、敵を誘導して一纏めに集めて叫ぶ！

【バーストバレット】×2

同じく並んで2人で両手から連続でエネルギー弾を放つ!!

バシユバシユバシユバシユバシユ×2!!!

纏まってた5匹程のオーク達にエネルギー弾の雨：豪雨か嵐のよ
うに吹き荒れる。

《ブヒー!?!》×5

どんどん消滅するオーク達…5個の魔石が転がる…

「イエー」×2とお互いの手を叩き合う

流石、姉弟だな息ピッタリだな

まだ那美達のレベル低いはずなのに4階層のオーク相手は既に雑魚と化していた…

5階に行くか？

それとも、もう2つ戦闘してから行くか？

「2人共、疲れて…はいないか？」

「疲れてないよ」

人造人間17号、18号は永久炉ユニットのおかげで、人間で言う気であるエネルギーが途切れない為、疲れずスタミナも切れず動き続ける事が可能。

反重力装置もあるので空も飛べ、機械のエネルギーである為、気がない、つまり気配が無いので一部感知系に引っかけられない利点もある。

しかもエネルギーが途切れないので攻撃力、防御力が衰えないので頑強な身体を維持できる。欠点らしい欠点が無い人造人間である。

勿論、スキルなので本当に永久炉が組み込まれてる訳でないが長時間戦闘の際、有効な力ではあるが…残念ながらこの永久炉ユニットは人造人間でキャラインストールしてないと使用できない。

「朝から入ってお昼も過ぎて時間的にはまだ帰る時間でも無いけど…どうする？」

2人に聞く…初めてのダンジョンで普通なら疲労が見えてもおかしくないが人造人間のコスプレで疲れ知らずな為、一応確認する。

「まだ俺はいけるっすよ…ってか楽しい!!」

那岐はテンションMAXの様で嬉しいらしい…以前、探索者として挫折してサポーターをやっていたからか、その鬱憤を吐き出している様に見える。

「私もようやく分かってきたから、まだ全然いけるよ!」

那美も那岐と同様、病気で長く辛い目にあってきたから、今動ける

事が楽しくて仕方がないようだ：

「よし分かった：いけるところまで行くか！」

その後、3戦程戦って：5階への階段が目の前に：

「じゃあ5階行くか」

「了解」

4人でゆっくり降りていく：

1階は森林地帯、2～4階までは岩石地帯、5階から人口の壁面で如何にもダンジョンって雰囲気。

進んでいくと右へ曲がる角に辿り着く

【気配】 発動

「2人とも敵がいる：気をつけろよ」

クリリンのスキル【気配】で敵を感知！警告する。

「了解」

那美と那岐の2人が前に出る。

『行くよ』

『はいな〜』

2人で角に突っ込んでいく

「げ!？」

2人の声が重なる！

「どうした？」

俺達も同じ様に突っ込むと：

オークが探索者と思われる人達を蹂躪していた：

辺り一面、血だらけで臓物も手や足も人間と思しき身体がバラバラになって撒き散らかせてあり、まるで遊びの延長の様に死体を踏みつけ：腕の様なものだった、肉片を食べていた。

「お前ら!!!」

ドカン×2

《ブオ?!》×2

那美、那岐は走ってそのまま飛び蹴りを食らわして2体のオークを吹っ飛ばす！

5階からブロンズ種のオークが現れるが「スカウター」を装備した

司波達也で調べると特に職業も無いブロンズ種のオークの様だ…

那美と那岐は3体相手に互角以上の戦いで押し捲っていた。

暫く戦いは彼らに任せ、俺（クリリン）には援護させ、俺は探索者だったモノを調べる。

4人？5人だと思われる探索者達…1人も生存してそうも無い状況…

とりあえずカードと分かる私物と思われる範囲内の荷物をアイテムボックスへ収納して…

俺は「スカウター」で他に生存者がいないか探る。

：

：

：

：

パイパイ！

いた！

1人、オークとは違う個体を感知した！

「ここは3人に任せるぞ！」

「OK」

俺はスカウターが感知した座標へ向かう。

そこには…

服をビリビリに破られた女性が2体のオークの慰みものにされていた現場だった…既に抵抗も無くされるがままっていった感じ…腰を振るのに夢中で俺と言う存在に気が付かないようだった。

二の句が告げないとはこういう事だろう…

エロ同人誌などで女騎士がオークに捕まって「くっ殺」とかで陵辱されるのがあるが…

あれはフィクションだからか…こうやって実際にレイプされてるシーンを、見て怒りが込み上げてきたのは同じ種の人間の女性だからか？

【キャラインストール】 空閑遊真（ブラックトリガー）

司波達也が解除され頭が白い髪、黒いボディスーツを着た空閑遊真に変身した。

空閑遊真のブラックトリガー〈名称不明〉は主人公の使う最強のトリガーで相手の様々な攻撃を〈印〉〈いん〉で学習し、攻撃力を強化したり防御したりと多様な性能でその力を最大7重まで重ねて強化できる（相棒のレプリカがないと4重まで）

【盾〈シールド〉】印〈いん〉三重〈サード〉

そう言うのと突然、オークの身体と女性との間に見えない壁ができたのか触れる事ができなくなった。

オーク共は何が起きたか分からないらしく混乱していた…俺は間髪入れずに！

【強〈ブースト〉】印〈いん〉＋【弾〈バウンド〉】印〈いん〉 四重〈クアドラ〉

背中に強と言う文字が浮かび上がって、目の前には弾と言う魔法陣みたいなのが現れて、俺はそれに乗ると凄い勢いで弾けてオークの方へ加速する。

ドシューーン!!

「死ね！豚野郎!!」

ドゴン!!!!

《ブオー》

俺の飛び蹴りでオークの1匹がそのまま消し飛びんだ！

スタツ！

そのままの勢いで壁に着地しよう1匹のオークを見定めて飛ぶ！

バチーン!!!!

《ブオー…》

再び目の前の1体のオークを回し蹴りで攻撃して同じ様に消し飛んだ…

攻撃力と加速を4重に跳ね上げての攻撃で一瞬にして消滅…俺はすぐにアイテムボックスから昔、着ていたマントを女性に羽織らせると、そのまま抱き上げて仲間の元に走る。

戻るとまだ戦闘中の様だ…

「怪我人がいるからすぐ地上に戻るぞ！みんなの最大の攻撃で吹っ飛ばせ!!」

仲間に指示すると…

「いくぜ！那美、那岐！目を瞑れ!!」

【太陽拳】

ピカッ！

《ゲーヒー？》

俺（クリリン）は敵の前面に立ち、両手を顔の前で広げて前方へ光らせた！

眩しいのかオーク達は目が眩んでるようだ。

光が消えて…

「那美、那岐！ぶっ放せ!!!」

那美と那岐は目を開けて、俺（クリリン）は2人に近づき…

【バーストバレット】×2

バシユバシユバシユバシユバシユ×2!!!!

かめはめめ波】

ドシューーン！

《ギヤーン》×3

那美、那岐とクリリンのエネルギー波で穴だらけになり消し炭になった様だが…だが、まだ死んで無いオーク達…

だが、その間に…

【キャラインストール】孫悟空

俺はキャラ変更して

「みんな掴まれ」

那美、那岐と俺（クリリン）が俺に掴みにくる…

【転移】秋葉原事務所転移門（豆レプ）

そしてオーク達を残して、俺達5人はその場から消え去った。

ブラックトリガー：〈名称不明〉

印：現在4重限定（レプリカ装備で7重強化可能）

☆弾、☆強、☆盾、☆鎖、☆響、☆門、☆錨、☆射、☆斬

〈☆トリオン戦闘体（BT）〉

第38話 帰宅する仲間達

俺達は秋葉原事務所の転移門へ姿を現わすと、那岐は事務所へ、俺は分身を解いて女性に「完全回復」をしてから那美に女性に付いてもらって事務員さんに説明。

すぐに救急車を呼び搬送され、俺は遺品を提出した…

どうやら5人のパーティーで俺達より朝早くに潜っていたらしい

…

その後、事務所にて事情聴取を行い、転移で帰路に着いた。

「おい〜2人とも…寝るなら部屋に戻れよ〜」

那美と那岐はテーブルに頭を載せてグロッキー状態で倒れている。

戻ってきて炭酸飲料を飲んで座ってた2人は、まだコスプレが解除してない事に気がついたので人造人間17号、18号の変身を解いたのだが…

瞬間、電池が切れた人形の様に倒れていた。

「兄貴〜か、身体が…動かな…いっす」

「アキ…身体…動かない…わ…どうして?」

なるほど〜永久炉ユニットで魔力とスタミナが切れ無くても本体の身体は人造人間では無いから解除すると疲れるのね…

今日は本格的な戦闘を長時間、繰り返し続けたからなくそういう意味では肉体的にも精神的に疲れたんだな…それが分かっただけでも良い収穫だったな

「お疲れさん」

【神水雲】

疲労回復と精神力の若干の回復を使う。

テーブルの2人にスキルをかけて白い靄みたいなのが覆うと多少回復したのか顔が起き上がった。

「お、動ける〜!」

那岐は回復したのか身体を起こしたが那美だけ、まだ動けないでい

た。

「那岐くシャワーでも浴びてこい」

「ほくい」

さつさと風呂場に向かう。

さて夕飯の準備でもするかな…

那美は多少回復したがそのまま眠ったのでシーツを肩からかけておく…

キッチンに入って料理をしていると…

ピンポン！

俺は火を止めて玄関に行く…

華鈴と冥耶の2人が荷物を持って帰ってきた。

「ただいま!!」

「おかえり2人ともくまだ向こうにいますと思ってたよ」

ほぼ1週間振りかな？

「華鈴がストレスマツハ！なんで、すぐ迎えに来てって連絡が…」

「そうなのよ！」

あ…話が長くなるな…これは…

「話は後で聞くから、先に荷物を部屋に置いてくれば？」

「だね」「そうする」

そう言つて2人は荷物を持って2階の部屋へ向かう…

…

…

…

「う…ん…あくれ私、寝てみたい」

顔を上げるとアキ、那岐…あ…この前TV電話でお喋りした…

「那美ちゃんくよろしくね！改めて鈴見華鈴くよろしく」

「冥耶・ハミルトンく冥耶かメイって読んでね」

「甲斐道那美です…ごめんなさい寝起きで…よろしく」

涎が出てないか気になるのか弟にティッシュペーパーを所望する。

「那美、夕飯温めてくるな俺達、先に食べたから」

「アキありがとう」

…

「そう言えば、人造人間18号と17号の動画見たけど凄く良かった
輪郭や顔のパーツが姉弟って感じで、流石く本物、姉弟でのリアル
コスプレだったわ!」

華鈴は興奮気味に称賛するくそれを聞いて照れる那美

「ありがとう」

那美と那岐は照れ捲くる

「そう言えば秋葉原ダンジョン行ってきたのよねくいいなく私達も行
きたい!リーダー、明日行かない?」

華鈴は明日行く気、満々のようだ。

「あれ?なんか秋葉原ダンジョンでパーティー全滅したって探索者
ネットで書いてあったわよく何か知ってる?」

スマホを見ながら冥耶は聞いてくる。

「それはな…説明すると長くなるけど…」

俺は秋葉原ダンジョン5階での出来事を伝える。

「うわくそれは大変だったね…那美ちゃんは大丈夫なの?」

華鈴も冥耶も明日は我が身とばかりにゾットして…自分が、もし
もと思ったらしい

「うん、大丈夫よ…どのみち色々やるにしてもお金が必要だし…今は
探索者でお金を稼いで那岐と学校行こうか?とかも話し合ってるの
よ」

「いや…俺は学校は別に…」

那岐は高校には興味が無い様だ。

「えく行こうよ、那岐は高校生になって私は大検受けるから」

那美は本気のようだ。

「探索者は高校でもできるし、専門の高校の学校だってあるからな」
俺是那岐にそう説明するが…

「いや…探索者として頑張るよくせっかく兄貴から借りてる力もある
し…」

那岐の意志は固いようだった。

「まあ学校の勉強はいつか自分で習いたい時に習えばいいさ〜それを決めるのは自分だし…」

ピロン!

メールが届く…俺と華鈴、冥耶に…

お互いにメールを開くと…

『斑鳩ダンジョン、明日より解禁!』

「どうやら斑鳩ダンジョン入れそうだな」

「どうするリーダー?」

華鈴が聞いてくる。

「杏がまだ戻ってこないから12階層はどうかな?」

杏とレプリカが戻ってから再開しようかと思ってたから…

それに…

「明日は携帯ショップ行って那美達にスマホを用意したいし、探索者事務所で登録してないからステータス見れないしな」

「なら17号、18号貸して〜明日、冥耶と潜る!」

「那美達はそれでもいいか?」

「え!?貸し借りできるの?」

那美達は不思議そうに聞いてくる。

「スマホのアプリでな…ステータス画面で弄られるよ〜2人ともいいか?」

那美達はOKとの返事なので、華鈴と冥耶へ移す…

「じゃあ明日は特には予定無しで合流できれば…」

4人はそれぞれ了承する

こうして明日の予定が決まる。

だけど夜遅くまで様々な話題で5人の夜は更けていく…

第39話 ダンジョンはそう上手くはいかない

斑鳩ダンジョン10階層は階層主である、ゴブリンキングを倒すと11階層への階段へ行けるようになっていて、つまり那美と那岐はゴブリンキングを1度は倒さないと11階層へ行けない。

更にパーティーで11階層で活動する為には、現在F級からD級へ上げないといけない訳で…

午前中に携帯ショップでスマホを購入（秋葉原ダンジョンで稼いだお金で購入）その後、斑鳩ダンジョンの探索者事務所でスマホのアプリと登録。

E級試験を受けて2階層で『ソロでゴ布林種を10匹討伐』に励んでいる那岐と那美

ズバ！ズバ！ズバ！ズバシューー！

青いドレスに白銀の甲冑を纏って金髪翠眼の剣士がゴ布林達を一刀の元に切り裂く！

声も出せず魔石となって散っていくゴ布林達…

後ろで見守ってるけど、俺いなくても大丈夫だろうぐらいには安心して見ていられる。

次から次に襲い掛かってくるが…
相手にならないとはこういう事だろう。

結局、全部で15体は倒しただろうからクエストは十分にクリアしているが、本人に任せてるから後ろから司波達也の軍用ボディスーツを着て、見守るだけになってしまった。（基本ソロだから当たり前）

「終わりか…10体だったかな？アキ、もう十分倒したかな？」

「ああ〜援護もするつもりなかったが…クエストは終わってるだろう」

「事務所に戻ろうよ」

「ああ…那岐も終わってるだろうから戻ろう」

今日人造人間18号は華鈴に貸出してるから新しいコスプレで戦ってる。

Fateシリーズのヒロインの1人、セイバーのコスプレ

聖剣で鎧は青い服に銀の鎧が映えるしデザインの素晴らしさは流石、Fateシリーズだと感心する。

「どうだセイバーで戦ってみて?」

「剣が踊るとはこう言うことを言うのかな?…剣の舞をしてる不思議な気分だった」

「まあ剣聖のスキル付きだからゴブリンでは役不足だろうなく」

【剣聖】 剣のスキルにボーナス付与だから剣スキル無くても達人以上なんだろうなくなんせ剣の英霊だし…ただ…

【キャラインストール】 解除

まだコスプレに慣れてないのか、まだ恥ずかしいらしく…

人造人間18号は意外と普段着の延長で着けていても違和感が無いらしいが、セイバーはコスプレを凄く意識するらしい。

事務所前で那岐が待っていた…もう1人の俺(クリリン)と…

「2人とも遅いよ」

那岐は結構な時間待っていたようだ…

「すまん」 「ごめんね」

事務所に上がり受付の安藤さんに報告し、次はD級試験を受ける。

那岐は隣で別の受付で対応している

「本当はこんなスピードで駆け抜ける人って滅茶苦茶少ないんですけどね…」

まあ本来は、最初はソロでゆっくり成長してからクリアしていくものだからな。

「では次はD級ですね、ホブゴブリン10体ですね…頑張つて…はいらないですかね?」

「頑張ります」

那美は気合を入れて立ち上がる

3階層…

ホブゴブリンが対象だが…何故かゴブリン・ロード、アーチャーやシャーマンばかりでホブゴブリンがない。

俺もクリリンで気配を探ったり達也でスカウターを使用して探ってるが…

「いないね…1匹も…」

まだホブゴブリンと接敵すらしてない…那岐とは離れてるが同じ階層なら俺自身の意思の疎通が可能な為、向こうも1匹倒しただけの話…

そこで那岐チームは3階層を探る事にして那美チームは4階層に潜る事に…

「兄貴…やはりいないっすか？」

ドラゴンボールのトランクス姿で俺（クリリン）に聞いてくる。

「ん〜普段は大体ゴブリン連中の中に2匹ぐらいはいるんだが…」

今日、D級試験を受けてるのは那美と那岐しかいないから偏るはずは無いんだが…

気配にかかって行けば普通のゴブリン達…ホブゴブリンは1匹倒しただけで他はいない。

「4階層に行くか？」

4階層はゴブリンとオーガが混合してる為、3階層で粘るよりは早いかも知れない。

「姉貴の方は聞けません？」

「階層が違うと俺とも繋がらないからなくメールしても返信無いわ」

まだモンパレの影響で通信施設の復旧はまだらしい…

レプリカがいれば楽なんだが…こんなに苦労するとは思わなかった。

「兄貴…もう一回りしていなかったら、下行きましょう」

「分かった！」

その頃、4階層の那美チームの方は…

「もう鬱陶しい!!」

ズバ！ズバ!!ズバ!!!

4階層はゴブリン、オーガが混合している筈だが…何故かゴブリンとホブゴブリンの群れが波の様に押し寄せてきた…

最初はソロでホブゴブリン倒さないといけない為、控えていたがその群れの波は常軌を逸していた。

スカウターでレベルを測ると低い奴からこの階層ではないレベルの高いゴブリン達もいて一部ブロンズ種も混ざってるかも？

【キャラインストール】 孫悟空

司波達也から孫悟空へ変身！

魔力弾しか攻撃手段が無い為、支援、援護には向いているがまだレベルが低い為、いつでも離脱できる様に孫悟空へ変わる。

【かめはめ波】

ドシユーン!!

後続に向けて放つ！

ゴブリン達が消し飛び魔石が変わるが拾う時間も無い!!

【魔風結界】

ゴウー！

「はあー！」

聖剣カリバーンに風の魔力を付与して剣の刀身が見えなくなる。本来は剣の長さを隠す為のスキルだが風の結界に触れただけで肉はズタズタになり吹っ飛ぶ程の風を纏う。

それでもゴブリン達は我を失っているのか恐怖が無いのか？

階層ごとのモンスターの配置が変わってるな…まあ高レベルでの調査なんて同じゴブリンでもノーマルとブロンズも変わらんしな…まだ正常では無いのだろう斑鳩ダンジョンは…

ダンジョンに正常も異常無いか？

目に見えて那美の動きが鈍くなってきた。

多分魔力切れ寸前って感じだ…俺もあと一回、転移分しか無いからまた魔石に頼るしか無いな…

限界だな…

「那美逃げるぞー！」

【転移】斑鳩事務所転移門（豆レプ）

「え?!」

驚く那美だが、俺達はその場から瞬間、掻き消える…

セイバー

☆剣の英霊 Lv02 (剣聖) ●貸出

☆直感、☆魔風結界

(カリバーン、聖銀の鎧、封へ■)

トランクス

魔王闘術 Lv03 (希望) ●貸出

気配、闘気弾 (連続)、爆炎闘気弾

(Z剣、へ未) ■、超万能薬、ポイポケット、)

司波達也

☆魔法士 Lv03 (封■)

☆魔力弾、☆神霊の目、☆瞬間記憶

(銃型発動体×2、軍用ボディアーマーへ未) ■)

クリリン

亀流拳術 Lv06

気配 (遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾 (追尾弾)、

気円斬 (連斬)、かめはめ波

(へ未) ■)

第40話 フルメンバー

2体のゴブリンと3体のホブゴブリンが襲い掛かってくる。バックステップしながら気を溜める訳でもなく、手を複雑な模様でも描くかの様に両手を動かして、その両手を目の前に突き出し、親指と人差し指同士を両手でくっつけた空間から高出力のエネルギー弾が放たれる。

【爆炎闘気弾】

「はあああー!」

放たれた光弾はゴブリン達に炸裂する

ドゴーン!

《ギャー》×5

ゴブリン達が怯んでる隙に、背中からZ剣を抜き放ち走りながら上段から、1体

下段で振り上げ、2体

かえす刀で中段で、3体

剣の勢いのまま上段に構えて身体ごと回転して、4体
突きで口に刺して、5体目にトドメを刺す…

トランクス：漫画ドラゴンボールに出てくるベジータとブルマの息子くタイムマシンで未来から人造人間を倒せる方法を探しに過去へ来た青年。服装は黒のタンクトップと長ズボン、左袖にカプセルコーポレーションのマークの入った青いジャケツトを着用。背中には剣を装備して剣での戦いや格闘で戦うスタイル
「兄貴、切りが無いよ！何でこんなにゴブリンとホブゴブリンがいるんだよ!」

隣で戦いながら、兄貴（クリリン）に聞く。

「やはり、孫悟空使ってるな…向こうも何かあったみたいだな」

孫悟空へキヤラインストールを行おうとして拒否されてるのでダンジョンを脱出したのかもしれない。

「もう少し下がるぞ、踏ん張れよ!」

「ああ、分かってるって!」

別のキャラへ変更するか？連続戦闘し続けて30分は経ってるし、まだ那岐の力だときついかな…にしてもこの異常な数とレベルのチグハグさは何だ？

やはりまだ斑鳩ダンジョンは正常ではないのか？

この前のダンパレ（ダンジョンパレード）以後、モンスターの生息圏が変わったのかもな…

ん？

いける！

【キャラインストール】孫悟空

「那岐戻るぞー」

那岐の肩に触る…

【転移】斑鳩事務所転移門（豆レプ）

転移門に転移すると…

「アキ、那岐お疲れ」

那美と俺が待っていた。

みんなコスプレを解除し元に戻る、俺も分身を解いて元の1人に戻った。

事務所2階に上がると、華鈴と冥耶の2人が受付で安藤さんと話をしていた。

「華鈴、冥耶お疲れ」

「リーダー達、乙く聞いてよ！9階層、酷かったのよ」

話を聞くと華鈴達も同じような状況らしかった

「こっちは9階層のサーベルタイガーを狩ろうと思ったんだけど全然いなくて…フォレストタイガーばかりで狩りにならなかった…アイツら身体デカいし生命力も強いから効率悪くて…」

3体倒して諦めたとの事…

「やはりまだ異常状態が続いてるんですかね…本部と話したんですが正常化するまで1〜9階層までは、少し待つしか無いそうです」

安藤さんも各階層の異常事態の報告を受けてて、他の受付にも探索者達からの報告を受けてるみたいだった。

「10階層以降は特に報告が無いのでモンパレの影響でしょうね…各探索者に警告しておきますね…報告ありがとうございます」

那美、那岐はカードを渡してチェックしてもらい

「はいソロでホブゴブリン10体討伐確認しましたので…」

こうして2人は、D級に昇格した。

流星に今から10階層のゴブリンキングを倒しに行くのは、自殺行為だろうからフルメンバーにしてから12階層に行く前に行くしかないな。

5人で転移で家に戻ると…

玄関に転移すると居間の方で人の気配が…

「おかえり〜」

杏が居間で寛いでいた。

「ただいま〜杏、久しぶり」

華鈴と冥耶が杏に抱き着く

「あ、杏さんこの前はありがとうございます」

那美と那岐も杏に挨拶する。

「わ〜い、久しぶりと言う程では無いけどよろしくね」

俺も挨拶後、台所でお茶の用意をして居間に運び、お茶を配りながら杏に進捗を聞く。

「で〜どこまで行った?」

「そうね〜北は北海道、南は沖縄、大阪、京都、福島、青森、兵庫、岡山などまあ流星に全部の県は回らなかつたけど大概のダンジョンの転移門には豆レプちゃん設置してきたよ。」

杏には結婚式の後、いくつかの県に回って豆レプを置いてきてもらう仕事してもらった。

最初は東京だけだったんだが杏が日本中、回ってくるとか言い始めて…なら次いでに…ってのが回るだけ回る旅になった(その間、杏チャンネルもしながらの旅だった模様)

「さて、これでフルメンバーだな〜」

後はレプリカが戻ってくれば…

本当のフルメンバーだが…

トランクス

魔王闘術

Lv04 (希望) ●貸出

闘気弾 (連続)、千撃斬、爆炎闘気弾、千撃斬

(Z剣、(未)超万能薬、ポイポケット、■)

クリリン

亀流拳術

Lv06

気配 (完全遮断)、太陽拳、舞空術、拡散双気弾 (追尾弾)、

気円斬 (連斬)、かめはめ波

(〈未〉■)

人造人間18号

Ger o 戦闘プログラム Lv05 (☆永久炉ユニット) ●貸出

☆パワーバレット、☆アクセルキック、☆バーストバレット、

☆気円斬 (連斬)、☆ユニゾンダンス

(☆マリオネット17号、〈未〉■)

人造人間17号

Ger o 戦闘プログラム Lv05 (☆永久炉ユニット) ●貸出

☆パワーバレット、☆アクセルパンチ、☆バーストバレット、

☆フルシールド、☆ユニゾンダンス

(☆マリオネット18号、〈未〉■)

第41話 ある犯罪者たちの結末

…

…

…

え…

ここは…

…

…

「大丈夫？武田文彦さん」

黒髪ロングのポニーテールの黒スーツの女が俺の前に座っている

…

あ、公安？

「え？…あ、あ…」

そうだ俺は捕まったんだった…

「もう一回、頭から言うから良いかな？…」

武田文彦容疑者は、これまでの探索者として活動の際、仲間を事故に見せ掛けて保険金を搾取していた…

その数は54人：探索者、サポーター等…一番古い記録としては北海道ダンジョンのパーティー4人が最初かな？単に自分1人たまたま生き残って、その探索者用保険金を1人で受け取った事がきつかけかしら？…

その後は味を占めて次から次へとパーティーやソロでサポーターとか…あとは保険金の受け取り方法も自分だったり、その時付き合ってる異性などあの手この手で殺しまくって54人…って話だけど、間違いないかしら？」

?!

54人？

31人の間違いだろ？

「い、いや、あんた最初、31人って言って俺を連行しなかったか？」
「あくそうね、最初は31人って言ってたわね…でもね、八賀ちゃん

流して…」

「あいよ」

公安の女の背後のデカイモニターに俺と公安の女がこのテーブルが映されていた。

『ではこれから質問するから答えてね〜本当の事を…』

はい…

まずこれまで何人の人を犠牲にしたのか…数は分かるかしら？

…

…54人

あれ？31人では無いの？

…54人です

では最初に保険金を貰ったのは北海道ダンジョンのパーティーがかけてた保険金かしら？

その通りです

その後は…』

次から次へと俺が真実を話していた。

全てを話し終わると…

「この通り…あなたが証言してる内容に間違いは無いかしら？」

知らない…こんな話をした記憶が無いぞ!?

「で、出鱈目だ!!と言うか!こ、この映像はなんだ?まるで俺が喋ってるみたいじゃないか!」

「そうよ…あなたが詳細に話してくれたわ…だから54人は私も想定外だったわ」

嘘だ!あれは俺か?なんで喋ってるんだ?

スキルか?

「スキルか?スキルだな?!そうだろ!!」

「そうね、スキルよ…あなたにスキルをかけて喋らせたわ」

「そんなの違法だ!そんなのは証拠にならないぞ!!卑怯者!!」

「面白い事、言うわね〜武田容疑者…確かに一般人相手には適用されないわ〜でも…あなたは一般人では無いのよね…探索者よ」

「だからなんだ!?!」

「探索者には一般人の様な裁判や刑法は無いのよ…あるのは殺処分か刑に服すのみ…そしてそれを決めるのは私達、監視裁判官、監裁官の判断のみよ」

「あ…」

「正直、私は処分の方を選びたいわ…31人でも許せないのに54人だなんて…この映像を撮っているのは、あくまでも処分する正当性の証明の為よ」

ば、バカな死ぬのか？俺は殺処分なのか…

「あと、さっきの証言にあった、あなたの隠し金は今、部下が取りに行ってるわ…あなたの証言通りなら金額的には遺族に支払うには少ないわね…だからこれはあなたのこれからの態度次第で変わるわ」

隠し金か…ちっ…しかしなんだ？態度？

「処分か、刑務所か、首に縄を付けた制限付きの探索者としての活動か…どれにしようかしら？」

「探索者？どう言う事だ？」

「だからあなたには探索者としてお金を稼いで遺族達に支払う事であなかに罪を償わせる…その方が処分よりは良いと思ってるね」

この女！正気か?!

「勿論、1週間に1回はあなたの素行のチェックをしてもらおうわ」

何が狙いだ…この女？

「ん？何か気に入らないのかしら？」

少し圧がかかった気がする…

何を迷う事がある！死刑なんて嫌だし刑務所だつてできれば入りたく無い…なら自ずと決まってるだろう！

「それだけで良いのか？探索者として金稼げば良いのか？」

「そうね…で？どうするの？」

「勿論、探索者だ！それでいいんだろう？」

「ええ…でも次は無いわよ…一もし逃亡を図れば即処分だから…忘れないように」

「分かった」

武田文彦容疑者は部下に連れられていった。

「うまくいったわね」

そう言いながら八賀裏が別室から現れる。

「ええ…隷属の魔眼が上手く機能してるわね…レプ先生のおかげよ」

確かな満足を噛み締めている菅生アキラ

【アキラの協力あつての事だよ…私も良い勉強になった】

そう言うときの中から黒い炊飯器みたいな形状の物体が現れる。

レプリカ：デウス本部跡地や捜査の協力を頼まれ一時的に菅生アキラの部下として派遣されている

「初歩的な事よく人間を強制的に従わせる魔眼は強力ではあるけど永続的に従わせるのは難しい…だって嫌な事は誰だって抵抗するもの…でも選択肢を与えて楽な方へ誘導する事で、自分で暗示をかけてしまふのだから…」

【隷属の魔眼】は彰人から借り受けた黒のゼロのスキル…

強力だが欠点もある事がレプ先生との検証で分かった。

相手を支配して従わせる事は魔眼の力では可能だが、相手が無意識に嫌がる事はどんなに命令をしても最終的には効果が、切れる事が分かった。

だから心理誘導を導入して相手の1番嫌な事を最初に提示して後に、楽な道を示すと自分で自分を暗示にかけてしまう…その心理を利用して魔眼の力を確実なものにする。

武田文彦の場合は死刑と言う1番嫌な事でストレスを与えてから少しずつ楽な方へ選択肢を与える振り…刑務所…そして探索者の復帰…誰だって死刑の次は刑務所と言われれば最後の探索者としての方へ導かれるだろうから…

勿論、逃亡防止用の首輪を付けて刑務専用としての探索者としてダンジョンで働いてもらう。

豆レプを常時監視として付けて置くことも忘れない。

するとコンコンとドアを叩く音が…

「菅生さん…隠し金を発見しました」

黒いバッグを持って現れたのは…

国木田アレク：かつてデウスに所属していた犯罪者だが今は罪執行官として菅生の部下になっている。

「はいはいくじやあ受け取るわ、ご苦労様」

バッグを受け取ると国木田は軽く礼をしてから退室していった。

「大分、彼も安定してるわね」

【魔眼の実験検証者としても、今は安定しているな】

国木田アレクは片腕を欠損後、義手を付けて活動中。

そして長き間、デウスの駒として活動していたが捨て駒にされて殺されるところだったのを初めて自覚してそれ以降、デウスに恨みを持つ者として罪執行官として雇う事にした。

勿論、彼に断ってスキルの実験台になって貰う事を承諾してもらって魔眼の実験も行った…

【ではこれで私の役目もひと段落かな？アキラ】

デウスの元本部の調査、解析…そして追加の武田容疑者の事件など…

この武田容疑者は甲斐道那岐…彰人にとって大事な弟分を雇っていて殺そうとしていた犯罪者だったので、処分では無く遺族へ不足分の保険金の支払いに従事させたいと頼まれたので…少し遅くなってしまう。

「そうね〜レプ先生と別れるのは辛いけど…また来てもらっていい？」

【それは彰人に言って欲しい…だが緊急の時はその限りでは無い】

「ありがとう〜じや、またね」

菅生アキラは手を振る。

「また来なよ〜」

八賀裏もまた手を振る。

【では失礼するよ2人共…門開放】

黒い球体が現れるとレプリカはそこに入っていつて消えた。

「さて仕事しますかー！」

菅生と八賀裏は次の仕事に取り掛かる…

公安の仕事はデウスだけでは無いのだから…

第42話 女子会

【ただいま彰人】

黒い球体が現れたかと思うとその中からレプリカが現れる。

「おかえり〜レプ…どうだった、そっちは？」

俺の横に來ると

【ああ〜彰人に頼まれた追加案件も終わった】

「…あれ？レプってそんな喋り方だったか？」

【アニメの声のサンプリングを真似て喋り方も研究した】

「そうか…ああ紹介するよ…みんな〜レプリカが帰ってきたよ」

居間に戻るとフルメンバーが揃っていた。

「あ、レプおひさ〜」「レプちゃん、おか〜」「レプお帰り」

杏、華鈴、冥耶が挨拶する。

【ああ〜ただいま…それと…】

那美、那岐に向き合うと…

【初めまして〜甲斐道那美さんと甲斐道那岐さん…私はレプリカだ〜よろしく頼む】

「初めましてレプリカさん」「よろしくなくレプリカ」

【よろしく甲斐道姉弟】

「さてこれで本当のフルメンバーだなく杏は体調大丈夫か？」

「うん〜大丈夫だよ」

「よし〜まずは那美と那岐は、10階層の階層主ゴブリンキングを倒せば11階への道へ進めるから…そうすれば12階層行けるし本格的に探索もできる」

話としてはそれで決定して、2日後に斑鳩ダンジョンに潜る事になった。

その日はそのまま会議は終了し解散となった…

俺は部屋に戻り、那岐も疲れたのかさっさと部屋に帰って寝たようだ。

居間に残った女子達は…

「乾杯！」

女子会を始めてしまったようだ（後で聞いた話）

まあ杏と那美、華鈴（この前20歳になったようだ）は二十歳を超えてるのでお酒は大丈夫だが冥耶はまだ19歳なのでジュースだった：らしいが：

「那美く彰人とは幼馴染だつて話だけどき：昔はその：浮いた話と言うか：そのく」

「つまり華鈴は彰人と付き合ってたか？とか彼氏彼女とかく恋人とかになった事あるのかくつて聞きたいらしいね」

冥耶は華鈴の言い難そうにしていた話題を振り、華鈴は余計な事をつて顔で冥耶を恨めしい顔で見つめる。

冥耶はそんな事は無視して那美に聞く：

「そうねく彰人と私は：幼馴染：悪友かなく同士と言うか：旨い表現が無いな：少なくとも付き合つてはいないなくつてか彰人には恋愛は難しいかもね：昔の事を引き摺っているし：」

「そう！そう言うの聞きたい!!」

華鈴は食い気味に那美の言葉を次を催促する。

「言つて良いのかな？：まあ良いかく本人も最早どうでもいいはずだし：」

那美も酒が進んでそれほど酔つてはいないが、どこか昔話をしたくなつたつて雰囲気：

「中学生の頃の出来事だけど：彰人に告白した女子がいてねく当時はウザイくらいに自慢されたけど、学年でも可愛いつて有名な子だったから：でもねく嘘告だったのよね。」

「ひどい」

「でく彼女の仲間と一緒に笑われて、落ち込んで不登校になつて：3日経つて流石にムカついた私が首根っこ掴んで学校に連れてつたのよねく中学生の頃は私には逆らえない程には気が弱かつたし：でも

やはりあいつ等が絡んできてね」

「そう言う奴いるわ」「性格悪いよね」「カムイクン可哀そう」

華鈴、冥耶、杏はそれぞれ感想を言う。

「流石に私が首根っこ掴んで連れてたからね…良い度胸だと思ったわ
〜思いつきりその女の顔面に拳を叩きつけたわ〜当然、あいつの仲間
達が私に反撃を仕掛けたけどね〜多勢に無勢だけど、彰人が切れて私
と2人でフルボッコにして先生に止められるまで殴り続けたわ♪」

「…そ、それで？」

華鈴達がヒキ気味に聞き返す

「まあ当然、先生に怒られたけど、うちの親も彰人の親も話を聞いて、
一応私達を叱ったけどね…でも何故か学校側からの停学とかの御咎
め無しで…」

「え？大丈夫だったの？」

冥耶は不思議そうに聞く。

「それが有名な回復スキルの探索者さんが、偶然この近辺に来ていて
しかも連中を回復したそうなのよね〜どんな経緯で話があったのか
分からないけど…」

「でもね〜当然、連中とはこれでお終いにはならなくてエスカレート
したなく罨に嵌められて20人くらいの連中の不良仲間に囲まれて
…2人でフルボッコにして返り討ちにしたわ」

「返り討ち？」

「私が1人でお使いに行ってた時にね〜まあ流石に1人では勝てない
とは思ってたけど彰人が助けに入って、師匠が木刀を私に渡ってきて思
う存分やりなさいって…師匠は高みの見物で無謀にも向かっていつ
た不良は言うまでもなく師匠に指導されていて…」

「はは〜彰人の師匠さんって結構過激ね」

冥耶は師匠の行動に驚きつつ

「私達も流石に怪我したけど…事が終わった後、師匠が後は任せてく
れって言って私達を帰らせた後、連中はその日を境に学校に来なくな
ったのよね…先生と親に聞いても教えてくれないし〜師匠は悪行
は自分に帰る…とだけ言って教えてくれなかったのよね」

「まあその後、師匠の妹さん…カオルさんが教えてくれて…何でもアノ連中、私達だけでなく色々な人たちに、結構酷い事をしていらしくて前から問題になっていて学校も頭を悩ませていたらしくてね…連中の親が色々アレだったらしくて…」

「アレって?」

華鈴は気になって聞き返す

「政治家関係とか反社関係とか…どういう手段か分らないけど、もうこっちには帰れないから安心してって教えてくれてね。」

「師匠さんがなんかしたんですかね?」

杏は師匠が裏で何かしたのかと気になったようだ。

「そうだと思う…師匠は昔から不思議な人だったから…」

「その師匠に弟子ありだね…彰人のお節介って師匠譲りなのかも…」

そう言いつつ華鈴は俺達の過去話を肴にしてお酒が進んだと事

…

…とまあ俺の過去をバラした話は後になって知ることになったが…

大変楽しい女子会となったようです。

第43話 デウス残党の暗躍とスキル検証

「頼むよ…ボス…悪かった…こ、殺さないでくれ！」

見窄らしい格好の男が膝をついて懇願する…

「勘違いするなよ、俺はもうボスじゃない！…全くお前達のせいでデウスは壊滅した…お前達の悪事も俺の目的の為、目をつぶっていたが、なくまさかデウス発祥である最初のビルを爆破して部下を道連れに殺すというような愚かな真似をして…命乞いか！」

男はかなりの怒号を吐きながら見窄らしい男へ告げる。

「あの爆発は俺じゃ無い…です…アレやったのは…くえっー!!？」

首を掴まれ話しを続けられない。

「ああ…お前は爆弾を設置してない…爆弾設置したバカはいずれな…だがデウスの名前を犯罪組織として知らしめて、公安に知られた行動はお前の不注意だな」

「ぐっう…あ…」

首を掴んでいたせい、か泡を吹いて気絶したようだ。

「アイツとの約束だから殺さずに公安に渡す…俺の罪はその全てを終えてからだ…」

気絶した男に手錠と猿轡をかけて首根っこ掴んで引き摺る。

「妹が生き返って助かるのならデウスなど…」

男は吐き捨てながら気絶した男を連れて行く…

*

『菅生リーダー、目標発見！』

『了解！そちらに人員を送るので待機していて…』

『了解です！』

「こいつがデウスの幹部なの？国木田？」

「ええ…忘れもしませんよ…この顔は…」

「そう：気持ちには分かるけどバカな真似はしないでね」

「ええ分かってますよ：コイツには自分のしてきた事の責任を取らせたいですから…」

「そう：分かってるならいいわ：連行して！」

国木田と同僚が男を連行していく…

「連絡くれた人はいないのね」

八賀裏は周辺を見ながら菅生に聞く。

「そうね：これで4人か：後、何人いるかしらね」

「捕まえた幹部連中は、3人共に調書じゃ色々喋ってくれるけど：肝心のボスや参謀の情報はイマイチ一致しないのよね」

「こういう時、レプ先生がいれば：はあく全く頼り過ぎね」

魔眼を使っても有益な情報は得られなかった。

「にしてもゼウスの前身在犯罪組織では無く、ダンジョン被害者救済から始まった寄合だったなんて聞くとやるせないわね」

「組織まで大きくなる間に何があったんだろうね：その辺も当時の記録に残ってる寄合の頃のメンバーとか調べようかしらね」

「冗談じゃないわよ：どんだん近づいているわよ：どうするのよ?!」

「ボスを怒らせる事をした張本人が：俺が匿わなかったら既に公安に捕まってるぞ：いやボスに…」

「ねえ：なんとかしてよ！私はあるあなたの指示で動いていたのよ！」

「だがスキル切除手術後の本体を好きにして良いとは誰も言っていないぞ：全く：まさか俺の知らない間に臓器摘出に売買、そして変態に売ったりとか：ボスが怒って当たり前だな」

「…だって：そりゃ：仕方がないじゃない！欲しがる変態による需要と自由になる本体による供給よ：少しは旨味が無きややってられないわ！」

悪びれる事なく言い放つ…

やるならバレないようにやれと心の中で毒づくが…

「何とか逃げ切るか？代わりになるモノを差し出すか…」

「代わりになるものって何？」

「例えば…前に会議で話題になったコスプレとか…」

「コスプレ…あくあの訳分からないスキル持ちね」

「ボスはその力に興味があったみたいだから…あのスキルを奪ってボスとの交渉材料としては、ありなのかもしれない」

「最近、あの連中はデウスレイヤーズなんてふざけた名前で活動してるわね」

苦々しい顔で呟く。

「とにかく調べてみよう…行くぞ」

2人は暗闇に消えていく…

そろそろ寝ようとした時にスマホが鳴り…

菅生さんからだった。

『はい…はい…分かりました…すぐに派遣します…では…』

電話を切ると俺はレプリに…

「レプリ…菅生さんからご指名だよ…幹部を捕まえたが、なかなか一筋縄ではいかないらしくて…」

「私は構わないが…こちらの方は大丈夫か？」

デウスの動向が分からない以上心配するのは当然だろう。

「そうだな…引き続き警戒するつもりだがデウス自体が壊滅してるし、早く解決したいからな…何かあれば連絡する」

「分かった…気をつけてな…門オープン！」

空中に黒い球体が現れるとレプリカはその黒い球体に入っていく…

ピロピロピロピロピロピロ

アラームが鳴る…

いつも7時には鳴る様にセットしてあるスマホから鳴る…眠気眼で画面のOFFボタンを触って止める。

居間に行くと…ん？酒臭い…普段飲まないから余計にアルコール

の匂いには敏感だ。

キツチンに行くとき冥耶と那岐が朝食を食べていた。

「おはよう〜」

俺がそう言うとき

「おはよう〜」

2人も返事をする。

冥耶は用意していたのか空いてる席の前に皿を置く…

「そろそろ起きてくると思ってたけどリーダー食べる?」

「ああ〜すまん…おおくベーコンエッグサンドだ、ありがとうな冥耶…」

「ついでだし別にいいわよ〜」

俺はいただきますと言いきり食べ始める…

食後…

「あれ?他の3人はどうした?」

「あ〜あの3人なら二日酔いだよ」

「え?…まあダンジョン攻略は明日だしゆっくり休めばいいから冥耶と那岐は今日の予定は?」

「私は特に予定無し」

「俺も特に予定無いよ〜兄貴は?」

「うん…スキルの検証をしようと思ってるな」

「スキルの検証?」

「ああ…ドラゴンボールの神様のスキル【神殿転移】【天界転移】この2つの検証をしようかと〜なんせ神殿転移は何となく分るが天界転移の意味が分からないからな…」

「神殿ってドラゴンボールのあの空中に浮かぶ神様の神殿?」

「神殿と天界って違うの?」

「それを調べるんだよ」

「俺は暇だから付き合うぜ兄貴」

「私も興味あるからリーダーに付いていくわ」

と言う訳でスキルの検証をする事に…

第44話 神殿転移と天界転移

【神殿転移】

二日酔いの3人は留守番…冥耶と那岐の2人が俺に付いて来てくれた。

早速、神様のスキル神殿転移で飛ぶ…

ヒュン！

転移で到着した場所は目の前に建物があつたが…

「ねえ…ここってドラゴンボールに出てきた神殿…じゃ無いじゃん」

「確かに床と言うか地面は円形なのはそっくりだけど建物の形はギリシャの昔の建物みたいだよな？」

那岐と冥耶の言う通り…

気になって武空術で空を飛んでみると確かに空中に浮かぶ半球の上に建物が建ってるのは同じなんだけど、ドラゴンボールに出てくる建物とは違いギリシャ神話に出てきそうな建物で構成されていた。

スマホで写真を撮り2人に見せると「違う」との見解は一緒だった。

「ドラゴンボールなら神殿にはアノ人いないの？」

「ミスターポポね〜」

ミスターポポは神様の付き人みたいな役割の人物で確かにここがドラゴンボールの神殿ならいると思っても間違いではない…

だが建物が違う時点でいらない可能性も高い…

「とりあえず中に入ってみよう〜何か分るかも」

俺がそう言つて建物に近づくと…

突然目の前に光が発生して人型へと変わっていく…

「みんな注意しろ！」

何が現れたのか？

光が収束してはつきりと現れる…

『警告…ここを神の神殿と知つての侵入か？』

流暢に喋る金髪の綺麗な女性…天使みたいに翼は生えてないが天使と言われても納得できる〜その女性がふわふわ浮かびながら警告してくる。

つてかゝ神の神殿?!

本当の神の神殿って意味か?

神様って本当に存在したのか?

うゝ神様に嘘を言ってもバレるだろうし正直に答えるか?

「自分の名前は神宮寺彰人です。ここに来たのは自分のスキルで転移してきたからです…こちらの女性が冥耶・ハミルトン、そしてこちらが甲斐道那岐です」

『スキル?…あなたの力を見せてもらいます』

女性は手を俺に翳してスキャンしているような…

ほんの10秒ぐらいか

『確認しました…確かにそのスキルならここへの侵入も可能…あなた達に悪意は無いようなので不問にします』

へ?はあ…良かった、どうやら許されたようだ…

「あ、ありがとうございます…」

『それでは後は神の代行者が代わりに案内します。』

と言った瞬間に女性が消えて男性?少年が代わりに転移してきた。

「初めまして…私は神の代行者…シンとでもお呼び下さい。」

少年…年齢的に高校生ぐらいで雰囲気はドラゴンボールに出てきたトランクスに雰囲気似ていた。

黒髪なのと背中 of 剣が大太刀の違いだけ…

「初めまして神宮寺彰人です」

「先程のやりとりは見せていただきましたくどうやら天界転移もあるようですが、まだ使っていないようですね」

「はい」

「使ってみてください…私はここであなた達をトレースして追いかけますので…」

「え?…ああ、分かりました。2人とも俺の手を取ってくれ。」

冥耶と那岐は俺の手を取り…

【天界転移】

俺達3人は神殿から消えて…

次に現れたのは…

そこはさつきの神殿と違い空中に浮かぶ未来的なデザインで、しかし花や木や植物などで彩られて…

しかも天使や神様の様な格好の人達…いや天界と言われるのに相応しい存在がいた。

そんな中で制服を着ている職員的な格好の方達も見えて天界とは不釣り合いな雰囲気もある。

「ようこそ天界へ…こちらへどうぞ」

そう言うとシンは俺達をテーブルのある空間に案内する。

「どうやらあなたのスキルは本物のようですね…ただあなたはその力を使いこなしてない様子」

「はい、そうですね…使いこなしてはいませんね」

「しかしその力が宿るという事は、あなたには天界と縁がある存在と言えますね」

「…（天界と縁か…）」

「さて飲み物をどうぞ」

そう言うとはもまない空間からコップが出されて既に中には透明な液体が注がれていた。

「天界の水です…どうぞ遠慮なく…」

俺達はコップを受け取りシンは毒見役なのかそのまま飲んで安全をアピールしたのでそれぞれ飲むのだが…

「?!?!」

何だこれ？水？…冷た過ぎず温くも無く…飲むと身体に染み渡る…神の水？

「兄貴…これ…何？水？」

「美味しい…何か身体に良いのは凄いい分かる！」

「天界の水です…浄化された水ですから身体に良いですよ」

俺達が落ち着いたところで…

「さて、ここでの話はご自由にしてください…秘密にしてもいいですし誰かに喋っても構いませんよ。」

「え？喋っていいんですか？」

俺達はお互いの顔を見ながらシンの言葉に驚く。

「どのみち信じてくれる人はいないでしょうし…信じたとしても極少数でしょうし…」

シンの言葉に嘘はない…ってか嘘看破が働かない？

そう言えば神殿で会った女性とシンから危機感知が発動しなかったが…何故だ？

「多分、認識阻害、偽証など様々なスキルは私も勿論、天界にいる者には通用しませんので…神宮寺君がレベルを上げていけばその限りではありませんが…」

「え？俺の考えてる事が筒抜け？」

「曲りなりにも神の代行者を名乗りますから念話でも大丈夫ですよ」

「あの…シンさんって代行者と言うぐらいですから普通の人なんですよね？」

冥耶はシンの正体が気になる様だ。

「はい、普通に日本で高校生をしていますよ…ただ既に別世界で40年程、冒険や討伐していますから肉体年齢は16歳ですが…精神年齢は50以上は超えています。」

「精神年齢？」

「元々私は勇者召喚システムで選ばれた者でして…異世界転移で5回程、世界救済を行い、魔王討伐等数知れず…今は宇宙魔族討伐が主でたまに勇者のサポートを行うぐらい…」

勇者召喚システム？

異世界転移…世界救済…魔王討伐…

宇宙魔族って何？

勇者のサポート…

「ああ…すいません混乱してしまいますね…簡単に言うと…」

「お疲れ様、シン…彼らが神殿に侵入した方達かしら？」

そこには金髪美女と言って良い存在が急に現れた…天使？神様？

しかし格好はさつき見た職員みたいな制服を着ている為、天界では無ければ綺麗な美人さんに見えるが…

「あ…お疲れ様です。皆さんこちらは私が仕えてるアルテミス様で

す。」

「この天界でアルテミスを名乗らせてもらってます…よろしくね、
宮寺君、ハミルトンさん、甲斐道君！」

「アルテミス…様…？」

アルテミスってギリシャ神話の？

でも名乗らせてって…

どういう意味だ？

第45話 アルテミスの正体と世界の真実

アルテミスは悪戯を思いついた顔になって…

「全てを話すと長くなるから…圧縮したデータをあなた達に渡すわ」

そういうとアルテミスは3つの光の玉を掌から出すといつの間に俺達の額に入っていく！

「へ？」

俺達3人は一瞬で全てを知る…

この世界は一度…滅んでる

魔神と天界の神々が戦って両方とも滅んだ…

この2つの勢力の戦いはこの物質世界にも影響を与えて全ての世界が滅んでしまった…天界を除いて…

天界に残された天使達が神の意志を継ぎ、新たな次元や世界を創り出す…アルテミスと名乗った神は元天使で2代目アルテミスと名乗っている。

そして2度と魔神を誕生させない為、あらゆる措置を行い魔神の誕生の秘密を探った結果、魔神の元は魔王だと…

その為、新たに誕生した世界では魔族を根絶やしにしたが、しかし新たな問題も発生する。

魔族のいない世界では人間の中から魔王が誕生する事が判明する。人間のいない世界ではそれに変わる種族が魔王になる存在が現れる。

その為、魔族を根絶やしにするのでは無く地上に進出させない事が大事な事だと判明する。

しかし新たに誕生する世界は加速度的に増えていて広大な多次元世界の全てを対応するには天界の力だけでは足りない。

各、多次元世界に存在する巫女や聖人等の神に仕える存在へ神託を送り、または祈りを感じし、助けを求める世界へ勇者や神の代行者を派遣して魔王勢力を抑える。それが勇者召喚システムとして機能する事で世界の安定を収めてる。

ちなみに神の神殿は接触した世界の各惑星に存在していて、地上を

支配した魔族が発展して宇宙に進出することで侵略してくる勢力から守る迎撃システムとして機能している。

宇宙へ進出した魔族は宇宙魔族と呼称され各惑星を支配したり滅ぼしたりと、そこから更に宇宙魔王となる存在が現れる事を阻止する為に、天界と神の代行者が存在している世界…

「そんなことが…まるでそれじゃあ漫画のドラゴンボールに出てくる宇宙の帝王フリーザとか魔人ブウじゃ無いか!？」

創作と思っていたのはもしかして幾つもの世界で実際に起こった事を描いていたのか？

「多分、例えば世界が滅んでも元々存在していた物質の中に残留してた物が宇宙を作り星を作り生き物を作る…そして自我のある生き物である人間種の遙か昔の記憶と共に蘇る事もないとは言えない…まあ全ての創作がその記憶とは限らないけどね」

アルテミスはそう語る。

「俺達の世界…星には魔王がいないけど人間の中から現れるんですか？」

那岐が疑問を口にする。

「誕生するかもしれないし、誕生しないかもしれないわね…けどこの宇宙の何処かには魔王が誕生してるのかもしれないわね。」

アルテミスはそんな物騒な事を言う。

「今後はあなた達も天界の所属としてシン君の元に協力をお願いね、勿論今のレベルだと足手纏いだからレベルを上げてね。」

神の神殿は元々そういう強者を強化する為の修行場みたいところだから使用を許可します、天界も同様に訪問の際はシン君に連絡後に来る事を許可します…強くなりなさい…ではシン君、後の事は任せます。」

そう言うときアルテミスは一瞬にして消え去った。

「さて…」応話は終わりだけど質問はありますか？」

シンさんは嵐が去ったような何処か気が緩んでる感じに話し方が変わった…

「俺達、天界の所属って…」

「まあ今後に期待しますので強くなつて下さい…だから基本的には自由にして下さい。」

「どうやら特に干渉されない様だな…そうだ神の代行者なら…」

「あと、すいません、俺のスキルでドラゴンボール、つまり願い事を1つ叶える事ができる物を作れるんですが…何処までの願い事が叶うか分らなくて悩んでます。」

「そうですね、かなりの制限もあると思いますが人間を生き返らせるぐらいは可能でしょうね…」

見透かされてるなく流石、神の代行者…

「でも人が蘇るって果たしてそんな世界の根底が覆るような事を果たして…していいのか？俺如きが果たして問題ないのか？」

「蘇らせたくない…って訳ではなくそういう神の領域の奇跡をつて事かな…それは神宮寺さんが決める事だし、その力を使つてもしかしたら不幸になるかもしれないが全て本人の決める事だから…」

「自分で決めろつて事ですよね…」

「そうだね、むしろ羨ましいよ…」

「え？」

「自分にも生き返らせたい人がいる…だけど神宮寺さんのように簡単にはいかなくてね、少なくともそれが可能ならするべきだと思うよ」「どなたか復活させたいんですか？」

「勿論、君のドラゴンボールの力では不可能な復活だけだね…いまだに模索中だよ。」

それってどんな…いやそれは聞かない方がいいか…

「分かりました…もう少し考えてみます」

「それが良い…」

こうして天界での出来事は終わり家に戻ることに…

今後はシンさんを通じて天界とも行き来できるようになる。

「では失礼します、シンさん」

「3人共、気を付けて…」

【転移】自宅（豆レプ）

自宅に戻ると…

まだ明るいと言うより…

「兄貴…まだ午前中だ」

「え？」

ふと持ってたスマホを覗くも確かにいまだに午前中であった。

「確か天界って時間が進まないとか言ってたわね」

冥耶は不思議そうに呟く。

「てか本当に天界行ったんだな…」

「夢じゃないよね？兄貴…」

「まあ同じ夢を見る訳ないからな…」

「リーダー…」

「ん？何？」

「華鈴達にはどう説明する？」

「そのまま話せば良いとは思うけど…」

居間に入ると華鈴、杏、那美の3人が二日酔いでまだ調子の戻らない状態でぐったりしていた。

第46話 斑鳩ダンジョン10階層主部屋

「ただいま」

「お：かえり：」

二日酔いの酷いやつだなくこれは…

「どこか行ってたんですか？」

杏はそれでも比較的酷く無いようで俺達の動向が気になったよ
うだ：華鈴がかなりヤバイ雰囲気醸していた。

「それがスキル検証でね：神殿と天界に行ってたよ。」

「シンデン：テンカイ：って何ですか？」

簡単に説明して神の神殿へ行ってそこで本当のこの世界の神様に
会ってこの世界の真実を聞いてきたと…

当然3人共に胡散臭そうな目で心配してきた。

「本当だって姉貴！アルテミス様に会ったんだって！」

「：にわかには信じられないけど：那岐が言うなら：頭痛っ…」

那美は頭が少し痛むのか頭を抑えて会話が続かない…

「大体：その：神様って：うう気持ち悪…」

華鈴もこれ以上会話が続かない…

「3人共：これでも飲みなよ」

アイテムボックスからコップを3つと水筒を出してコップに水を
注いで与える。

3人は受け取ると「ありがとう」とコップの水を飲む。

「ゴクッ…」

「んっ!!!」

「???何これ？」

3人はびっくりした顔で俺を見る！

さつきまで苦しんでる3人が突然水を飲んだらまるでさつきまで

二日酔いが覚めた感じに見える。

「それは天界の飲料水だよ」

実は帰る際、シンさんに頼んで水を貰った：なんでも天界の水は浄
化されてるから体力の回復はできないが身体の軽い不調なら回復で

きるらしい…

3人は顔を合わせて更に水を欲しがったので残りを公平に分けて3人は、ちびちびと味わう様に飲み干していた。

とりあえず天界の話は俺達を信じてるから信じると言う話になり、またの機会に神殿や天界へ行くことにする。

「で…その天界の所属ってのはどうするの?」

華鈴は今後の立場が気になったようだ。

「シンさんの話だと今のところは特に言っていないね…どうやら俺達のレベルは低いそうだし…」

「じゃあひとまず天界の話は置いておいて…ドラゴンボールの検証はどうするの?この前言ってた巻島さんの妹さんを復活させるって話だったよね?」

「一応、問題無いとは言ってたな…(もつともそのせいで不幸になったとしても…とか言ってたがアレは何か知ってるのか?)」

「巻島さんといまだに連絡が届かないから暫く放つとこう」

メッセージアプリには既読すら無いから電源が入って無いかワザとか?まあ忙しいようだからその内に連絡が来るだろう…

「明日は斑鳩ダンジョン潜るでいいのよね?」

「そうだね〜予定通りにしよう」

明日は久しぶりのダンジョン攻略だな!

「前衛は俺と華鈴、中衛は杏と冥耶、後衛是那美と那岐…後ろからエネルギー弾で支援〜疲れないからって撃ち過ぎるなよ…中の身体は違うから気をつけて!」

「了解!」

「いくぞ!」

「おお!!」×5人

斑鳩ダンジョン10階層の階層ボスの部屋に突入する。

那美と那岐は11階層へ潜る為には10階の階層主であるゴブリンキングを討伐する必要がある…

階層主の部屋には扉が無く中には何も無いように見えるが、那美と那岐の後衛が扉に入ると…部屋の模様が変わり扉が現れて目の間の高台には玉座が現れて、ゴブリンの群れ達が出現する。

当然、玉座に座るのはゴ布林キング…

左右にはゴ布林シャーマンとゴ布林プリースト

ゴ布林ロード1体、ゴ布林ナイト4体、ゴ布林アーチャー2体、ゴ布林ウォーリアー2体

計12体

俺は迅悠一、華鈴は小南桐絵、冥耶は烏丸京介、杏は雨取千佳、那美は人造人間18号、那岐は人造人間17号の編成で挑む。

しかしすぐ戦闘では無く、魔法職のシャーマンが攻撃力アップ、プリーストが防御力アップの補助魔法をゴ布林チームへ全体にかけていく…

実はこの間に攻撃してもまだ実体が安定してないのか攻撃が当たらないようで前回、杏にアイビス(D)で攻撃したが擦り抜けてしまった。

ゴ布林キングが雄叫びを上げると次元が安定して攻撃が当たるようだ。

だから攻撃はできないけど雄叫びを上げる寸前に直撃させる為に…

「杏いきますー!」

【追尾弾+鉛弾(D)】スタンバイ!

ブオン…

杏の上に紅い立方体が浮かぶ…

そして…

【先読】で雄叫びを上げる瞬間を見る…

「杏GO!」

俺が合図を送る!

杏は視線誘導でゴ布林ウォーリアー達へ放つ!!

俺は足に意識を集中して

【エスカード】×5枚

3 m×3 mぐらいの壁が床から生えて、それが5枚隙間なく生えていく…

ガシャン!!!!

ウォーリアー達とロード達のいる空いてる空間に壁を生やす!

《○○○○○○○○○○○○○○!!》

ゴブリンキングの雄叫びが響く!

しかしロード達は壁で視界が閉ざされてウォーリアー達と分断される。

ドツドツドツドツドツ!!!

同時に追尾弾+鉛弾の直撃で円柱を身体から生やすウォーリアー達…

1個200kgの円柱がゴブリン達の身体や辺り周辺に生み出される。

ウォーリアーは立ち上がろうとするが2個で400kg、3個で600kgは最早寝返りすらできない。

アーチャーも1個喰らって完全に立ち上がれない。

【スコープイオン】

【双月】×2

そこを俺と華鈴で止めを刺す…

まともに戦えない状態で魔石になって消滅していく…高台のキングには少し様子が分かるのか?

ロード達を抑えてるのか?

それともパニックになっているのか?

もしエスクドを乗り越えようとしたり横から出てきた場合は、杏と冥耶、那美、那岐が射撃で応対する予定だったが…まずはフェイズ1は終わり!

【先読】

「はい予測確定」

【シールド】

シャーマンの火球の魔法を予知した俺は放った直後に目の前にシールドを発生させて至近距離で爆発させる。

ボン！

《gyaaaaaaあー!?》

シャーマンは自らの魔法で燃え上がる！

俺と華鈴はすぐ様、下がりながら俺はエスクードを解除する。

壁が無くなりロード達は俺達を視認すると襲いかかってきた：

…が遅い！

【炸裂弾（デストロイ）】

杏が放つ巨大な立方体が俺の横を掠めてロード達に飛んで直撃！

【エスクード】×2

ガシャン!!

俺と華鈴の前に壁を発生させて爆発を避ける。

ドッーゴオオオン!!

だがロード達は爆裂した中心にいた為、モロに爆発を喰らう!!

《グギャアアア》×5

しかし流石ロードとナイトだゝ防御力が半端無く強い為かまだ生き残ってるようだ：

再びエスクードを解除して動けなくなってるナイトをスコルピオ
ンで切り裂く！

《グキヤ?》

連結！

【双月（斧）】

巨大な斧で動けなくなってるゴブリン達の胴を薙る!!

《グゴオアー!?》×3

3体のナイトの胴が真っ二つになって魔石になって消える。

しかしロードはバックステップしてまだ体勢を整えて盾を構える
…そしてプリーストが近付き回復しているようだ。

まあいいか、フェイズ2！

シャーマンとプリースト、ロードがキングから離れていたから、三
度目の：

【エスクード】×3

ガシャーン×3!!!

『華鈴、後は任せた！那美、那岐、キングだ!!』

『了解!!』×5

キングとロード達の間には壁を発生させて分断してようやくキングの元に俺と那美、那岐の3人で挑む！

ロード、シャーマン、プリーストは華鈴達に任せる…

「フェイズ！ファイナル!!」

迎え撃つゴブリンキングといよいよ対峙する。

第47話 対ゴブリンキング戦

エスクードで壁を作って分断成功

俺と那美と那岐でゴブリンキングに挑む！

《mtgjpadmjwkhadnerkmeotgpgad》

ゴブリンキングが何やら喋っているが…あいにくとゴブリン語は取得してないから分からない。

「那美、那岐いくぞー！」

「OK！」

【スコルピオン】

俺は右手で鞭の様に細長く伸ばした刃でキングの首を狙う。

シャキン！

カキン！

当然、嫌がって盾を動かして刃を反らす…

ゴブリンキングはその攻撃が気に食わないのか…俺をターゲットとして剣で攻撃してくる。

ブーン！ブーン！

一度は急所に当たってもトリオン体が解かれるだけだし【先読】で攻撃の予測も付くからだの大振り of 攻撃に過ぎない。

それに敵は俺だけで無い…

【ユニゾンダンス】

エスクードで壁を作って分断成功

俺と那美と那岐でゴブリンキングに挑む！

《mtgjpadmjwkhadnerkmeotgpgad》

ゴブリンキングが何やら喋っているが…あいにくとゴブリン語は取得してないから分からない。

「那美、那岐いくぞー！」

「OK！」

【スコルピオン】

俺は右手で鞭の様に細長く伸ばした刃でキングの首を狙う。

シャキン！

カキン！

当然、嫌がって盾を動かして刃を反らす…

ゴブリンキングはその攻撃が気に食わないのか…俺をターゲットとして剣で攻撃してくる。

ブーン！ブーン！

一度は急所に当たってもサイオン体が解かれるだけだし【先読】で攻撃の予測も付くからただの大振りの攻撃に過ぎない。

それに敵は俺だけで無い…

【ユニゾンダンス】

人造人間17号、18号の姿でキングに迫る那美と那岐

スキル発動と同時に17号の影に隠れるように重なって1人にか見えない。

しかし身体を揺らして攻撃を行う那岐はパンチを！

那美是那岐の頭越しにジャンプしてハイキックを！！

頭では認識している人数だが突然、影から躍り出る攻撃に防御が追いつかないゴブリンキング

その隙に俺は後ろに陣取ろうと動くところを意識するも、那美と那岐のどちらから来るか分からない攻撃で意識が三分される。

そして駄目押し！

【分身】

俺はピッコロ大魔王のスキルで身体を分けると通常の探索者の格好の俺が現れる。

【キャラインストール】三雲修

新しく追加したワールドトリガーの主人公の1人、ボードアの玉狛支部所属の隊員で、玉狛第2（三雲隊）の隊長。

衣装が揃ったのでキャラインストールしたが…

三雲修

射手士（弱トリオン、封へ■）

M ☆レイガスト、スラスター、空き、☆スパイダー

S ☆通常弾（弱）、空き、☆シールド（弱）、☆バググワーム

（☆緊急脱出、☆トリオン戦闘体）

(ユニット起動、封へ■)

ギフトが弱トリオン：ワールドトリガーにおいてトリオン量が一つの目安でその中で弱トリオンが表示されていて調べると、原作再現でトリオン弱者で弱い設定：

雨取千佳のトリオンモンスターやデストロイとは対照的な弱さ：

しかしこの弱い主人公が自分の弱さを知り成長していく姿が人気でキャラ投票で1位を取り続けている。

それに弱いと言っても戦えない訳ではないから：

【レイガスト (盾モード)】

左手に盾モードのレイガストを展開

【通常弾 (弱)】

右手から小さい立方体を分割して弱トリオンの弾がゴ布林キングへ向けて撃つ！

ドツドツド！

ボツ！

《グ…》

肩に1発当たり苦痛に歪むキング！

【スパイダー】

三雲修が小さい立方体を3個程、ゴ布林キングの足方面に投げると床に当たった瞬間、立方体からトゲとワイヤーが伸びて床とキングの足に刺さる。

《グギ!?》

本来はワイヤーを貼る補助的なトリガーだが、逃げる敵を逃がさない様にしたりできる。

【スコープオン】×2

足を止められたゴ布林キングに対して迅悠一はスコープオンを出っ張りのある三刃手裏剣の形状にして下手投げで投げる。

しかし投げた方向はゴ布林キングのいない方向：

その為、一瞬その手裏剣から目を外すキング

ギャリ！

手裏剣を投げた直後にもう一つのスコープオンを細く長く湾曲してる状態で同時に放つ！ギャリという音ともに出っ張りに引っ掛けで強引に軌道修正をする。手裏剣はゴブリンキングの顔に向かって方向を変える。

シュバー！

方向を変えた手裏剣に気がついたキングは首を動かして顔だけを逸らすと顔に傷が入るが浅い：

しかし隙を作ったのは痛かった：

那美と那岐は一気に

【アクセルキック】

那美は下段で発動して低空から脚を狙い

ドゴン！

【アクセルパンチ】

飛び上がって空中で捻りながら裏拳で顔面を狙う！

ガコン！

2発同時に喰らって体勢が崩れて膝をつくキング

三雲修は

【レイガスト（剣モード）】

盾が両手剣の様な形状に変化！

+【スラスター】

レイガストの剣モードで思いつきりゴブリンキングの盾に目掛けてスラスターを発動。

加速度が増した切っ先が盾に炸裂する！

ドゴン！

衝撃で盾を落とささないが完全にこちらのペース

那美、那岐はお互いに背中合わせで

【パワーバレット】×2

バシユーン！！

ドゴン！

《グキヤ?!》

盾を構えられないキングはモロに2人のエネルギー弾を喰らう。

《グアア…》

ドサツ…

そして倒れるゴブリンキング…

そして肉体は消失しつ大きな魔石を残し…いやドロップアイテムもある様だが…

回収は後にして華鈴達の加勢へ向かう。

エスクードを解除して仲間の元に向かうと…

華鈴達も一息ついていた様だった。

「そっちも終わったか」

「ええ」

全てのゴブリンの消失と同時に景色は、再び扉の無い部屋となり高台の玉座が消えて宝箱が現れる。

冥耶は罫が無いことを確認して宝箱を開けるとゴブリンキングの使った盾が見つかるがうちには盾を使う人がいない為、売却アイテムになる。

さつきゴブリンキングが落としたドロップアイテムはゴブリンキングの剣だったが…

当然使う予定は無いので盾と同じく売却へ…

前回のゴブリンキング戦は3体倒すとキングが動き出して統率の取れたパーティーになるので本来は戦略を立てていかないといけない。

一度戦ってパターンが分かっていたので然程、苦労しなかったが…もし特殊スキル使う敵ならこうも簡単に倒せない…この階層の敵はパーティーによる戦いがメインで単体に分けれるエスクードで壁を作って各個撃破したのが大きい。

今後も使える戦術として利用しよう。

とりあえず10階層ボス攻略終了となる。

【分身解除】

三雲修が消えて迅悠一へ却っていく。

【範囲回復】

俺は神様のスキルで仲間達の回復…

【臨時接続】

杏が俺にトリオンを供給してくれて回復してくれる。

「リーダー、烏丸京介のスキル上がったよー」

冥耶からの報告を受けてスマホでステータス確認する。

烏丸京介 万能士 Lv10

M 弧月、アサルトライフル、変化弾、シールド

S エスクード、未へガイスト戦闘体、空き、バツグワーム

(緊急脱出、トリオン戦闘体)

(起動ユニット、未へガイスト戦闘体)

やはりスキル解放ガイスト戦闘体だった烏丸京介…

ガイスト戦闘体は木崎レイジのフルアームズと同じく、玉狛支部独自のカスタム化されたトリガーの一つで、トリオン体の安定性をあえて崩して武器や手足にトリオンを流し込んで強化する。

トリオン体への負担が大きいため起動すると不安定なトリオンが漏れ出し始める。剣、銃、速、防などの自分で戦闘中に調整が可能。

【クリエイト】ガイスト戦闘体

ポイント1消費してガイスト戦闘体を作成する。

これで玉狛第1メンバーは迅悠一を残してスキルカンストした。

さて次はどのコスプレをスキルレベル上げるか？